

# 国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2011年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養科目 ■人間力	入門ゼミ 全学科 全教員 (○各学科長)	1学期	1	1	1
	心と体の健康学 高西 敏正 他	1学期	1	1	2
	職業と人生設計 見舘 好隆 他	2学期	1	1	3
	日本語の表現技術 池田 隆介	1学期/2学期	2	2	4
	哲学と倫理 森本 司	2学期	2	2	5
	ジェンダーと日本語 水本 光美	2学期	2	2	6
	工学倫理 辻井 洋行 他	1学期	3	2	7
■人文・社会	技術経営概論 佐藤 明史 他	2学期	3	2	8
	芸術と人間 松久 公嗣	1学期	1	1	9
	経済入門 中岡 深雪	1学期	1	2	10
	アジア地域入門 戴 二彪	2学期	1	2	11
	文学を読む 白瀬 浩司	2学期	1	1	12
	法律入門 櫻井 弘晃	2学期	1	2	13
	文明社会 菊地原 洋平	1学期	2	2	14
	経営入門 辻井 洋行	1学期	2	2	15

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養科目 ■人文・社会	アジア経済 中岡 深雪	1学期	2	2	16
	心理学入門 永江 誠司	1学期	2	2	17
	国際関係 千知岩 正継	2学期	2	2	18
	比較文化論 長 加奈子	2学期	2	2	19
	知的所有権 木村 友久	2学期	3	2	20
	企業研究 辻井 洋行	2学期	3	2	21
	地球環境概論 伊藤 洋 他	1学期	2	2	22
■環境	リサイクルシステム論 大矢 仁史 他	2学期	2	2	23
	環境計測入門 山本 郁夫 他	1学期	2	2	24
	環境問題特別講義 二渡 了 他	1学期	1	1	25
	生物学 原口 昭	1学期	1	2	26
	環境問題事例研究 森本 司 他	2学期	1	2	27
	生態学 原口 昭	2学期	1	2	28
	環境マネジメント概論 松本 亨 他	2学期	2	2	29
	環境と経済 加藤 尊秋	2学期	2	2	30

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養科目 ■環境	環境都市論 松本 亨	1学期	3	1	31
■外国語科目	英語コミュニケーションⅠ 長 加奈子 他	1学期	1	1	32
	TOEFL/TOEIC演習 長 加奈子 他	1学期/2学期	1	1	33
	英語コミュニケーションⅡ 長 加奈子 他	2学期	1	1	34
	英語コミュニケーションⅣ クレシーニ アン 他	2学期	2	1	35
	英語リテラシーⅠ 柏木 哲也 他	1学期	2	1	36
	英語リテラシーⅡ 柏木 哲也 他	2学期	2	1	37
英語コミュニケーションⅢ クレシーニ アン 他	1学期	2	1	38	
ビジネス英語 長 加奈子	1学期	3	1	39	
科学技術英語 岡本 清美	1学期/2学期	3	1	40	
英語表現法 柏木 哲也 他	1学期	3	1	41	
英語リテラシーⅢ プライア ロジャー 他	2学期	3	1	42	
■工学基礎科目	一般化学 秋葉 勇 他	1学期	1	2	43
	微分・積分 山本 勝俊 他	1学期	1	2	44
化学実験基礎 朝見 賢二 他 開講学期に注意	2学期	1	2	45	

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■工学基礎科目	微分方程式	2学期	1	2	46
	楠田 哲也 他				
	化学熱力学	2学期	1	2	47
	上江洲 一也 他				
	基礎有機化学	2学期	1	2	48
	秋葉 勇				
	基礎無機化学	2学期	1	2	49
	鈴木 拓				
	環境と科学	1学期	1	2	50
	門上 希和夫 他 開講学期に注意				
	物理実験基礎	1学期	1	2	51
	古閑 宏幸 他				
	電気工学基礎	1学期	1	2	52
	水井 雅彦				
	力学基礎	2学期	1	2	53
	山本 郁夫				
確率論	2学期	1	2	54	
高島 康裕					
認知心理学	2学期	2	2	55	
中溝 幸夫					
基礎生物化学	2学期	1	2	56	
中澤 浩二					
基礎化学工学	1学期	2	2	57	
上江洲 一也					
環境統計学	1学期	2	2	58	
安井 英斉 他					
■専門教育科目 ■専門科目	化学平衡と反応速度	1学期	2	2	59
	朝見 賢二				
	有機化学Ⅰ	1学期	2	2	60
	李 丞祐				

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■専門科目	無機化学 今井 裕之	1学期	2	2	61
	物理化学実験 黎 暁紅 他	1学期	2	4	62
	化学工学 山本 勝俊	2学期	2	2	63
	分析化学 吉塚 和治	2学期	2	2	64
	大気浄化工学 高倉 弘二 開講学期に注意	1学期	2	2	65
	有機化学実験 秋葉 勇 他	2学期	2	4	66
	反応工学 朝見 賢二	1学期	3	2	67
	分離工学 西浜 章平	1学期	3	2	68
	構造化学 黎 暁紅	1学期	3	2	69
	機器分析 鈴木 拓	1学期	3	2	70
	水質工学 楠田 哲也	1学期	3	2	71
	先端材料工学 山本 勝俊 他	1学期	3	2	72
	環境分析化学 門上 希和夫	1学期	3	2	73
	化学演習 大矢 仁史 他	1学期	3	1	74
	環境分析実習 吉塚 和治 他	1学期	3	4	75

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目	電気化学 吉塚 和治	2学期	3	2	76
	エネルギー化学プロセス 黎 暁紅	2学期	3	2	77
	触媒工学 天野 史章	2学期	3	2	78
	エネルギー資源化学 天野 史章 他	2学期	3	2	79
	地圏環境論 伊藤 洋	2学期	3	2	80
	水処理工学 石川 精一	2学期	3	2	81
	高分子化学 秋葉 勇	2学期	3	2	82
	エネルギー循環化学演習 吉塚 和治 他	2学期	3	1	83
	エネルギー循環化学実習 門上 希和夫 他	2学期	3	4	84
	化学産業技術論 飯田 汎	1学期	4	2	85
	資源循環工学 安井 英斉 他	1学期	4	2	86
	数値計算法 清田 高德	1学期	3	2	87
	環境保全学 周 国云 他	1学期	4	2	88
	生物化学 河野 智謙	1学期	2	2	89
	統計熱力学 櫻井 和朗	2学期	2	2	90

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■専門科目	分子生物学 平野 雄	2学期	2	2	91
	有機化学Ⅱ 櫻井 和朗	2学期	2	2	92
	環境政策概論 乙間 末廣	2学期	2	2	93
	微生物学 森田 洋	1学期	3	2	94
	環境シミュレーション 野上 敦嗣 他	1学期	3	2	95
	環境リスク学 二渡 了 他	1学期	3	2	96
	錯体化学 磯田 隆聡	1学期	3	2	97
	遺伝子工学 平野 雄	2学期	3	2	98
	生態工学 上田 直子	2学期	3	2	99
	環境計画学 松本 亨	2学期	3	2	100
	環境経営学 二渡 了	2学期	3	2	101
	生物工学 中澤 浩二	2学期	3	2	102
	食品工学 森田 洋	2学期	3	2	103
	バイオインフォマティクス 上江洲 一也 他	1学期	4	2	104
	■卒業研究	卒業研究Ⅰ エネルギー循環化学科全教員(○学科長)	1学期	4	4

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2011年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■卒業研究	卒業研究Ⅱ エネルギー循環化学科全教員(○学科長)	2学期	4	4	106
	卒業研究(基盤) 基盤教育センターひびきの分室全教員 単位数は各学科の卒業研究にならう	通年	4	8	107
■留学生特別科目 ■基盤・教養科目(人間力)読替	日本事情 水本 光美	1学期	1	1	108
	総合日本語基礎 未定	1学期	1	3	
■基盤・外国語科目読替	総合日本語A 池田 隆介	1学期	1	2	109
	総合日本語B 池田 隆介	2学期	1	2	110
■基盤・外国語科目読替	技術日本語基礎 水本 光美	1学期	2	1	111
	ビジネス日本語 水本 光美 履修学年、履修学期に注意	1学期/2学期	3	1	112
■補習	数学(補習) 荒木 勝利、大貝 三郎、藤原 富美代	1学期	1	0	113
	物理(補習) 平山 武彦、衛藤 陸雄、池山 繁成	1学期	1	0	114
	化学(補習) 溝部 秀樹	1学期	1	0	115



# 入門ゼミ

(Guide Seminar)

担当者名 /Instructor 全学科 全教員 (○各学科長)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

大学生にとってコミュニケーション能力は、専門的な知識を修得する以前に身に付けておくべき、基礎的な能力である。この入門ゼミでは、グループワークなどを通して、他者の意見を聞き、その人の言いたいことを理解した上で、自分の意見を伝えることができる力（「理解する力」「話す力」）、そして情報を収集して、レポート、報告書を作成する力（「調べる力」、「書く力」）を養成することを目的とする。また、学生が受動的ではなく能動的にグループワーク・情報収集等に取り組むことによって、問題解決能力を高め、自ら学ぶ力を養成することを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

担当教員の指示したもの

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

担当教員の指示したもの

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ( 1 ) 15週のうち、最初の1週は新入生全員を対象にガイダンスを実施する。
- ( 2 ) 2週目以降は、原則としてゼミ単位での活動とする。詳細については、担当教員の指示に従うこと。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み態度を評価する ( 100% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の授業に対する課題において、自らの意見や考え方を整理して、積極的に発言すること。

## 履修上の注意 /Remarks

入学時のガイダンスで配布されるテーマ一覧を参考に、希望するゼミを検討しておくこと。また、希望者は他の学科が提供するゼミに参加することもできる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生になった皆さんは、既に大人社会の仲間入りをしています。大人社会では、あらゆる事象において受身の体勢では、うまくいかない事が増えてきます。積極的にコミュニケーションを図る、貪欲に情報を収集する、自分の意見をしっかり持ち、常に問題意識を持つ、相手の立場を理解し協調性を養うことが重要となります。そのような魅力ある学生になれるよう頑張ってください。

## キーワード /Keywords

# 心と体の健康学

(Psychological and Physical Health)

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科, 乙木 幸道 / Kodo OTOKI / 非常勤講師  
/Instructor 内田 満 / Mitsuru UCHIDA / 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

将来にわたって心と体の健康を自ら維持・向上させていくための理論や方法を体系的に学ぶことが、この科目の目的である。  
生涯続けられるスポーツスキルを身につけ、心理的な状態を自ら管理する方法を知ること、こころやからだのバランスを崩しがちな日々の生活を自分でマネジメントできるようになることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

適宜資料配付

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回オリエンテーション
- 2 回コミュニケーションゲーム
- 3 回ボディマネジメント① ( 身体的健康と精神的健康 )
- 4 回ボディマネジメント② ( 体力の概念 )
- 5 回ボディマネジメント③ ( 体力測定 : 体育館 )
- 6 回ボディマネジメント④ ( 身体組成 )
- 7 回メンタルマネジメント① ( 基礎 )
- 8 回メンタルマネジメント② ( 目標設定① : 積極的傾聴・合意形成・会議力 )
- 9 回メンタルマネジメント③ ( 目標設定② : コミュニケーション・ファシリテーション・組織論 )
- 10 回メンタルマネジメント④ ( 目標設定③ : ワークショップ・主体的参加 )
- 1 1 回エクササイズ① ( 屋内個人スポーツ : 体育館 )
- 1 2 回エクササイズ② ( 屋内集団スポーツ : 体育館 )
- 1 3 回エクササイズ③ ( 屋外スポーツ : グラウンド )
- 1 4 回エクササイズ④ ( オリエンテーリング )
- 1 5 回まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み態度 60% レポート 20% 試験 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

[ コミュニケーションゲーム ] [ エクササイズ ] は身体活動を伴うので、運動できる服装ならびに靴を準備すること。  
[ ボディマネジメント①・②・④ ] は教室での講義、[ ボディマネジメント③ ] は体育館で行う。  
[ メンタルマネジメント ] はワークを中心とした授業を行いますので筆記用具を持参すること。

## 履修上の注意 /Remarks

授業への積極的な参加を重視します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目を通して、「やりたいこと」「やるべきこと」「できること」を整理し、いかに目標を明確にするかを学び、自分自身の生活にも役立てほしい。さらに、身体活動の実践を通して、スキル獲得のみならず仲間作りや「ホバ」-「バル」コミュニケーション能力獲得にも役立ててほしい。

## キーワード /Keywords

# 職業と人生設計

(Career and Life Planning)

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所, 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また有意義な大学生活を営むために、

- ① 様々な業界や企業、そして働き方など社会について知る
- ② 将来の進路に向けた学生生活の過ごし方を知る
- ③ 初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる
- ④ 社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤ 自分について知る

以上5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランします。

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間になりたいと思います。

## 教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 PHP研究所
- 大久保幸夫 『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』 日本経済新聞社
- 渡辺三枝子 『新版キャリアの心理学』 ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール 『ハイレイヤー 次世代リーダーの育成法』 プレジデント社
- エドガー H.シャイン 『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』 白桃書房
- 見館好隆 『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』 プレジデント社
- 平木典子 『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』 金子書房
- 中原淳・長岡健 『ダイアログ 対話する組織』 ダイヤモンド社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 全体ガイダンス ( 授業の目的やルール、キャリアの基本知識 )
- 2 回 学生生活とキャリア ( 社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方 )
- 3 回 進路について ( 就職活動・大学院進学など )
- 4 回 自分を知る① ( 働く価値観や仕事へのこだわり、セルフアセスメントの実施 )
- 5 回 自分を知る② ( 一皮むける経験、身の丈を超えた経験、経験学習、ライフライン )
- 6 回 働くということ ( 仕事を考える視点、仕事のやりがい ) ※社会人ゲストを予定
- 7 回 社会人としての倫理やマナー① ( 傾聴、多様性理解 )
- 8 回 社会人としての倫理やマナー② ( アサーショントレーニング )
- 9 回 キャリアとお金 ( 雇用形態と賃金、生活費シミュレーション )
- 10 回 大学生活を面白くする ( 計画された偶発性・セレンディピティ )
- 11 回 地域活動に挑戦する ( 地域活動を体験した先輩とのディスカッション ) ※先輩登壇
- 12 回 業界&企業研究 ( 業界のしくみ、業界研究および企業研究の方法 )
- 13 回 就職活動を知る ( 就職活動を体験した先輩とのディスカッション ) ※内定者登壇
- 14 回 大学院進学を知る ( 大学院へ進学した先輩とのディスカッション ) ※院生登壇
- 15 回 まとめ&発表 ( 自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 職業と人生設計

(Career and Life Planning)

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※クラスは履修者をランダムに振り分け、5つのクラスに分かれて行う予定です。受講前にクラスを確認してください。
- ※毎回、来週の課題が提示されますので準備してください。
- ※自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢、そして自分を成長させたい意欲が求められます。

## 履修上の注意 /Remarks

社会人としてのマナーを身につけてもらうこともこの講義の目的の一つです。したがって以下の10項目を守っていただきます。  
遅刻厳禁 / 携帯操作厳禁 ( マナーモードでバッグの中に ) / 脱帽 / 飲食禁止 / 作業時間は守る / グループワーク以外の私語厳禁 / グループワークでは積極的に発言する / 周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける / 分からないことは聞く / 授業に「出る」ではなく「参加する」という意識で臨む

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。本授業を通してさらに大学生活を充実したものしたい、という意思を持ってご参加ください。

## キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

# 日本語の表現技術

(Writing Skills for Formal Japanese)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期/2学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、日本語における論理的な文章構成の習得、および、論述文の表現技術の向上を目的とする。とりわけ、フォーマルな場面で用いられる実用文書で使われる日本語の表現技術を身につけておくことは、教養ある社会人には必須の要素である。この授業においては、(1)「長い文章を書く」ことへの抵抗感を低減させること、(2)書き言葉として適切な表現・文体を選択すること、(3)自作の文章の論理性・一貫性を客観的に判断すること、以上の3つの軸に受講生参加型の講義を展開していく。

## 教科書 /Textbooks

必須教材は授業中に指示、あるいは、教員が適宜準備する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の進行に合わせて紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション / 環境工学研究者に必要な文章表現能力とは
2. 言語とコミュニケーション
3. アカデミックな読み書きとは? / 再現性と合理性
4. 批判的に新聞を読む
5. 文体 話し言葉と書き言葉
6. テーマを絞る
7. 段落の概念(1)中心文と支持文
8. 段落の概念(2)文のねじれ
9. アイディアを搾り出す / ノンストップライティング
10. 目標規定文を書く
  11. 事実と意見
  12. 出典を記す
  13. 待遇表現
  14. プロジェクト(1)質疑応答
  15. プロジェクト(2)成果発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加10%  
コメント10%  
宿題15%  
小テスト15%  
授業内課題10%  
期末課題40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テストや授業のために必要な準備は、hibikino e-learning portal ( <http://moodle.env.kitakyu-u.ac.jp/> ) で連絡する。重要な連絡にはE-Mailも使う。それ故、moodleを閲覧する習慣、及び、メールチェックをする習慣を身につけておくこと。予定の確認作業は受講者の責任である。

## 履修上の注意 /Remarks

- ※ 1 : 出席率80%未満の受講生は不合格とする。
- ※ 2 : 留学生は「技術日本語基礎」に合格していることを履修条件とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業、進学、就職等、学生生活が終盤に近づくにつれ、フォーマルな表現を駆使しなければならない機会は多くなる。適切な表現をTPOに応じて繰り出すことができるよう、この授業を絶好の修練の場にしてほしい。

## キーワード /Keywords

日本語、表現技術、実用文、書き言葉、受講生参加型講義

# 哲学と倫理

(Philosophy and Ethics)

担当者名 /Instructor 森本 司 / Tsukasa MORIMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 / 2年次  
単位 /Credits 2単位 / 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

日常的な表現で日頃自覚することのない基礎的な言葉や表現（「問う」とはどういうことか、「理解する」とはどういうことか）の意味を意識しつつ、議論できる状況を自覚し、議論内容を組み立てる基礎的作業を提供します。自分が何をどのように話しているのかを、論理的と同時に感性的に自覚できる「身体感覚の論理」とその論理にもとづく倫理的な考え方（功利主義的倫理観）を実践的に（教員がサンプルとなって）講義します。考え方と同時にメモやノートのとり方も学習してください。

## 教科書 /Textbooks

ありません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に提示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 履修説明（目的・形式・評価）、講義概要、講義入門（問題解決の考え方）
- 「問うことと理解すること」（「問う」を問題にする日常）
- 「問うことと理解すること」（「問い」の構造）
- 「問うことと理解すること」（「理解」の形式的特徴）
- 「問うことと理解すること」（「理解」の現実的特徴）
- 「問うことと理解すること」（まとめと考察）
- 「問うことと理解すること」を考える映像資料（その1：問題提起）
- 「問うことと理解すること」を考える映像資料（その2：問題発見）
- 「問うことと理解すること」を考える映像資料（その3：考察）
- 「私について」考えること（問題状況）
- 「私について」考えること（問題分析）
- 「私について」のまとめと考察
- 「当たり前」という考え方
- 日常感覚としての「倫理」（「倫理」とは）
- 日常感覚としての「倫理」（功利主義的倫理観と問題点）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

論述試験 100%（講義内容：40%、表現・形式：40%、発想：10%、具体性：10%）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の内容は1回限りの話ではなく、連続していますから、前回の内容を復習しておいてください。

## 履修上の注意 /Remarks

板書や提示された資料だけでなく、講義で話された内容もメモを取るようになって下さい。  
自分専用のノートを作成するようにしてください。  
出席は、試験を受ける資格です。  
ただ出席しているだけでは合格できるとは限りません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

メモのとり方、ノートのとり方を工夫してください。考える作業と書く作業を連動させてください。  
自分なりのメモのとり方を身につければ、社会人になってからそれが自分自身を助けてくれますよ。

## キーワード /Keywords

問うこと、理解、部分と全体、功利主義と人格

# ジェンダーと日本語

(Gender and the Japanese Language)

担当者名 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 基盤教育センターひびきの分室  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

「ジェンダー」とは、人間が持って生まれた性別ではなく、社会や文化が培ってきた「社会的・文化的な性のありよう」です。この講義では、ジェンダーに関する基礎知識を身につけるとともに、生活言語、メディア言語などが持つ様々なジェンダー表現を観察、検証することにより、日本社会や日本文化をジェンダーの視点から考察します。

## 教科書 /Textbooks

『ジェンダーで学ぶ言語学』 中村桃子編、世界思想社

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション ②ジェンダーとは
- 男らしさ、女らしさ、とは。ジェンダーからことばを見る
- 作られる「ことば」女ことば
- 作られる「ことば」男ことば
- メディアが作るジェンダー：マンガ1（構造とジェンダー表現）
- メディアが作るジェンダー：マンガ2（ストラテジーとしてのジェンダー表現）
- メディアが作るジェンダー：テレビドラマ1（テレビドラマと実社会のことばの隔たり）
- メディアが作るジェンダー：テレビドラマ2（テレビドラマの女性文末詞）
- 変革する「ことば」：差別表現とガイドライン1（差別表現とは何か）
- 変革する「ことば」：差別表現とガイドライン2（ジェンダーについて語る言説と表現ガイドライン）
- 変革する「ことば」：セクシュアル・ハラスメント1（ことばは認識を変える力をもつ）
- 変革する「ことば」：セクシュアル・ハラスメント2（セクシュアル・ハラスメントのインパクト）
- 変革する「ことば」：セクシュアル・ハラスメント3（セクシュアル・ハラスメントはなくせるか）
- 私のまわりのジェンダーについて考える
- 期末プレゼンテーションの準備

\* 授業スケジュールは、状況に応じて、適宜、変更される場合もある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%  
宿題・小テスト 30%  
事前調査・ディスカッション 20%  
期末プレゼンテーション 30%  
\* 出席率80%未満は、不合格とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本人と留学生の混合小規模クラス。  
異文化間でのディスカッションも実施するため、授業で積極的に発言する意志のある学生の履修を希望。

## 履修上の注意 /Remarks

留学生は「技術日本語基礎」が日本語能力試験1級に合格していること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちの生活は、数多くのジェンダー表現に囲まれています。それらは、どのような価値観、社会慣習などによるものが分析することによって、無意識に自己の中に形成されている男性観・女性観・差別意識について一緒に考えてみませんか。単に講義を聴くという受身的姿勢から脱して自発的に発言し、事例収集などにも積極的に取り組む態度を期待します。

## キーワード /Keywords

ジェンダーイデオロギー、ジェンダー表現、性差別語、性差別表現、ジェンダーをつくることば

# 工学倫理

(Engineering Ethics)

担当者名 /Instructor 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室, 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~)  
安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~), 平野 雄 / Takeshi HIRANO / 環境生命工学科  
水野 貞男 / Sadao MIZUNO / 機械システム工学科, ゴドレール イヴァン / Ivan GODLER / 情報メディア工学科  
堀口 和己 / Kazumi HORIGUCHI / 情報システム工学科 (19~), 上原 聡 / Satoshi UEHARA / 情報システム工学科 (19~)  
黒木 荘一郎 / Soichiro KUROKI / 建築デザイン学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

現代社会における製品・サービスの生産・供給は、高度化・複雑化した技術を基盤として成り立っています。技術者は、多様なステイクホルダーの持つ価値観の間で、ジレンマに苛まれながら難しい意思決定を迫られることが少なくありません。本講義では、技術者として様々な倫理的課題に直面した時に、どのように対処していけばよいのか、自ら考え、仲間と話し合いながら判断するための方法を理解し、実際に演習を通じて身につけることを目指します。

## 教科書 /Textbooks

授業中の配布資料による

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

野城・札野・板倉・大場(2006)：実践のための技術倫理、東京大学出版会  
金原ほか(2007)：エンジニアのための哲学・倫理、実教出版  
小出(2010)：JABEE対応・技術者倫理入門、丸善  
ハリスほか著、(社)日本技術士会(訳) (2008)：[第3版]科学技術者の倫理 -その考え方と事例-、丸善

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 はじめに
- 2 技術者としての自律を目指して・事例 (ビデオ『技術者の自律』)
- 3 技術倫理の考え方
- 4 組織における技術倫理(1)・事例 (テキスト・自動車メーカーのリコール隠蔽)
- 5 組織における技術倫理(2)・事例 (ビデオ『ソーラー・ブラインド』)
- 6 技術者を取り巻く環境
- 7 (復習；内容理解確認のための提出物)
- 8 倫理的な意思決定の方法
- 9 事例テキスト演習(1)：不作為の非倫理性
- 10 事例テキスト演習(2)：納期と安全性・信頼性
- 11 事例テキスト演習(3)：自己実現と労働安全性
- 12 まとめ
- 13 各学科講義 (1)
- 14 各学科講義 (2)
- 15 各学科講義 (3)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業中と予復習の提出レポート (第1回-第12回)：70%  
・ 倫理理論を理解している。(10%)  
・ 倫理理論をツールとしながら課題の所在を見つけることができる。(30%)  
・ グループ討議を通じて倫理課題に関する解決策を導くことができる。(30%)  
学科別授業提出レポート (第13回-第15回)：30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「哲学と倫理」(教養・人文社会)を2年次に履習しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

レクチャと小グループ演習を組み合わせた内容となります。授業後半(第13回-第15回)は、学科専門教員によるレクチャとなります。



# 工学倫理

(Engineering Ethics)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

技術(者)倫理は、座学と活術との組合せを通じて身に付くものである。グループ作業を通じて、実際に自分で考え、議論することが、重要になる。また、各専門分野で直面する倫理課題やそれへの対処方法について学び、技術者としての素養を高めましょう。

## キーワード /Keywords

工学倫理、技術倫理、技術者倫理、技術者の自律、倫理的意思決定、倫理的意思決定のセブンステップ、事例演習、グループワーク

# 技術経営概論

(Introduction to Technology Management)

担当者名 /Instructor 佐藤 明史 / Meiji SATO / 非常勤講師, 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

環境問題が惹起した環境経営の重要性とベンチャー企業の必要性を述べ、イノベーションの創出とそれに続く、ベンチャー、企業における新規事業、自治体における新規企画とその実現へ挑戦する基盤を育成する。授業の前半は、技術経営や環境経営の実践方法を講義で学習し、チーム演習で興味ある分野の過去10年間の技術ロードマップを調査作成し発表することにより「洞察力」を育成する。後半では、技術経営、環境経営、ベンチャーの事例を学習し、チーム演習でフィールドワークとベンチャービジネスモデル検討による提案発表を行うことにより「構築力」を育成する。

## 教科書 /Textbooks

資料を配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- ・ 環境経営の実践マニュアル、山路敬三、国連大学ゼロエミッションフォーラム
- ・ 起業のマネジメント、小林忠嗣著、PHP出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 講義概要と技術発展ロードマップ、ベンチャー提案作成の手引き
- 2 技術経営概論(1) - なぜ技術経営が必要か
- 3 企業のビジネスモデルの調査
- 4 技術経営概論(2) - 技術発展ロードマップテーマとチームの決定
- 5 技術ロードマップ作成1(背景・課題の整理と情報収集)
- 6 技術ロードマップ作成2(発表シナリオ、発表スライドの作成)
- 7 技術ロードマップのプレ発表
- 8 技術ロードマップの本発表
- 9 事例に学ぶ - ベンチャー人材に必要な能力
- 10 事例に学ぶ - 環境ベンチャー事例
- 11 事例に学ぶ - ビジネスモデルの作り方
- 12 ベンチャー提案テーマとチームの決定
- 13 ビジネスモデルのレベルアップとベンチャー提案発表準備
- 14 ベンチャー提案プレ発表
- 15 ベンチャー提案本発表

## 成績評価の方法 /Assessment Method

技術ロードマップ発表 30%  
ベンチャー提案発表 60%  
学習態度 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分の好きなことを考えるときは楽しい。好きなことをビジネスにする演習授業なので授業外の活動も必要になるが能動的に夢を持って取り組むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

自由討論やビジネス演習など授業への自主的かつ積極的な参加が理解の基本である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学外活動も奨励しています。自分も出来るぞと思える舞台が必ずあります。講義外の学習時間も多くなりますが、楽しめると思います。常に学生諸君の建設的な提案を待っています。

## キーワード /Keywords

# 芸術と人間

(Introduction to Art)

担当者名 松久 公嗣 / Koji MATSUHISA / 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

### 【授業概要】

感性や個性という個人の生き方に深く関わる芸術領域が、日本や国際社会においてどのように捉えられてきたかを絵画作品を中心に概観する。古代からの歴史を縦軸に、西洋と東洋・日本という地域を横軸に、実践的かつ立体的に講義を進め、芸術の諸問題について分析する。また、発想法や芸術運動の要素を取り入れた課題を設定し、芸術の理念を体感することで知識の裏付けとしたい。その結果、芸術に対する観念的な視点を変革し、独自の視点から芸術を論じたり、企業や社会への活用法を見いだしたりすることのできる態度を育成するものである。

### 【学習項目】

- ・ 西洋を中心とした一般的な美術史について、具体的な作品を画像で観ながら時代背景とともに流れとして把握できる。
- ・ 重要と思われる分岐点について、実技的課題をおこなうことで、体験とともに理解を深めることができる。
- ・ 授業で得た知識と体験をもとに美術館等の展覧会を鑑賞し、要点をまとめてレポートに表現することができる。
- ・ 単なる記憶能力としての学習でなく、今後のスキルアップに活用できるような発想力や想像力の育成を目標とする。

## 教科書 /Textbooks

特定の教科書は使用しない。必要と思われる資料の配布または参考文献の紹介をおこなう。但し授業内容を深めたいと思う学生は、掲示した参考書の購入を薦める。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

『増補新装 西洋美術史』, 高階秀爾, 美術出版社  
『増補新装 日本美術史』, 辻 惟雄, 美術出版社  
『デザインにひそむ〈美しさ〉の法則』, 木全賢, ソフトバンク新書  
その他, 適宜指示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 19 - 20世紀の芸術① (写実主義, 印象派)
3. 19 - 20世紀の芸術② (印象派, ポスト印象派)
4. 19 - 20世紀の芸術③ (フォービズム, キュビズム)
5. 20 - 21世紀の芸術① (シュルリアリズム)
6. 20 - 21世紀の芸術② (抽象絵画)
7. 20 - 21世紀の芸術③ (現代絵画)
8. 西洋の芸術① (ギリシャ, ローマ)
9. 西洋の芸術② (ロマネスク, ゴシック)
10. 西洋の芸術③ (初期ルネッサンス)
11. 西洋の芸術④ (盛期ルネッサンス, マニエリスム)
12. 西洋の芸術⑤ (バロック, ロココ)
13. 日本の芸術① (縄文 - 江戸時代)
14. 日本の芸術② (江戸時代 - 現代)
15. 芸術と人間・まとめ

※既定の授業時間とは別に、各自が美術館等に行って作品を鑑賞し、レポートにまとめる課題を与える。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート評価 50%  
小テスト 30%  
授業への参加意欲 20%

※レポート課題の未提出は不可とする。詳細はガイダンスで解説する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

筆記具は必携。幾つかの課題に対し、用具が必要となる場合がある。(適宜指示する)  
レポート課題のために、指定する美術館等までの交通費及び入館料が必要となる。

# 芸術と人間

(Introduction to Art)

## 履修上の注意 /Remarks

原則として規定回数以上の欠席および遅刻は不可とする。  
昨年度までおこなってきた「レポートの書き方」に関する説明回を縮小し、より芸術の本質を深める内容とします。  
理解度をみるための小テストを1回または2回設定します。  
レポートでは、コピー・ペースト等による盗作等は一切認めません。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般教養としての学習から、キャリアデザインに活用するための理解に至るまでには、予習と復習による個人差が生じる。授業内で紹介する文献等を参考に予習・復習することを願う。

## キーワード /Keywords

美術，絵画，彫刻，建築，デザイン，鑑賞

# 経済入門

(Introduction to Economics)

担当者名 /Instructor 岡岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

本講義では下記のテキストを使用し、ミクロ経済学の基礎的な内容を学習する。普段私たちがとっている消費行動(需要)、企業の生産行動(供給)、そして需要と供給の出会う「市場」の理論を学習する。経済学を学ぶことで、身の回り、または現代の日本や世界で起こっている様々な経済現象に関心を持ってほしい。授業では適宜時事問題も扱い、経済問題に対する理解も深める。

## 教科書 /Textbooks

前田純一著『経済分析入門I - ミクロ経済学への誘い - 』晃洋書房、2011年、2,625円。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

藤田康範『ビギナーズミクロ経済学』ミネルヴァ書房、2009年  
三橋規宏・内田茂男・池田吉紀著『ゼミナール日本経済入門 改訂版』日本経済新聞出版社、最新版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション
- 2 第1章 消費行動の分析(1) - 無差別曲線 -
- 3 第2章 消費行動の分析(2) - 効用関数 -
- 4 時事問題1
- 5 第3章 生産行動の分析(1) - 費用分析 -
- 6 第4章 生産行動の分析(2) - 生産関数 -
- 7 時事問題2
- 8 第5章 完全競争市場の分析
- 9 第6章 資源配分の効率性
- 10 第7章 独占市場の分析
- 11 第8章 不完全競争市場の分析
- 12 第9章 市場の失敗
- 13 小括と確認
- 14 時事問題3
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 80%  
レポート 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

普段より経済に関する新聞記事やニュースに関心を払ってほしい。

## 履修上の注意 /Remarks

以下の日程で補講を行います。  
4月28日(土) 1-2限、5月2日(水) 3-4限、6月6日(水) 3限  
中間試験は6月18日(月)に行います。

【再試験の方へ：履修登録後、必ず担当教員に連絡をして下さい】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の勉強を通じて世の中に対する関心を高め、社会に出た時にものおしせず、自分の意見を発言できるようになりましょう。またニュースや記事などから経済事情を読み解き、判断することは理系出身の学生にも求められることです。授業で扱うテーマ以外にも経済に関することなら質問を歓迎します。一緒に経済を勉強していきましょう、世界が広がるはずです。

## キーワード /Keywords

経済 需要 供給 市場 日本経済

# アジア地域入門

(Globalization and East Asia)

担当者名 /Instructor 戴 二彪 / Erbiao DAI / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

アジア各国の社会情勢、政治体制、経済状況について学ぶ。アジアの国々はそれぞれが歩んできた歴史や文化が異なり、政治や経済においても各々の特徴がある。日本と地理的に近い東アジアと東南アジアの国を取り上げる。授業では各国の状況を説明するが、講義を聞いているだけでなく、どの国でもよいので関心を持ち、一つの論点について考察してほしい。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中、適宜資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○片山裕・大西裕編『アジアの政治経済・入門[新版]』有斐閣ブックス、2010年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イン트로ダクション
- 2 アジア地域の多様性
- 3 韓国について
- 4 中国について
- 5 台湾について
- 6 香港について
- 7 シンガポールについて
- 8 時事問題1
- 9 マレーシアについて
- 10 インドネシアについて
- 11 タイについて
- 12 フィリピンについて
- 13 ベトナムについて
- 14 時事問題2
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70%  
授業中の発言や提出物30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

取り上げている国の立地や基本条件等を事前に調べておくことが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

担当教員の変更により、内容が一部変更することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

それぞれの国について詳しく説明します。これをきっかけに名前を聞いたことしかなかった国についても興味を持って、理解を深めて下さい。将来国際的に活躍する人材になるためまずは近隣諸国のことを知りましょう。

## キーワード /Keywords

アジア 東アジア 東南アジア

# 文学を読む

(Modern Literature)

担当者名 /Instructor 白瀬 浩司 / Kouji SHIRASE / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

日本の伝統文化として紹介されるもの（例えば、キモノ・スシ・ハラキリ等々）の中には、江戸時代に端を発するものも多い。江戸時代の文学である近松門左衛門の劇作品を読み、日本の伝統文化について理解を深める。  
元禄の頃、実際に起きた事件をモチーフとする文学作品を読み進める。人を愛しいと思う気持ちは同じはずなのに、その行動化の方法は時代的な文化コードが異なるだけで（同じ風土とはいえ）ずいぶん違う場合がある。当代の商家の生活、農村の生活、廓（くるわ）の生活などを踏まえながら、作品世界に迫っていくことにする。

## 教科書 /Textbooks

『曾根崎心中・冥途の飛脚 他五篇』（岩波文庫）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

日本古典全集75『近松門左衛門集 2』（小学館）語注・現代語訳あり

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 作者近松門左衛門と江戸期大坂の男女の恋模様
2. 曾根崎心中（1）観音めぐりが担うもの、廓の生活・心中立て
3. 曾根崎心中（2）お初と徳兵衛の恋、農村の生活・商家の生活
4. 曾根崎心中（3）九平次の策略、契約書類と印判
5. 曾根崎心中（4）心中道行と心中死
6. 曾根崎心中（5）映像作品鑑賞・ロックと文楽のコラボレーション
7. 曾根崎心中（6）映像作品鑑賞・ATG映画
8. 曾根崎心中（7）まとめと課題レポート
9. 冥途の飛脚（1）江戸期大坂の郵便・宅配業
10. 冥途の飛脚（2）梅川と忠兵衛の恋
11. 冥途の飛脚（3）男の一分と横領事件、犯罪への刑罰
12. 冥途の飛脚（4）逃避行と捕縛
13. 冥途の飛脚（5）映像作品鑑賞・浪速の恋の物語
14. 冥途の飛脚（6）まとめと課題レポート
15. 近松が事件の背後に見据えたもの

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の講義時の小レポート 45%  
講義時の課題レポート2回 55%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

古典の文章のリズムを体感するため、声を出して読み上げる作業をおこないます。ご協力・ご参加ください。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 法律入門

(Introduction to Law)

担当者名 /Instructor 櫻井 弘晃 / Hiroaki SAKURAI / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

この講義では、高度化・複雑化した現代社会において、法が様々な問題の解決のためにどのような役割を果たすのかを具体的な事例を交えながら考え、理解を深めることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

オリジナルプリント

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

ポケット六法・2012年版、有斐閣 | 畑博行編(2000)・現代法学入門、有信堂

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入 法とはなにか
- 2 裁判制度のしくみ
- 3 犯罪と刑罰(1) ...犯罪の意義、正当防衛・緊急避難
- 4 犯罪と刑罰(2) ...共犯、刑罰、時効
- 5 雇用と法
- 6 婚姻と離婚(1) ...家族の意義、戸籍、婚約
- 7 婚姻と離婚(2) ...婚姻・離婚の法的効果
- 8 親子
- 9 扶養と相続
- 10 取引能力と意思表示
- 11 不動産と動産
- 12 契約(1) ...売買契約
- 13 契約(2) ...保証契約、消費貸借契約、賃貸借契約
- 14 事故と損害賠償
- 15 消費者契約法

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 60%  
練習問題 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前回の授業内容を復習した上で、受講してください。

## 履修上の注意 /Remarks

特になし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律の勉強方法は暗記ではなく、制度に対して興味をもち、理解することです。

## キーワード /Keywords



# 文明社会

(Civilization and Society)

担当者名 菊地原 洋平 / Yohei KIKUCHIHARA / 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

科学技術の発展とともに、いまや科学は我々の重要な生活の一部となっているが、同時にそれらがもたらす諸問題が表面化してきている。こうした現代科学技術の基盤は西洋の16世紀に形づくられ、19世紀に確立したと考えられている。本講義では、西洋の古代から19世紀にいたる科学・哲学・医学・芸術・産業技術・社会経済・政治思想などの歴史的素材から、科学技術の歴史やそれと関連する自然観の変遷について広く考察していきたい。

本講義を受講するにあたり、とくに以下の点を学習して欲しい

- (1) 西洋の古代から近代に至る科学の歴史に関して基礎的な知識を修得する。
- (2) 歴史的に人間がどのように自然を認識していたのかを理解する。
- (3) 科学の知識は過去から現在に向かって連続的に進歩しているのではなく、各時代の思想・文化・社会制度などのさまざまな要因のもとで構築され、断続的に変化してきたことを理解する。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) はじめに：授業紹介、評価など
- (2) 古代ギリシアとアリストテレスの自然観
- (3) 古代の医学思想：ガレノス医学を中心に
- (4) 中世ヨーロッパの科学・哲学・医学
- (5) 旅行記と地理学：中世ヨーロッパの異文化観
- (6) キリスト教と数学的言語：コペルニクスとガリレオから
- (7) ヴェサリウスと近代解剖学のはじまり
- (8) ハーヴィと血液循環論の発見
- (9) デカルトと機械論的自然観
- (10) リンネと近代博物学 / 分類学
- (11) 錬金術から化学へ：啓蒙主義時代の科学
- (12) 発生学論争：前成説と後成説
- (13) 比較解剖学の展望：19世紀初頭の科学界
- (14) ダーウィンと進化論
- (15) 科学者の誕生：科学の社会化・制度化

## 成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験80%  
日常の授業への取り組み20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

「科学革命」、科学と宗教、科学と社会・思想・文化、自然観の変遷など

# 経営入門

(Introduction to Business Management)

担当者名 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

現代社会において経済システムの基礎を担う企業に注目し、その仕組みや行動原則に目を向け、理解を深めていきます。この授業を通じて、履修者は、新聞やニュースなどにおける企業関連の報道内容を理解し、自分で説明できるようになります。また、自分自身が将来働くことになる企業について具体的なイメージをもち、キャリアデザインの題材を見つけることができるようになります。  
経済や企業の活動を理解するための基本的な考え方や方法を分かり易く解説します。経済や経営の分かるエンジニアを目指す方は、ぜひ履習して下さい。

## 教科書 /Textbooks

周佐喜和ほか(2008)：経営学I-企業の本質-、実教出版

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

海野・所ほか(2007)：やさしい経営学、創成社  
大滝ほか(1997)：経営戦略 -論理性・創造性・社会性の追求-、有斐閣アルマ  
加護野・井上(2004)：事業システム戦略 -事業の仕組みと競争優位-、有斐閣アルマ  
塩次ほか(1999)：経営管理、有斐閣アルマ  
延岡(2006)：MOT [ 技術経営 ] 入門、日本経済新聞社  
ドラッカー(2001)：マネジメント[エッセンシャル版]- 基本と原則、ダイヤモンド社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入 現代社会における企業経営
- 2 企業の中で行われている活動
- 3 企業活動と利害関係者、経営資源 ( 人・モノ・金・情報 )
- 4 株式会社の制度と意味、企業統治 ( コーポレート・ガバナンス )
- 5 財務と会計(1)：財務諸表の読み方
- 6 財務と会計(2)：経営指標の読み方
- 7 ( 復習 )
- 8 人的資源管理(1)：人材育成、キャリアデザイン
- 9 人的資源管理(2)：給与・昇進、労使関係
- 10 生産管理：見込生産と受注生産、マス・カスタマイゼーション、セル生産方式
- 11 マーケティング：どのようにして売れるものを作るのか
- 12 経営管理：マネジメントの重要性、マネジャの役割
- 13 経営戦略(1)：事業の成功と企業の持続性
- 14 経営戦略(2)：戦略と組織設計
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：50%  
・ 経済・経営用語を理解している。(25%)  
・ 現実の経営現象を経営理論を用いて説明できる。( 25% )  
授業内外のレポート：50% ( 期間中に複数回 )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もって教科書の該当箇所を読んでおくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

3年次開講の「企業研究」のための基礎となる科目です。将来、それを履習するつもりがあれば、必ずこの科目を履修しておいて下さい。また、4年次に辻井研究室で「企業環境経営」に関する卒業研究を実施するつもりがある方も、必ず履習しておいて下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

工学を専門的に研究しながら、一方で、企業活動や経済・社会についての知識やセンスを学習することは、将来皆さんが、エンジニアとして、また技術を理解できるビジネスマンとして活躍する時に、大きく役立つと思います。

# 経営入門

(Introduction to Business Management)

## キーワード /Keywords

企業、経営、経営戦略、マネジメント、競争優位、人材、キャリア、マーケティング、生産管理、イノベーション

# アジア経済

(Asian Economies)

担当者名 /Instructor 中岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

日本を含む東アジア地域に位置する国々に焦点をあてる。これらの国は高い経済成長を達成してきた。日本は1950年代後半から70年代初頭にかけて高度成長期を経験し、アジア地域における経済の牽引役としての役割を果たしてきた。韓国、台湾は香港、シンガポールと並んで1960年代以降に高成長を記録した。現在、中国が急速な勢いで発展しており、その影響はアジア域内でも大きい。本講義では東アジアの国々がどのような経路をたどって経済発展してきたのか、相互の関連にも着目しながら考察を行う。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中適宜資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』有斐閣アルマ、1997年

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イン트로ダクション
- 2 東アジアの経済発展
- 3 日本の高度経済成長期
- 4 日本のバブル崩壊
- 5 日本の産業空洞化
- 6 アジア域内での貿易構造
- 7 グローバリゼーションの進展
- 8 小括と確認
- 9 中国の改革開放1 ( 農村改革 )
- 10 中国の改革開放2 ( 国有企業改革 )
- 11 韓国の経済発展
- 12 台湾の経済発展
- 13 香港の経済発展
- 14 シンガポールの経済発展
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70%  
授業中の発言や提出物30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

復習をしっかりとして下さい。また常にアジア地域に関するニュースに耳を傾けて下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

以下の日程で補講を行います。  
5月1日 ( 火 ) 4限、5月19日 ( 土 ) 1-2限、5月29日 ( 火 ) 4限  
中間試験は6月12日 ( 火 ) に行います。

【再試験の方へ：履修登録後、必ず担当教員に連絡をして下さい】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では東アジアの国々を事例に経済成長のメカニズムを考えます。日本経済の歴史やアジア地域との関わりについても勉強し、知識を増やしていきましょう。

## キーワード /Keywords

アジア 日本経済 経済発展

# 心理学入門

(Introduction to Psychology)

担当者名 /Instructor 永江 誠司 / Seiji NAGAE / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

「心理学入門」の講義では、心理学を初めて学ぶ学生を対象に、人間の心理と行動の基礎的しくみについて紹介する。本講義では脳と心、感覚と知覚、学習と記憶、思考と言語、感情と性格、発達と対人心理、そして臨床心理などのテーマを通じて、環境を認識し適応するしくみとしての心の働きについて、また自己および他者を理解する心のしくみについて解説する。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

著者名 / 金城辰夫・藤岡新治・山上精次  
 書名 / 図説現代心理学入門 3訂版  
 出版社・出版年 / 培風館 2006  
 著者名 / 長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行  
 書名 / はじめて出会う心理学 改訂版  
 出版社・出版年 / 有斐閣 2008

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.心理学を学ぶ
- 2.脳と心(1)【脳のしくみ】
- 3.脳と心(2)【脳のしくみと働き】
- 4.感覚と知覚の心理
- 5.学習の心理
- 6.動機づけの心理
- 7.記憶の心理
- 8.思考の心理
- 9.言語の心理
- 10.感情の心理
- 11.性格の心理
- 12.発達の心理
- 13.対人心理
- 14.臨床心理
- 15.まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加・小テスト等 / ( 30.0% )  
 学期末試験 / ( 70.0% )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

心理学用語について調べ、対人関係や身近な社会現象に関心を払うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

私語，居眠りなどしないこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自己理解、他者理解、社会理解の視点をもって受講してほしい。

## キーワード /Keywords

脳、感覚、知覚、学習、動機づけ、記憶、思考、言語、感情、性格、発達、対人心理、臨床心理

# 国際関係

(International Relations)

担当者名 /Instructor 千知岩 正継 / Masatsugu CHIJIWA / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

わたしたちが住むのは、グローバル化の進展によって地球上のあらゆる人びとが政治・経済・社会・文化の面で意識的・無意識的に緊密につながった世界。かような世界はいま、戦争、テロリズム、基本的人権の侵害、経済格差と貧困、移民や難民、越境する感染症、地球規模の環境問題など、複雑かつ多岐にわたる難しい問題に直面している。この授業では、以上の難問について「国際倫理」の観点から検討し、その解決にむけてわたしたちが思考し行動するための手がかりを見つける。

## 教科書 /Textbooks

押村高『国際正義の論理』（講談社現代新書、2008年）、720円（税別）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に適時紹介します

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション-なぜ国際関係論を学ぶのか-
- 2 国家とは何か： 主権、国民国家、弱い国家
- 3 国際社会とは何か： アナーキー、ハイアラーキー、国際秩序
- 4 国際社会の成立と展開： ウェストファリア、ウィーン、ハーグ
- 5 リアリズム-生存の倫理-： パワー・ポリティクス、国益、慎慮
- 6 理性主義-寛容と同質化の相克-： アナーキカル・ソサエティ、多元主義、連帯主義
- 7 コスモポリタニズム-世界市民の倫理-： 普遍主義、世界社会、他者にたいする責任
- 8 均衡と覇権： 勢力均衡、ヘゲモニー、守護者
- 9 正義の戦争とは何か： 正戦思想、開戦の正義、交戦の正義
- 10 他者のための戦争： 複合緊急事態、人道的介入、保護する責任
- 11 対テロ戦争の倫理： グローバル内戦、先制・予防攻撃、標的殺害
- 12 歓待の倫理： 難民、移民、シティズンシップ
- 13 相互扶助の倫理： 人道支援、赤十字国際委員会、新人道主義
- 14 配分の倫理： グローバリゼーション、貧困、コスモポリタニな危害原理
- 15 「文明の衝突」をこえて、あるいは「多様性の中の統一 (unity in diversity)」を目指して

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50%  
授業への積極的参加とホームワーク 50%  
ホームワーク：教科書と授業内容をふまえた宿題を2回だします。宿題の提出は期末試験の受験資格になります。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もって指示するので、教科書と配布プリントで予習・復習をしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

情報量の多い授業です。それなりの集中力を要します。授業を欠席したり、授業中ボーっとしていると、たいへんなこととなります。授業にはしっかり出席し、ノートをとってください。  
また、プリントを大量に配布します。配布プリントを整理し、授業毎に必ずもってきてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分たちは世界の人人々とのようにつながっているのか。また、グローバル化の進展する世界で次々に生じる戦争や貧困の問題にたいして、わたしたちはどのように向きあえばよいのか。国際関係論をとおして、これらの問いを一緒に考えてみませんか。

## キーワード /Keywords

国際関係、国際社会、国際倫理、グローバル化

# 比較文化論

(Comparative Culture)

担当者名 長 加奈子 / Kanako CHO / 基盤教育センターひびきの分室  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

我々が日常取っている行動や我々の考えというのは、我々が持つ「文化」に大きく影響を受けている。この授業では「文化」というものに焦点をあて、異文化コミュニケーションの基本を学ぶ。「異文化」というと「日本とアメリカ」や「日本と中国」のように、国と国、民族と民族の間の問題ととらえられがちだが、実際は「男性と女性」、「教員と学生」、「上司と部下」など、社会的立場の違いや世代の違いの間に発生する問題も「異文化」の問題である。本講義ではこのような視点に立ち、多様性（ダイバーシティ）の時代である21世紀を生き抜くために必要な知識とスキルを身につける。特に授業では、様々なアクティビティを通して、異文化コミュニケーションの状況を疑似体験すると共に、映画を通じた異文化コミュニケーションの分析を行う。

## 教科書 /Textbooks

特になし。必要に応じて授業中にプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 それぞれの考え方、それぞれの利益  
アクティビティ：気候変動政策ゲーム「Keep Cool」
- 第3回 「文化」とは何か、「コミュニケーション」とは何か
- 第4回 文化とアイデンティティ
- 第5回 文化の様々な側面
- 第6回 映画の分析 "Bend It Like a Beckham"
- 第7回 映画に現れる文化の側面
- 第8回 カルチャーショック  
アクティビティ：ひょうたん島問題
- 第9回 映画の分析 "Chocolat"
- 第10回 映画に現れるカルチャーショック
- 第11回 「異文化」間コミュニケーションを体験しよう  
アクティビティ：BARNGA
- 第12回 異文化コミュニケーションの障壁
- 第13回 異文化コミュニケーションの障壁を克服するために
- 第14回 ロール・プレイ
- 第15回 「多様性」の時代を生きていくために

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加態度 20%
- ミニレポート（アクティビティ）30%
- ミニレポート（映画）20%
- ファイナルレポート 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 比較文化論

(Comparative Culture)

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

## 履修上の注意 /Remarks

この授業は、グループでのアクティビティやディスカッション中心の授業のため、積極的に参加することが求められる。なお「英語」の授業ではないので、注意すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

我々の文化は我々に多大な影響を及ぼしている。その為、単に「英語力」を身につけただけでは「国際人」とは言い難い。異文化コミュニケーションに関する様々な知識やスキルを身につけ、真の意味で、国際的に活躍できるエンジニアになってもらいたい。

## キーワード /Keywords

異文化コミュニケーション，多文化，多様性，ESD (Education for Sustainable Development)



# 知的所有権

(Intellectual Property Rights)

担当者名 /Instructor 木村 友久 / Tomohisa KIMURA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

知的財産法を理解する前提として、法学や法律についての基本的な理解を進める。その上で、知的財産法である特許（実用新案）法、意匠法、商標法、著作権法及び不正競争防止法の制度及び運用について基本的理解を深める。題材は知的所有権に関わる具体的な判例や客体情報を用い、社会における知的財産法の機能・役割及び課題についての理解と実務対応能力形成を図る。

## 教科書 /Textbooks

特許庁産業財産権標準教科書「総合編」「特許編」「意匠編」 ※第一回講義の際に無償配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

最高裁判所ホームページ「裁判例検索システム」、INPIT特許電子図書館、木村研究室HPを利用する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 法学概論並びに財産法の基礎知識
- 2 特許権、著作権事件を通じた我国の訴訟制度概論
- 3 特許情報の内容理解と情報検索実務
- 4 特許訴訟と特許発明の同一性判断
- 5 特許要件と明細書作成実務
- 6 企業活動と特許戦略 その1 ノウハウの保護
- 7 企業活動と特許戦略 その2 不正競争行為の態様
- 8 ソフトウェア、ビジネスモデルと特許
- 9 環境関連技術と特許
- 10 パテントマップと作成
- 11 パテントマップの意義
- 12 著作権法に規定される各種の権利概論
- 13 プログラムおよびデータベースと著作権
- 14 コンテンツビジネスと著作権（技術の進歩と著作権を含む）
- 15 特許情報報告書発表並びに総合討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験50%  
最終判例評釈レポートや授業時の発表内容、授業のリフレクションペーパー等50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、ネット上の特許サロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。  
 パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>  
 最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>

## 履修上の注意 /Remarks

単なる教科書の知識だけでなく、技術戦略や研究開発等の実務的側面から特許情報を読むことをおすすめします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ひびきのキャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。  
 メールアドレス [kimlab01@gmail.com](mailto:kimlab01@gmail.com)  
 スカイプID kim-lab

## キーワード /Keywords

知的財産 特許 実用新案 意匠 商標 著作権

# 企業研究

(Enterprises and Industries)

担当者名 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

具体的な事例を通じ、企業経営についてのより深い理解を目指します。特に、企業のグローバル化や環境問題や地域貢献といった課題に焦点を当て、先進的な企業の取り組み、これからの企業のあり方について考えを深めます。また、業界や個別企業の現状や事業活動内容を理解するための材料を提供します。  
この授業を通じて、経済・経営を理解したエンパワーされた技術職や技術営業職になるための基礎素養を身につけることができるようになります。就職活動を成功させるために必要な情報収集の方法や業界・企業についての情報分析の方法がみにつきます。

## 教科書 /Textbooks

周佐喜和ほか(2008)：経営学2 -グローバル・環境・情報化社会とマネジメント-、実教出版

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

周佐喜和ほか(2008)：経営学I-企業の本質-、実教出版  
吉原(1997)：国際経営、有斐閣アルマ  
國部ほか(2007)：環境経営・会計、有斐閣アルマ

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 グローバル社会に生きる企業
- 2 国際化する企業間競争
- 3 企業の海外進出と多国籍企業
- 4 多国籍企業の経営戦略(1)：現地適応とグローバル標準化
- 5 多国籍企業の経営戦略(2)：グローバルマトリクス組織
- 6 海外事業と本国本社との関係
- 7 異文化マネジメント
- 8 (復習)
- 9 (特別授業)
- 10 企業の社会的責任(1)：戦略的な社会貢献活動
- 11 企業の社会的責任(2)：社会・環境活動を支える仕組み
- 12 環境マネジメント
- 13 エコビジネス
- 14 多様化する組織と企業の関係；NPO、社会的起業家
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：50%  
・ 経済・経営関連の用語・概念を理解している。(25%)  
・ 経営現象を理解し、因果関係や仕組みを説明できる。(25%)  
授業内外のレポート：50% ( 期間内に複数回；予習課題、グループ討論など )

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義資料の予習・復習をして下さい。新聞や雑誌、テレビなどの経済ニュースに目を配り、授業内容とリンクさせて思考するように日頃から心掛けて下さい。

## 履修上の注意 /Remarks

履修者のご要望を反映して、一部内容を切り替えることがあります。  
4年次に辻井研究室で「企業環境経営」に関する卒業研究を実施するつもりがある方、大学院環境資源システムコースで、辻井研究室での修士論文作成を希望する方も、必ず履習しておいて下さい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

将来皆さんが技術職や技術営業職として活躍する企業について考える材料を提供します。

# 企業研究

(Enterprises and Industries)

## キーワード /Keywords

企業、経営、グローバル経営、環境マネジメント、エコビジネス、企業社会責任 (CSR)、NPO、社会起業家

# 地球環境概論

(Engineering Frontiers for Global Sustainability)

担当者名 /Instructor  
伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~), 楠田 哲也 / Tetsuya KUSUDA / エネルギー循環化学科  
門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科, 石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科  
大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19~), 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~)  
上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科, 乙間 未廣 / Suehiro OTOMA / 環境生命工学科  
加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度  
/Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○

対象学科 /Department  
【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

地球環境（水環境を中心に大気，土壌，生態系，資源など）の歴史から現状（発生源，移動機構，環境影響，法律・倫理，対策など）を国土や地球規模からの視点で概観できるような講義を行い，環境保全の重要性を認識できるようにする。

## 教科書 /Textbooks

特になし。随時、必要と思われる資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 地球の前途 ( 人類の歴史と環境変化 )
- 2 地球温暖化
- 3 環境と法・倫理
- 4 環境政策と市民
- 5 酸性雨とオゾン層
- 6 種の絶滅と生物多様性の保全
- 7 広がる化学物質汚染
- 8 水不足
- 9 大地を守る ( 土壌劣化と食糧など )
- 10 海を守る ( 富栄養化・赤潮など )
- 11 森を守る ( 環境と植生 )
- 12 人為的災害
- 13 環境再生の事例
- 14 北九州市における環境モデル都市への取り組み
- 15 水汚染・浄化 ( 水環境 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・演習 40%  
期末試験 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特記事項なし

## 履修上の注意 /Remarks

授業の最後に20分程度の演習を実施するので、各授業を集中して聞くようにしましょう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球環境に対する問題意識や将来展望を持つことは、あらゆる専門分野で必要不可欠なものになりつつあります。講義項目は、多岐にわたりますが、現状と基本的な考え方が理解できるような講義を行います。皆さんの将来に必ずプラスになるものと確信しています。

## キーワード /Keywords

# リサイクルシステム論

(Recycling System Science)

担当者名 /Instructor 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ ) , 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

乙間 末廣 / Suehiro OTOMA / 環境生命工学科, 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

廃棄物減量、資源循環を実現するために資源、エネルギー全般、廃棄物全般を概説する。また、それらを背景として取り組んでいるリサイクルシステム(マテリアル、エネルギー、排水・廃棄物など)について、資源、エネルギー回収と処理の観点からそれぞれの技術や社会的な仕組みを概観できるような講義を行い、科学技術が持続可能な社会形成に果たす役割を理解できるようにする。

## 教科書 /Textbooks

特に指定せず、必要に応じて講義の都度資料を配付する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に適宜指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 資源、エネルギー概論
- 2 廃棄物概論
- 3 リサイクルと3R
- 4 リサイクル技術1(回収物の評価方法)
- 5 リサイクル技術2(単体分離技術)
- 6 リサイクルの現状3(物理的分離技術)
- 7 生物学的排水処理システムの基礎
- 8 栄養塩の除去技術システム
- 9 演習
- 10 有機性排水処理システム
- 11 栄養塩の資源化システム
- 12 有機物の資源化システム
- 13 最終処分場と不法投棄
- 14 廃棄物の輸出入、バーゼル条約と国際資源循環
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・演習 60%  
試験 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義中に配付した資料を見直し、次の講義への準備をしておくことが必要である。

## 履修上の注意 /Remarks

演習による理解度評価を行う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

リサイクル・水・廃棄物処理に関する体系的な知識が習得できる。

## キーワード /Keywords

# 環境計測入門

(Environmental Measurement)

担当者名 /Instructor 山本 郁夫 / Ikuo YAMAMOTO / 機械システム工学科, 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科  
石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

地球環境問題を考える上で、多くの良質な環境情報を収集し、有効に活用することが重要である。本講義では、大気、海洋、陸地の分野において、地球環境に重要な影響を及ぼす地球環境情報パラメータとそれらの計測法、および、計測されたデータの活用方法の基礎を学習し、具体的な適用事例を学びながら、地球環境問題の解決を考えていく上での工学的な応用力を養うことを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

プリント配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

計測工学入門 中村邦雄編著 森北出版

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 地球の成り立ち
2. 地球環境問題
3. 問題解決への国際的取り組み
4. 地球環境パラメータと計測
5. 地球環境を測る仕組み
6. 環境計測の基礎
7. 測定方法(1) [有効数字]
8. 測定方法(2) [地球の大きさを計測]
9. 測定方法(3) [統計処理]
10. 大気分析について(1)[計測パラメータ]
11. 大気分析について(2)[実計測法]
12. 水質分析について(1)[計測パラメータ]
13. 水質分析について(2)[実計測法]
14. 総合演習
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト4回 100%  
欠席 減点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プリントの予習・復習

## 履修上の注意 /Remarks

環境計測技術は専門用語が多いので、確実な理解のためには復習が必要である。また、常日頃新しい技術の情報に目を通しておくことが重要である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わが国は、環境先進国として世界をリードしており、持続的可能な社会の実現に向けてさらに環境問題に取り組んでいかなければならない。環境問題は地球規模で考え、足元から行動することが重要で、環境計測は工学上身近なところから実践できる学問であることを認識して、意欲的に授業に臨んで欲しい。

## キーワード /Keywords

# 環境問題特別講義

(Introduction to Environmental Issues)

担当者名 /Instructor 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 ( 19 ~ ) , 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 ( 19 ~ )

森本 司 / Tsukasa MORIMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

環境問題は、地球規模の問題であるとともに地域の問題でもある。また、目前に見える今日的課題から地球温暖化のように将来の課題まで含んでいる。そして、私たち日常生活のみならず産業経済や政治も環境問題にどのように対応するかが重要なテーマである。本講義では、各分野で活動する専門家の講義を受けるとともに、演習や見学を通して環境問題の概略を理解する。

## 教科書 /Textbooks

日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会編著「エコアクションが地球を救う！第2版」丸善

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

北九州市環境首都研究会編著「環境首都 - 北九州市」日刊工業新聞社、米本昌平「地球環境問題とは何か」岩波新書、ほか授業中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境問題とは何か
- 2 環境と科学
- 3 環境問題演習① ( エネルギー消費 )
- 4 環境問題演習② ( 環境負荷 : BOD )
- 5 北九州の環境政策
- 6 環境問題と市民の役割
- 7 環境問題と企業の役割
- 8 環境問題と報道の役割
- 9 環境産業 ( 技術 ) の発展
- 10 自然史・歴史博物館の見学と講義
- 11 エコタウン施設の見学
- 12 環境問題事例研究ガイダンス① ( チーム編成 )
- 13 環境問題事例研究ガイダンス② ( 研究テーマの検討 )
- 14 環境問題事例研究ガイダンス③ ( テーマ決定、夏期休暇中の活動 )
- 15 まとめ  
( 講義の順番は講師の都合により入れ替る )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20% ( 講義内容への質問等も評価する )  
レポート 30% ( レポートは、講義内容や施設見学に関するもの )  
期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容に関する演習、小論文、課題提出等を課す。常に授業への集中力を持続すること。

## 履修上の注意 /Remarks

講師の都合等で、講義内容に変更が生じる場合がある。土曜日に施設見学を行う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義内容のノート・メモをとり、聴きながら整理する習慣をつけ、学校生活のペースを身につけること。そのためには、講義内容に関係した記事を新聞雑誌で読んだり、参考書で学習すること、友人と意見交換することを奨める。

## キーワード /Keywords

環境問題 生態系 環境負荷 エネルギー消費 北九州市 エコタウン

# 生物学

(Biology)

担当者名 /Instructor 原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科

## 授業の概要 /Course Description

生物学の導入として、( 1 ) 細胞の構造と細胞分裂、( 2 ) 遺伝、( 3 ) 生殖と発生、( 4 ) 系統進化と分類、( 5 ) 生物の生理、の各分野について概説します。本講義では、生物学を初めて学ぶ者にも理解できるように基本的な内容を平易に解説し、全学科の学生を対象に自然科学の教養としての生物学教育を行うとともに、生物系の専門課程の履修に最低限必要な生物学の基盤教育を行います。

## 教科書 /Textbooks

生物学入門 石川統 著、東京化学同人

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で適宜指示します

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 生体構成物質
- 2 細胞の構造
- 3 細胞の機能
- 4 細胞分裂
- 5 遺伝の法則
- 6 遺伝子
- 7 ヒトの遺伝
- 8 適応
- 9 進化
- 10 系統分類
- 11 配偶子形成
- 12 初期発生
- 13 植物の発生
- 14 刺激と反応
- 15 恒常性の維持

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80% 絶対評価します  
課題 20% 講義期間中に随時課します  
出席 評点には含めませんが、極力全講義に出席してください

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

生物学の理解のためには、化学、物理学の基礎的知識が必要です。本講義では、生物学を初めて学ぶ学生にも理解できるような平易な解説を行います。高校までの化学、物理学の知識は再確認しておいてください。

## 履修上の注意 /Remarks

平易な解説を行いますが、講義はすべて積み重ねであるので、一部の理解が欠如するとその後の履修に支障が生じます。そのため、毎回の講義を真剣に受講し、その場ですべてを完全に理解するように心がけてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物学が好きな学生、嫌いな学生ともに、基礎から学べるような講義を行います。すでに生物学を学んだことのある人は再確認を行い、また生物学初学者は基礎をしっかりと身につけ、専門科目へのつながりを作ってください。

## キーワード /Keywords

細胞・遺伝・系統進化・発生・生理



# 環境問題事例研究

(Case Studies of Environmental Issues)

担当者名 /Instructor  
 森本 司 / Tsukasa MORIMOTO / 基盤教育センターひびきの分室, 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19~)  
 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科, 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19~)  
 小野 大輔 / Daisuke ONO / 機械システム工学科, 村上 洋 / Hiroshi MURAKAMI / 機械システム工学科 (19~)  
 西 隆司 / Takashi NISHI / 情報メディア工学科, ゴドレール イヴァン / Ivan GODLER / 情報メディア工学科  
 デワンカー パート / Bart DEWANCKER / 建築デザイン学科 (19~), 陶山 裕樹 / Hiroki SUYAMA / 建築デザイン学科 (19~)  
 上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 実験・実習 クラス  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department  
 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

環境問題の本質を理解し、解決への糸口を見つける最善の方法は、直接現場に接することである。そして、多様な要素の中から鍵となる因子を抽出し、なぜ問題が発生したのかを考える。この環境問題事例研究では、チームごとに独自の視点で問題の核心を明らかにし、目標設定、調査手法選択、役割分担などの検討を経て、自主的に調査研究を進め、研究成果のとりまとめ・発表を行う。

## 教科書 /Textbooks

環境問題特別講義の教科書及びその中で紹介されている書籍、関連Webサイトを参考にすること。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

その他、参考となる書籍等については、その都度紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 研究計画の発表
- 3 調査研究の実施
- 4 調査研究の実施
- 5 調査研究の実施
- 6 中間発表会
- 7 調査研究の実施
- 8 調査研究の実施
- 9 発表準備、調査研究とりまとめ
- 10 発表準備、調査研究とりまとめ
- 11 第1次発表会 (口頭発表)
- 12 調査研究とりまとめ、調査研究報告書作成
- 13 第2次発表チームの発表、調査研究とりまとめ
- 14 第2次発表会 (口頭発表、ポスター発表)
- 15 表彰式

## 成績評価の方法 /Assessment Method

調査研究活動や発表等 50% チーム内での貢献度を評価する。  
 成果発表や報告書の成績 50% チーム内での貢献度を評価する。  
 以上を個人単位で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業計画は、あくまでも目安になるものである。この科目では、開講期間全体を通じ、時間管理を含めて、「学び」の全てとその成果を受講生の自主性に委ねている。

## 履修上の注意 /Remarks

調査研究は、授業時間内及び時間外に行う。フィールドワークを伴うことから、配付する資料に示される注意事項を守り、各自徹底した安全管理を行うこと。連絡は、基本的にオンライン学習システムを通して行う。

# 環境問題事例研究

(Case Studies of Environmental Issues)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業科目は、テーマに関連した北九州の環境や生産の現場を直接訪問し、自分の目で見、考えるとともに、分野を超えて友人や協力者のネットワークをつくる機会となる。積極的にかかわり、有意義な科目履修になることを期待する。

## キーワード /Keywords

# 生態学

(Ecology)

担当者名 /Instructor 原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科

## 授業の概要 /Course Description

生態系は、私たち人間も含めた生物と環境との相互作用によって成り立っています。この相互作用の基本となるものは物質とエネルギーで、生態系における物質・エネルギーの挙動と生物との関係を正しく理解する事が、諸々の環境問題の正しい理解とその解決策の検討には不可欠です。本講義では、このような観点から、( 1 ) 生態系の構造と機能、( 2 ) 個体群と生物群集の構造、( 3 ) 生物地球化学的物質循環、を中心に生態学の基礎的内容を講述します。

## 教科書 /Textbooks

生態学入門 -生態系を理解する- (原口昭 編著) 生物研究社

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○攪乱と遷移の自然史(重定・露崎編著)北海道大学出版会 ほか必要に応じて講義の中で指示します

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 地球環境と生物 - 生態系の成り立ち
- 2 生態系の構成要素 - 生物・環境・エネルギー
- 3 生物個体群の構造
- 4 種内関係
- 5 生態的地位
- 6 種間関係
- 7 生態系とエネルギー
- 8 生態系の中での物質循環
- 9 生態系の分布
- 10 生態系の変化 - 生態遷移
- 11 土壌の成り立ちと生物・環境相互作用
- 12 生態系各論：森林生態系・海洋生態系
- 13 生態系各論：陸水生態系・湿地生態系
- 14 生態系各論：農林地生態系・熱帯生態系
- 15 生態系各論：エネルギー問題と生態系

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト 80% 絶対評価します  
レポート 20% 講義中に随時実施します  
出席 評点には加えませんが、極力すべての講義に出席してください

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

工学系の学生にとっては初めて学習する内容が多いと思いますが、何よりも興味を持つことが重要です。そのために、生態系や生物一般に関する啓蒙書を読んでおくことをお勧めします。

## 履修上の注意 /Remarks

各回の講義の積み重ねで全体の講義が構成されていますので、毎回必ず出席して、その回の講義は完全に消化するよう努めてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題を考える上で生物の機能は不可欠な要素です。これまで生態系に関する講義を履修してこなかった学生に対しても十分理解できるように平易に解説を行いますので、苦手意識を持たずに取り組んでください。

## キーワード /Keywords

生態系・生物群集・個体群・エネルギー・物質循環

# 環境マネジメント概論

(Introduction to Environmental Management)

担当者名 /Instructor  
 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 乙間 末廣 / Suehiro OTOMA / 環境生命工学科  
 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 ( 19 ~ ), 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 ( 19 ~ )  
 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 2年次  
 単位 /Credits 2単位  
 学期 /Semester 2学期  
 授業形態 /Class Format 講義  
 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

多様な要素が関係する環境問題を解きほぐし、その対策・管理手法を考えるための基礎知識を修得することが目標である。まず、人間活動がどのように環境問題を引き起こしているのか、その本質的原因を知るために、経済システムや都市化、工業化、グローバル化といった視点から環境問題を捉える。次に、環境の現況把握のための評価手法、目標設定のための将来予測の考え方を学び、さらに、環境マネジメントの予防原則に則った法制度、国際規格、環境アセスメント、プロジェクト評価手法、環境リスク管理等の基礎を習得する。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない ( 講義ではプリントを配布する )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

環境システム ( 土木学会環境システム委員会編、共立出版 ) ○  
 環境問題の基本がわかる本 ( 門脇仁、秀和システム ) ○

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- < 環境問題を考える視点 >
- 1 環境システムとそのマネジメント ( 松本 )
- < 環境問題の原因を考える >
- 2 都市化・工業化・国際化 ( 二渡 )
- 3 市場と外部性 ( 加藤 )
- < 環境の状態をつかみ目標を決める >
- 4 地域環境情報の把握と環境影響予測 ( 野上 )
- 5 製品・企業の環境パフォーマンス ( 乙間 )
- 6 地球環境の把握と将来予測 ( 松本 )
- 7 経済学的手法による予測 ( 加藤 )
- < 環境をマネジメントする >
- 8 国内・国際法による政策フレーム ( 乙間 )
- 9 国際規格による環境管理 ( 二渡 )
- 10 開発事業と環境アセスメント ( 野上 )
- 11 環境関連プロジェクトの費用と便益 ( 加藤 )
- 12 環境リスクとその管理 ( 二渡 )
- 13 環境情報とラベリング ( 乙間 )
- < 事例研究 >
- 14 企業 ( 野上 )
- 15 行政 ( 松本 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テスト 42%  
 期末試験 58%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業毎に指示する。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の最後にその回の内容に関する小テストを実施するので集中して聞くこと。  
 欠席すると必然的に小テストの得点はゼロとなる。  
 小テストは講義の最後なので、早退の場合も欠席同様、小テストの得点はゼロとなるので注意が必要である。  
 30分以上の遅刻は、欠席扱いとする。

# 環境マネジメント概論

(Introduction to Environmental Management)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境生命工学科環境マネジメント分野の教員全員による講義です。環境問題の本質をつかみ、理解し、解決策を見出すための理念と基礎手法を解説します。工学部出身者として、今やどの分野で活躍する場合でも習得しておくべき知識と言っていいでしょう。

## キーワード /Keywords

# 環境と経済

(The Environment and Economics)

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

環境問題に関し、経済学的な観点から、社会にとって良い政策とは何かを考える。2部構成とし、第一部では、ミクロ経済学の知識を必要な範囲で伝授する。第二部では、環境税や排出権取引のしくみを説明する。実際の政策の議論では、さまざまな論点が混じり合い、これらの対策の本来の意義が見えにくくなっているため、原点に立ち返ることを学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

日引聡・有村俊秀「入門 環境経済学」中公新書

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

細田衛士「グッズとバツズの経済学」東洋経済新報社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：環境問題と経済学
- 2 需要曲線と消費者余剰
- 3 費用と供給曲線 1【費用の概念】
- 4 費用と供給曲線 2【供給曲線の導出】
- 5 供給曲線と生産者余剰
- 6 市場と社会的余剰 1【市場の機能】
- 7 市場と社会的余剰 2【社会的余剰の算出】
- 8 中間テストと前半の復習
- 9 環境問題と環境外部性
- 10 環境税のしくみ 1【社会的余剰最大化】
- 11 環境税のしくみ 2【汚染削減費用最小化】
- 12 排出権取引のしくみ 1【汚染削減費用最小化】
- 13 排出権取引のしくみ 2【初期配分の意義】
- 14 環境税と排出権取引の比較
- 15 まとめと全体の復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・中間テスト 40%  
 期末テスト 50%  
 レポート 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校レベルの微分積分および基本的な偏微分の知識を前提とします。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題に対する経済学的対処法に興味がある人は、ぜひ受講してください。理解促進のために5回程度の小テストを実施予定です。

## キーワード /Keywords

# 環境都市論

(Urban Environmental Management)

担当者名 /Instructor 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

アジア各国で進行している産業化、都市化、モータリゼーション、消費拡大とそれらに起因する環境問題には、多くの類似性が見られる。日本の経済発展と環境問題への対応は、現在、環境問題に直面するこれらの諸国への先行モデルとして高い移転可能性を持つ。本講では、北九州市を中心とした日本の都市環境政策を題材に、環境問題の歴史と対策を紐解き、その有効性と適用性について考える。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない（講義ではプリントを配布する）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

東アジアの開発と環境問題（勝原健、勁草書房）、その他多数（講義中に指示する）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロ（松本 亨）
- 2 日本の環境政策の歴史的推移（松本 亨）
- 3 産業公害に対する環境政策：北九州市洞海湾を例に（福岡女子大学・山田真知子教授）
- 4 化学物質による環境汚染とそのリスク（北九州市立大学・門上希和夫教授）
- 5 都市の土地利用・土地被覆と熱環境（崇城大学・上野賢仁准教授）
- 6 都市の廃棄物問題の現状と対策（日本環境衛生センター・大澤正明理事）
- 7 都市交通をめぐる環境問題とその総合対策（九州工業大学・寺町賢一准教授）
- 8 北九州の生物をめぐる水辺環境の問題（エコプラン研究所・中山歳喜代表取締役所長）
- 9 都市型水害の傾向と対策：みんなの力で街を守るには（福岡大学・渡辺亮一准教授）
- 10 物質循環から見た循環型社会の姿（松本 亨）
- 11 持続可能な社会構築における行政計画の役割（九州環境管理協会・古賀照久上席研究員）
- 12 北九州市のアジア低炭素化戦略（北九州市アジア低炭素化センター・飯塚誠マネージャー）
- 13 社会起業と環境コミュニティビジネス（西日本産業貿易コンベンション協会・古賀敦之課長）
- 14 都市環境の包括的マネジメント（松本 亨）
- 15 まとめ（松本 亨）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業への積極的参加）10% ※2/3以上出席すること  
毎回の復習問題 60%  
期末試験 30% ※毎回の復習問題（選択式小テスト）の復習

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業毎に指示する。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の最後にその回の内容に関する復習問題（選択式）を実施するので集中して聞くこと。  
欠席すると必然的にこの得点が無いので注意。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市の環境への取り組みの現状と課題について、その第一線で関わってこられた研究者・行政担当者に講述していただきます。学生諸君は、北九州市で過ごした証に、北九州市の環境政策について確実な知識と独自の視点を有して欲しい。

## キーワード /Keywords

# 英語コミュニケーション I

(English Communication I)

担当者名 /Instructor 長 加奈子 / Kanako CHO / 基盤教育センターひびきの分室, 岡本 清美 / Kiyomi OKAMOTO / 基盤教育センターひびきの分室  
 プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室, 三宅 啓子 / Keiko MIYAKE / 非常勤講師  
 工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師, 棚町 温 / Atsushi TANAMACHI / 非常勤講師  
 工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は別途お知らせします。

## 授業の概要 /Course Description

本授業はTOEIC®に出題される題材を用いながら、英語の基本的な文法・語彙を復習するとともに、コミュニケーションの道具としての英語力を身につける。この授業では特に以下の3つを到達目標とする。

- ①基本的な英語の文法を習得する
- ②基本的な英語の語彙を習得する
- ③TOEICにおいて400点を突破する

またこの授業を通して、卒業後の英語学習にも活用できる様々な学習方法やスキルを修得および実践する。

## 教科書 /Textbooks

- ①『Mastery Drills for the TOEIC® Test [All in One]』(早川幸治 著)ピアソン桐原 ¥1,700
- ②『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』朝日出版社 ¥2,800

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業開始後、各担当者より指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 <合同授業>オリエンテーション・技術者と英語学習について
- 第2回 <合同授業>eラーニングを用いたTOEIC演習(1)
- 第3回 Unit 1 人物の動作と状態 ( Part 1 ) , 表・用紙 ( Part 7 )
- 第4回 Unit 2 疑問詞を使った疑問文 ( Part 2 )
- 第5回 Unit 2 手紙・Eメール ( Part 7 )
- 第6回 Unit 3 電話での会話 ( Part 3 ) , 品詞 ( Part 5 )
- 第7回 Unit 4 留守番電話 ( Part 4 ) , 動詞 ( Part 5 )
- 第8回 Unit 5 物の状態と位置 ( Part 5 )
- 第9回 <合同授業>eラーニングを用いたTOEIC演習
- 第10回 Unit 5 広告 ( Part 7 )
- 第11回 Unit 6 基本構文と応答の決まり文句 ( Part 2 )
- 第12回 Unit 6 ダブルパッセージ ( Part 7 )
- 第13回 Unit 7 屋外や交通機関での会話 ( Part 3 )
- 第14回 Unit 7 代名詞・関係代名詞 ( Part 5 )
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ①TOEICのスコア 40%
- ②小テスト・課題 40%
- ③課題 ( eラーニングの学習履歴 ) 20%



# 英語コミュニケーション I

(English Communication I)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第1回目の授業において教科書を使用するため、それまでに必ず教科書を購入しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

TOEICスコアの提出方法については、第1回目の授業において詳細を説明する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「野球がうまくなりたい」としよう。プロ野球の試合を見ているだけでうまくなるだろうか。決してそんなに甘いものではない。自ら地道に毎日トレーニングを積み、練習試合を重ねて初めて、試合で満足のいくプレイができるようになるだろう。英語も同じである。授業を受けている(見ている)だけでは、決して上達しない。毎日の学習・練習・実践が必要である。

学生一人ひとりの自覚と努力を期待する。

## キーワード /Keywords

# TOEFL/TOEIC演習

(TOEFL/TOEIC Preparation Course)

担当者名 /Instructor  
長 加奈子 / Kanako CHO / 基盤教育センターひびきの分室, 柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室  
酒井 秀子 / Hideko SAKAI / 非常勤講師, 三宅 啓子 / Keiko MIYAKE / 非常勤講師  
工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師, 棚町 温 / Atsushi TANAMACHI / 非常勤講師  
植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期/2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department  
【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

ビジネス社会において、ますますTOEICのスコアが重要視されるようになってきている。そのTOEICの概要を把握する為に、各パートの出題形式およびその解答の方策を学ぶとともに、470点を突破できる英語力を身に付けることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

『Tactics for TOEIC Listening and Reading Test』 ( Grant Trew著 ) Oxford University Press ￥2,630

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業開始後、各担当者より指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Part 1 写真を用いて推測する
- 第2回 Part 2 事実に関する応答問題
- 第3回 Part 3 設問を活用した内容予測
- 第4回 Part 4 設問を活用した内容予測
- 第5回 Part 5 様々な品詞
- 第6回 Part 6 動詞の形と意味
- 第7回 Part 7 スキャニング
- 第8回 Part 1 動詞の聞き取り
- 第9回 Part 2 様々な応答
- 第10回 Part 3 本文と設問の関係
- 第11回 Part 4 様々なwhat疑問文
- 第12回 Part 5 動詞の形、句動詞
- 第13回 Part 6 品詞 ( 形容詞と副詞 )
- 第14回 Part 7 語いの意味を文脈から推測する
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ①期末試験 ( 全クラス統一試験 ) 60%
- ②小テスト 20%
- ③課題 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修希望者が40名を超えるクラスについては、履修制限をかけることがある。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

年々、TOEICのスコアを活用している企業数は増しており、採用条件や昇進の条件としてTOEICのスコアを課す企業も増えてきた。そのような社会の状況を踏まえ、この授業では単に問題を解くだけでなく、卒業後も活用できるようなTOEICの効果的な学習方法も身につけてもらう。目標スコアに到達するためには、授業だけでは不十分である。授業で教わったことをもとに、各自が授業時間外に自主的に学習することが期待される。学生一人ひとりの自覚と努力を期待する。

# TOEFL/TOEIC演習

(TOEFL/TOEIC Preparation Course)

キーワード /Keywords

# 英語コミュニケーション II

(English Communication II)

担当者名 /Instructor  
長 加奈子 / Kanako CHO / 基盤教育センターひびきの分室, 岡本 清美 / Kiyomi OKAMOTO / 基盤教育センターひびきの分室  
プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室, 三宅 啓子 / Keiko MIYAKE / 非常勤講師  
工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師, 棚町 温 / Atsushi TANAMACHI / 非常勤講師  
工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師, 植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
											○	○

対象学科 /Department  
【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は別途お知らせします。

## 授業の概要 /Course Description

本授業は第1学期に引き続き、TOEIC®に出題される題材を用いながら、英語の基本的な文法・語彙を復習するとともに、コミュニケーションの道具としての英語力を身につける。この授業では特に以下の3つを到達目標とする。

- ①基本的な英語の文法を習得する
- ②基本的な英語の語彙を習得する
- ③TOEICにおいて470点を突破する

またこの授業を通して、卒業後の英語学習にも活用できる様々な学習方法やスキルを修得および実践する。

## 教科書 /Textbooks

第1学期に使った以下の教科書を引き続き使用する。

- ① 『Mastery Drills for the TOEIC® Test [All in One]』 (早川幸治 著) ピアソン桐原 ¥1,700
- ② 『eラーニングによる新TOEIC TEST徹底レッスン』 朝日出版社 ¥2,800

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業開始後、各担当者より指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 <合同授業>eラーニングを用いたTOEIC演習(1)

- 第2回 Unit 8 アナウンス (Part 4)
- 第3回 Unit 8 接続詞・前置詞 (Part 5)
- 第4回 Unit 9 Yes/No疑問文 (Part 2)
- 第5回 Unit 9 Part 7の復習
- 第6回 Unit 10 店での会話 (Part 3)
- 第7回 Unit 10 Part 5の復習
- 第8回 Unit 11 ラジオ放送 (Part 4)
- 第9回 Unit 11 時制・代名詞・語い問題 (Part 6)

第10回 <合同授業>eラーニングを用いたTOEIC演習(2)

- 第11回 Unit 12 オフィスでの会話 (Part 3), つなぎ言葉 (Part 6)
- 第12回 Unit 13 ツアー・トーク・スピーチ (Part 4)
- 第13回 Unit 13 Part 6の復習
- 第14回 Unit 14 Part 1~4の復習
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ①TOEICのスコア 40%
- ②小テスト・課題 40%
- ③課題 (eラーニングの学習履歴) 20%

# 英語コミュニケーション II

(English Communication II)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「野球がうまくなりたい」としよう。プロ野球の試合を見ているだけでうまくなるだろうか。決してそんなに甘いものではない。自ら地道に毎日トレーニングを積み、練習試合を重ねて初めて、試合で満足いくプレイができるようになるだろう。英語も同じである。授業を受けている(見ている)だけでは、決して上達しない。毎日の学習・練習・実践が必要である。

学生一人ひとりの自覚と努力を期待する。

## キーワード /Keywords

# 英語コミュニケーション IV

(English Communication IV)

担当者名 /Instructor クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室, プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室  
クレシーニ リズ / Riz CRESCINI / 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は別途お知らせします。

## 授業の概要 /Course Description

This is a presentation and discussion-based English communication course. Students will be taught basic presentation skills, especially how to correctly construct and deliver an effective presentation. Focus will be put on writing the presentation, teamwork, visual aid design, English fluency, and body language. Students will be taught two presentation styles, comparative and persuasive, and be assigned various tasks to help them acquire proficiency. They will be required to do four group or individual presentations during this course. Students will also learn the skills to discuss in English various topics with teachers and classmates. Emphasis will be placed on acquiring the necessary vocabulary and grammar skills to make this interaction possible.

## 教科書 /Textbooks

English With Confidence!  
Presentation and Discussion about Important Topics in Today's World  
Anne Crescini and Roger Prior  
  
Available in the University Bookstore

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction  
Week 2: Children; Presentation Skills #1  
Week 3: Children; Presentation Practice  
Week 4: Working Holiday; Presentation Skills #2  
Week 5: Working Holiday; Comparative Presentation #1  
Week 6: Education; Presentations Skills #3  
Week 7: Education; Comparative Presentation #2  
Week 8: Midterm Review  
Week 9: Technology; Presentation Skills #4  
Week 10: Technology; Persuasive Presentation #1  
Week 11: Family; Presentation Skills #5  
Week 12: Family; Persuasive Presentation #2  
Week 13: Career; Presentation Skills #6  
Week 14: Career; Final Review  
Week 15: Final Presentations

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments-10%  
Presentations-40%  
Final Presentation-20%  
Final Exam-30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are encouraged to bring an English dictionary to class every week.

## 履修上の注意 /Remarks

# 英語コミュニケーション IV

(English Communication IV)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English communication course taught by native English speakers. Please keep in mind that you will be expected to speak English in this class, and your teacher will do the same.

## キーワード /Keywords

presentation skills; discussion

# 英語リテラシー I

(English Literacy I)

担当者名  
/Instructor

柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室, 岡本 清美 / Kiyomi OKAMOTO / 基盤教育センターひびきの分室  
ブライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室, 三宅 啓子 / Keiko MIYAKE / 非常勤講師  
國崎 倫 / Rin KUNIZAKI / 非常勤講師, 酒井 秀子 / Hideko SAKAI / 非常勤講師  
三宅 啓子 / Keiko MIYAKE / 非常勤講師, 工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科  
/Department

【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は別途お知らせします。

## 授業の概要 /Course Description

本授業では1年次において学習した内容を踏まえ、英語の「読み」「書き」という文字による英語のコミュニケーションの力を養成する。この授業では特に以下の項目を到達目標とする。

- ① 自分が興味を持っている分野についての英文を辞書を用いながら読むことができる
- ② 読解に必要なストラテジーを使うことができる
- ③ 文法的に正しい英文を書くことができる
- ④ 辞書を用いずに平易な英語の文章を読むことができる

またこの授業を通して、卒業後の英語学習にも活用できる様々な学習方法やスキルを習得及び実践する。

## 教科書 /Textbooks

English for Science, Nan'un-do, ¥2,100  
TOEIC対策 e-learning 教材 u-cat, 朝日出版社, ¥2,100

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業開始後、各担当者より指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction  
Week 2 Unit1-1 The Composition of Matter  
Week 3 Unit1-2 The Infinitesimal Atom  
Week 4 Review  
Week 5 Unit 2-1 The Elements  
Week 6 Unit 2-2 The Life-Supporting Gases  
Week 7 Review  
Week 8 Unit 3-1 Color, Light, and Sound  
Week 9 Unit 3-2 Reflecting on Light  
Week 10 Review  
Week 11 Unit 4-1 Motion and Gravity  
Week 12 Unit 4-2 Newton Explains Motion  
Week 13 Review  
Week 14 Unit 5-1 Energy  
Week 15 Unit 5-2  $E = mc^2$

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 期末試験 50%
- ② 小テスト・課題 20%
- ③ TOEICスコア 20%
- ④ 課題 (Extensive Reading) 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

## 履修上の注意 /Remarks



# 英語リテラシー I

(English Literacy I)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

読むこと、書くことの課題をこなしながら英語の意味、文法、構造を学習していきます。授業の準備である予習と、学んだ内容を定着させる復習を確実に行うことが、外国語を自分のものにする鍵になります。

## キーワード /Keywords

# 英語リテラシー II

(English Literacy II)

担当者名 /Instructor  
 柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室, 岡本 清美 / Kiyomi OKAMOTO / 基盤教育センターひびきの分室  
 プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室, 三宅 啓子 / Keiko MIYAKE / 非常勤講師  
 國崎 倫 / Rin KUNIZAKI / 非常勤講師, 酒井 秀子 / Hideko SAKAI / 非常勤講師  
 三宅 啓子 / Keiko MIYAKE / 非常勤講師, 工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師  
 植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department  
 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は別途お知らせします。

## 授業の概要 /Course Description

第1学期において学習した内容を踏まえ、より高度な英語の「読み」「書き」の力を養成する。この授業では特に以下の項目を到達目標とする。

- ① 自分が興味を持っている分野について辞書を用いながら長い英文を読むことができる
- ② 読解に必要なストラテジーを効果的に使うことができる
- ③ 自分が書いた英文の間違いを指摘し、正しい英文を書くことができる
- ④ 辞書を用いずに平易な英文を大量に読むことができる

またこの授業を通して、卒業後の英語学習にも活用できる様々な学習方法やスキルを習得及び実践する。

## 教科書 /Textbooks

English for Science, Nan'un-do, ¥2,100  
 TOEIC対策 e-learning 教材 u-cat, 朝日出版社, ¥2,100

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業開始後、各担当者が指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction  
 Week 2 Unit 6-1 Heat  
 Week 3 Unit 6-2 How Heat Is Transferred  
 Week 4 Review  
 Week 5 Unit 7-1 Smoking, Drugs, and Alcohol  
 Week 6 Unit 7-2 The Danger of Drugs  
 Week 7 Review  
 Week 8 Unit 8-1 Electricity and Magnetism  
 Week 9 Unit 8-2 The Magic of a Magnet  
 Week 10 Review  
 Week 11 Unit 9-1 Liquids and Gases  
 Week 12 Unit 9-2 What Makes Objects Float?  
 Week 13 Review  
 Week 14 Unit 10-1 The Origin of Life  
 Week 15 Unit 10-2 Evolution

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 期末試験 50%
- ② 小テスト・課題 20%
- ③ TOEICスコア 20%
- ④ 課題 (Extensive Reading) 10%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

## 履修上の注意 /Remarks

# 英語リテラシー II

(English Literacy II)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

読むこと、書くことの課題をこなしながら英語の意味、文法、構造を学習していきます。授業の準備である予習と、学んだ内容を定着させる復習を確実に行うことが、外国語を自分のものにする鍵になります。

## キーワード /Keywords

# 英語コミュニケーション III

(English Communication III)

担当者名 /Instructor クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室, プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室  
クレシーニ リズ / Riz CRESCINI / 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は別途お知らせします。

## 授業の概要 /Course Description

This is a presentation and discussion-based English communication course. Students will be taught basic presentation skills, especially how to correctly construct and deliver an effective presentation. Focus will be put on writing the presentation, teamwork, visual aid design, English fluency, and body language. Students will be taught two presentation styles, overview and process, and be assigned various tasks to help them acquire proficiency. They will be required to do four group presentations during this course. Students will also learn the skills to discuss in English various topics with teachers and classmates. Emphasis will be placed on acquiring the necessary vocabulary and grammar skills to make this interaction possible.

## 教科書 /Textbooks

English With Confidence!  
Discussion and Presentation About Important Topics in Today's World  
Anne Crescini and Roger Prior  
  
Available in the University Bookstore

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

None

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction  
Week 2: Communication; Presentation Skills #1  
Week 3: Communication; Presentation Practice  
Week 4: Stereotypes; Presentation Skills #2  
Week 5: Stereotypes; Overview Presentation #1  
Week 6: Sports; Presentation Skills #3  
Week 7: Sports; Overview Presentation #2  
Week 8: Midterm Review  
Week 9: Food; Presentation Skills #4  
Week 10: Food; Process Presentation #1  
Week 11: Travel; Presentation Skills #5  
Week 12: Travel; Process Presentation #2  
Week 13: The Environment; Presentation Skills #6  
Week 14: The Environment; Final Review  
Week 15: Final Presentations

## 成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments-10%  
Presentations-40%  
Final Presentation- 20%  
Final Exam-30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are encouraged to bring an English dictionary to class every week.

## 履修上の注意 /Remarks

# 英語コミュニケーション III

(English Communication III)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English communication course taught by native English speakers. Please keep in mind that you will be expected to speak English in this class, and your teacher will do the same.

## キーワード /Keywords

presentation skills; discussion

# ビジネス英語

(Business English)

担当者名 /Instructor 長 加奈子 / Kanako CHO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

現代社会において、英語は技術者の「常識」の1つである。科学技術に国境はなく、最先端の情報を得るためには、英語をコミュニケーションツールとして用いることができることが必須である。本科目では、技術者に必要な英語のうち、特に、就職した後、企業等で必要となるビジネス関係の英語を学習する。英語の「読む・聞く・話す・書く」の四技能のすべてを扱う。

## 教科書 /Textbooks

Tech Talk: Pre-Intermediate, Oxford University Press

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション, レベルチェック
- 第2回 What's the Job?
- 第3回 Is That Correct?
- 第4回 What Are the Numbers?
- 第5回 How does it Work?
- 第6回 What Happened?
- 第7回 Can you Fix it?
- 第8回 I Need Some More Information
- 第9回 What should We Do?
- 第10回 Take Care
- 第11回 What's it Like?
- 第12回 How do you do it?
- 第13回 Watch Out!
- 第14回 Out and About
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 20%  
課題 30%  
期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

技術者, 英語, ビジネス

# 科学技術英語

(English for Scientists and Engineers)

担当者名 /Instructor 岡本 清美 / Kiyomi OKAMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 1単位  
学期 /Semester 1学期/2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

【達成目標】主として大学院進学希望者を対象として、英語での就学・研究活動に必要なアカデミック英語を、リーディング・ライティングを中心に演習形式で学習する。加えて、ノートテイキング・プレゼンテーションなどのスタディスキルの習得、基礎語彙・文法の確認を行う。

【達成目標】アカデミック英語の基礎的なスキルを身に付ける。

## 教科書 /Textbooks

S. Philpot & L. Curnick: Headway Academic Skills (Reading, Writing, and Study Skills) Level 1 (2011) Oxford University Press

マーフィー : マーフィーのケンブリッジ英文法(中級編) (2010) Cambridge University Press

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Oxford Students' Dictionary of English (2008) Oxford University Press

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業概要、演習課題の説明、チェックテスト
2. Unit 1: Reading methods, Describing people, Dictionary work (1)
3. Unit 2: Skimming, Paragraphs, Collocations
4. Review: Units 1 & 2
5. Unit 3: Scanning, Punctuation, Recording vocabulary
6. Unit 4: Making notes, Linking ideas, Dictionary work (2)
7. Review: Units 3 & 4
8. Unit 5: Predicting contents, Writing email, Spelling
9. Unit 6: Using visuals, Writing definitions, Homophones
10. Review: Units 5 & 6
11. Unit 7: Topic sentence, Using pronouns, Prefixes
12. Unit 8: Avoiding repetition, Summaries, Facts and figures
13. Unit 9: Organizing notes, Grammar errors, Reliable sources
14. Review: Units 7, 8, & 9
15. Review: Unit 1-9

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度30%  
小テスト40%  
期末試験30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業は予習を前提に進める。授業外課題(文法復習)をe-learningで行う。

## 履修上の注意 /Remarks

大学院の「技術英語特論」への導入科目と位置づけられるので、進学予定者は履修しておくことが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アカデミック英語といっても、基本は基礎語彙・文法です。徹底的な復習を通して、一層の英語力向上を目指しましょう。

## キーワード /Keywords

# 英語表現法

(Advanced English)

担当者名 /Instructor	柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室, クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室 プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室																																			
履修年次 3年次 /Year	単位 1単位 /Credits	学期 1学期 /Semester	授業形態 講義 /Class Format	クラス /Class																																
対象入学年度 /Year of School Entrance	<table border="1"> <thead> <tr> <th>2001</th><th>2002</th><th>2003</th><th>2004</th><th>2005</th><th>2006</th><th>2007</th><th>2008</th><th>2009</th><th>2010</th><th>2011</th><th>2012</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> </tr> </tbody> </table>												2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012								○	○	○	○	○
2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012																									
							○	○	○	○	○																									
対象学科 /Department	【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科																																			

## 授業の概要 /Course Description

本コースは、ライティングの基礎となる意味表現法を学ぶとともに、英語論文の構成要素であるパラグラフの書き方を学習する。パラグラフのトピックセンテンスやサポートセンテンスなどの役割から、説明、比較、分析などといった各種のパラグラフの特徴まで学ぶ。学生は、パラグラフ構成に沿って、自分が興味を持っている内容について、自分の考えを英語で表現することが求められる。

## 教科書 /Textbooks

Paragraph Writing (Macmillan Languagehouse)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業において各担当者が指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction  
 Week 2 Unit 1 Beginning to Work  
 Week 3 Unit 2 Giving and Receiving Presents  
 Week 4 Unit 3 A Favorite Place  
 Week 5 Review (1)  
 Week 6 Unit 4 An Exceptional Person  
 Week 7 Unit 6 White Lies  
 Week 8 Unit 7 Explanations and Excuses  
 Week 9 Unit 8 Problems  
 Week 10 Review (2)  
 Week 11 Unit 9 Strange Stories  
 Week 12 Unit 10 Differences  
 Week 13 Unit 11 Difficult Decisions  
 Week 14 Unit 12 Fate or Choice  
 Week 15 Review (3)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験: 50 %  
 ライティング課題及び小テスト: 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業の予習・復習をしっかりと行うこと

## 履修上の注意 /Remarks

なし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

## キーワード /Keywords



# 英語リテラシー III

(English Literacy III)

担当者名 /Instructor プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室, クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室  
植田 正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 「専門英語II ( 日英語比較論 ) 」の受講生が「英語リテラシーIII」を受講する場合、当該授業の参加に加え、日英語比較論に関するレポートの提出を求めます。

## 授業の概要 /Course Description

本コースは、英語論文の構成要素であるパラグラフを組み合わせて、決まったテーマについて自分の考えを英語で論理的に表現できるようになることを目的とする。パラグラフ構成と文章全体の構成を意識しながら、モノを比較する文章や問題提示と解決を述べる文章など、各種の文体の書き方を学習する。

## 教科書 /Textbooks

Success with College Writing (Macmillan Languagehouse)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業において各担当者が指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction  
Week 2 Unit 1 Pre-Writing: Getting Ready to Write  
Week 3 Unit 2 The Structure of a Paragraph  
Week 4 Unit 3 The Development of a Paragraph  
Week 5 Review (1)  
Week 6 Unit 4 Descriptive and Process Paragraphs  
Week 7 Unit 5 Opinion Paragraphs  
Week 8 Unit 6 Comparison / Contrast Paragraphs  
Week 9 Unit 7 Problem / Solution Paragraphs  
Week 10 Review (2)  
Week 11 Unit 8 The Structure of an Essay  
Week 12 Unit 9 Outlining an Essay  
Week 13 Unit 10 Introductions and Conclusions  
Week 14 Unit 11 Unity and Coherence  
Week 15 Final Review

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験： 40%  
期末レポート： 30%  
課題・小テスト： 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業の予習、復習をしっかりと行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

英語表現法を履修していることが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

## キーワード /Keywords

# 一般化学

(General Chemistry)

担当者名 /Instructor 秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 ( 19~ ), 石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科  
大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 ( 19~ )

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択】 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

化学の基礎を学ぶために、身近な物質を題材として構造や性質を化学および物理の原理に基づいて学ぶ。まず、身近な有機・無機材料の構造や性質について学習する。いくつかの例についてはどのようにして工業的に製造されるかを学ぶ。また、暮らしの中の先端材料について学び、化学物質、材料について関心を持つ。これらの内容を通じて、複雑そうに見える物質や材料あるいは化学現象でも周期表の見方と化学結合の基礎に立てば、比較的単純な物理や化学の法則を用いて理解できることを学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

講義にて紹介

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

講義にて紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 原子と分子の構造・物質とは
- 2 気体の特徴、気体分子運動論
- 3 化学結合の形成と性質
- 4 固体、液体
- 5 化学変化とエネルギー
- 6 反応速度と化学平衡
- 7 酸と塩基
- 8 酸化と還元
- 9 電解質と電気化学
- 10 有機化学(1)有機化合物とは
- 11 有機化学(2)炭化水素化合物の命名法
- 12 有機化学(3)官能基をもつ有機化合物の命名法
- 13 有機化学(4)有機化合物の構造の特徴
- 14 有機化学(5)有機化合物の結合
- 15 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習 30%  
レポート 20%  
試験 50% (小試験および講義全体を範囲とした期末試験)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校での化学1および化学2について十分復習する。

## 履修上の注意 /Remarks

授業は導入が主体であるので、与えられた教科書により十分復習することが必要である。  
特に、エネルギー循環化学科、環境生命工学科の学生については、今後の大学における化学系科目を履修する上で大前提となる科目なので、十分な学習が必要である。  
第2学期開講の基礎有機化学(エネルギー循環化学科、環境生命工学科必修科目)では、ここでの有機化学の内容が修得されているものとして講義が進められますので、履修予定の学生はよく理解しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題を考えるとき、物質の化学的変化への認識は避けられません。我々の生活やその他の生命活動、資源の利用などの根本が物質の真の変化に基いていることを理解しましょう。また、化学は本当は単純で理解し易いものです。複雑な化学式を理解しなくても化学は分かるのです。

## キーワード /Keywords

# 微分・積分

(Calculus)

担当者名 /Instructor 山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ ) , 磯田 隆聡 / Takaaki ISODA / 環境生命工学科 ( 19 ~ )

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

/Department

※お知らせ/Notice 補習数学の受講対象者は、補習科目の最終判定に合格しない限り単位の修得ができません。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、2年生から本格的に化学専門講義が開始されるのに先立ち、化学と関係の深い微分・積分を対象とした基礎数学の講義を目的としています。最終的に、微分・積分を含む化学分野の基礎的問題を解く能力を育成することを目標としています。

## 教科書 /Textbooks

「化学を学ぶ人の基礎数学」 化学同人 ( ISBN: 9784759807851 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

無し

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 履修の注意説明：前半  
特殊関数 - 1 ) 変数と関数の一般形
- 2 特殊関数 - 2 ) 指数関数・対数関数
- 3 特殊関数 - 3 ) 三角関数
- 4 微分 - 1 ) 導関数と還元公式
- 5 微分 - 2 ) 様々な関数の微分
- 6 微分 - 3 ) 二次導関数とその応用：気体の状態方程式
- 7 微分 - 4 ) 偏微分とその応用：化学熱力学の法則
- 8 前半まとめ
- 9 履修の注意説明：後半  
積分 - 1 ) 微分の復習と積分
- 10 積分 - 2 ) 基本関数の積分・置換積分
- 11 積分 - 3 ) 部分積分
- 12 積分 - 4 ) 定積分
- 13 積分 - 5 ) 積分の応用例
- 14 積分 - 6 ) 演習
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 50%  
期末テスト 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

判らない点があれば、授業の後に遠慮なく質問して下さい。授業日以外でも教員室にて受付けます。

## 履修上の注意 /Remarks

前半・後半講義の初回に、各々の担当教員から履修上の注意点を説明します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学現象はこれをモデル化し、定量的に解析することが要請されます。数学を楽しく克服して良き工学者を目指して下さい。

## キーワード /Keywords

# 化学実験基礎

(Fundamental Chemical Experiment)

担当者名 /Instructor 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ ) , 中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 ( 19 ~ )  
上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科, 今井 裕之 / Hiroyuki IMAI / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 開講期が第1学期から第2学期になりますので注意してください。補習化学の受講対象者は、補習科目の最終判定に合格しない限り単位の修得ができません。

## 授業の概要 /Course Description

化学実験に関する基本的な知識、考え方、技術などを習得する。

## 教科書 /Textbooks

「実験テキスト」、「化学のレポートと論文の書き方」(監修:小川雅彌ら、化学同人)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 実験ノート・レポートの書き方
- 3 実験器具・試薬の取り扱い方
- 4 重量測定
- 5 温度・熱量測定 1日目
- 6 温度・熱量測定 2日目
- 7 pH測定 1日目
- 8 pH測定 2日目
- 9 吸光度測定 1日目
- 10 吸光度測定 2日目
- 11 中和滴定 1日目
- 12 中和滴定 2日目
- 13 酸化還元滴定 1日目
- 14 酸化還元滴定 2日目
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

実験の実施 50%  
レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に実験テキストを熟読し、目的や方法などを各自でまとめて実験に臨むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

本実験を通して習得する基礎知識、考え方、取り扱い方、まとめ方などは、2年次以降で行われる各種専門実験や卒業研究の基礎となります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学は実験によって進歩してきた学問です。高等学校ではほとんど化学実験が行われなくなっている今、実験がいかに大切で難しいかを体験してもらいたいと思います。

## キーワード /Keywords

# 微分方程式

(Differential Equation)

担当者名 /Instructor 楠田 哲也 / Tetsuya KUSUDA / エネルギー循環化学科, 乙間 未廣 / Suehiro OTOMA / 環境生命工学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

本講義では2年生から本格的に専門の講義が開始されるのに先立ち、化学や生物と関係の深い数学分野につき基礎的学力を養うことを目的とする。具体的には、微分方程式を対象とし、数式を実際に使いこなすだけでなく、微分方程式で表される科学現象を理解することを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

初回授業までに掲示等で連絡

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○「化学を学ぶ人の基礎数学」(化学同人)、「工業数学上・下」(ブレイン図書出版)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 微分方程式とは
- 2 常微分方程式の基礎概念
- 3 変数分離による常微分方程式の解法
- 4 一階線形常微分方程式の解法
- 5 完全微分形
- 6 同次線形微分方程式の解法
- 7 非同次線形微分方程式の解法
- 8 前半総括
- 9 微分演算子と逆演算子
- 10 逆演算子による微分方程式の解法
- 11 級数による常微分方程式の解法
- 12 常微分方程式の近似解法
- 13 偏微分
- 14 全微分・完全微分
- 15 応用事例

## 成績評価の方法 /Assessment Method

宿題・考査 40%  
期末テスト 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校の理系の数学(微分・積分を含む)を習得しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

宿題を出すので滞りなく提出すること

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究者・技術者は、現象を理解するだけでなく、それをモデル化し、定量的に解析することも要求される。そのために必要とされる数学的素養をしっかりと身につけて欲しい。

## キーワード /Keywords

# 化学熱力学

(Chemical Thermodynamics)

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 ( 19 ~ ), 西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科 【選択】 機械システム工学科

## 授業の概要 /Course Description

物理化学は化学の原理を探究する学問であり、化学を学ぶものにとっては必要不可欠なものである。本講義では、物理化学の基礎として極めて重要な熱力学について講義する。

## 教科書 /Textbooks

ポール 物理化学(上) 化学同人 (ISBN978-4-7598-0977-0)

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

入門 熱力学-実例で理解する 培風館 (ISBN978-4-5630-4548-7)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 有効数字、次元、単位
- 気体と熱力学第0法則 状態方程式
- 気体と熱力学第0法則 偏導関数と気体の法則
- 気体と熱力学第0法則 非理想気体
- 熱力学第1法則 仕事と熱、内部エネルギー
- 熱力学第1法則 エンタルピー
- 熱力学第1法則 状態関数、熱容量
- 前半のまとめ
- 熱力学第2法則と第3法則 カルノーサイクルと熱効率
- 熱力学第2法則と第3法則 エントロピー
- 熱力学第2法則と第3法則 系の秩序
- 熱力学第2法則と第3法則 化学反応のエントロピー
- 自由エネルギーと化学ポテンシャル ギブズエネルギーとヘルムホルツエネルギー
- 自由エネルギーと化学ポテンシャル 自然な変数の式、マクスウェルの関係式
- 自由エネルギーと化学ポテンシャル ギブズ・ヘルムホルツの式

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (小テスト等) 20%  
中間テスト 40%  
期末テスト 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関数電卓を持参すること。テキストをよく読んでくること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

物理化学は原理を理解することだけでなく、それを使って正確な値を導けることが重要です。講義の中で適宜、演習を行いますので、積極的に取り組み、計算にも慣れてください。

## キーワード /Keywords

# 基礎有機化学

(Fundamental Organic Chemistry)

担当者名 /Instructor 秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

有機化学は、化学の中で物理化学や無機化学などと並んで極めて重要な学問領域である。本講義では、有機化合物の構造や反応性について理解し、有機化学の基礎を修得することを目標とします。

## 教科書 /Textbooks

現代有機化学(上)第4版(K. ピーター C. ヴォルハルト / ニール E. ショアー) 化学同人

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しない

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 有機化合物の分類、原子の電子配置、原子軌道
- 2 化学結合と8電子則、分子軌道と共有結合
- 3 混成軌道、極性をもつ結合
- 4 共鳴構造
- 5 共鳴構造、構造と反応性 (1) 化学反応の速度論と熱力学
- 6 構造と反応性 (2) 酸・塩基
- 7 構造と反応性 (3) 酸・塩基、官能基
- 8 前半のまとめ
- 9 演習解答・アルカン(1)アルカンの構造・立体配座
- 10 アルカン (2) アルカンの反応
- 11 シクロアルカン
- 12 立体異性体 (1) 立体異性体 (1) キラルな分子、光学活性
- 13 立体異性体 (2) 絶対配置、複数の立体中心を持つ分子
- 14 ハロアルカンの性質と反応 (1) ハロアルカンの性質、求核置換反応
- 15 ハロアルカンの性質と反応 (2) 求核置換反応の反応機構と反応性に影響を与える因子

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 40% 中間試験直前までの範囲にわたり出題  
期末テスト 60% 全範囲にわたり網羅的に出題

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読み、演習問題を解くこと

## 履修上の注意 /Remarks

2年次で開講される有機化学I、有機化学IIおよび有機化学実験の基礎となる科目であるので十分に予復習を行い、理解すること。  
1年次1学期に開講される一般化学のうち、有機化学分野の内容が理解されていることを前提として講義を行います。十分に復習しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

テキストに出てくる専門用語や記述の仕方になれることが大切です。そのためによく予習、復習を行うようにしてください。

## キーワード /Keywords

# 基礎無機化学

(Fundamental Inorganic Chemistry)

担当者名 鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

環境問題を解決するためには多くの化学製品が活躍しているが、耐久性の観点からその多くは無機物質にてまかなわれている。環境化学材料の基礎となる無機化学のうち、本講義では原子の姿、元素分類、化学結合などについて講義するが、特に反応に関与する基礎的な電子状態についての理解をすすめることを目標としている。

## 教科書 /Textbooks

( 基礎化学シリーズ9 ) 基礎無機化学 佐々木義典、他著 朝倉書店 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

ムーア 基礎物理化学 上・下巻 Walter J. Moore著、細谷治夫ら訳、東京化学同人 )  
ベーシック無機化学 鈴木普一郎・中尾安男・櫻井武著 化学同人  
Rock and GEM, Ronald Louis Bonewitz , DK Publishing

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 原子の姿 ポーアの元素模型とエネルギー順位
3. 原子の姿II 波動方程式
4. 原子の姿III 電子軌道の形
5. パウリの排他則とフント則
6. 周期律表
7. 原子軌道と蛍光X線
8. 前半まとめ演習
9. 演習の解説
10. 元素各論 水素とアルカリ金属
11. 元素各論II アルカリ土類と希ガス系元素
12. 元素各論III 遷移金属元素
13. 元素各論IV 重元素
14. 放射性同位体と原子力発電
15. 化学結合

## 成績評価の方法 /Assessment Method

前半のまとめ演習 40%  
期末試験 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前半のまとめ演習、演習の解説の2回は関数電卓を持参すること。

## 履修上の注意 /Remarks

講義はパワーポイントファイルの映写と板書を併用して行う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学の基礎は、原子周囲を取り巻く電子軌道の理解から始まります。波動方程式なども扱いますが、まず式の持つ意味、電子軌道の概形の理解、個別元素の特性理解を進めましょう。二年の無機化学・演習に内容が繋がっていますから、最初で躓かぬよう頑張ってください。

## キーワード /Keywords



# 環境と科学

(Environment and Sciences)

担当者名 /Instructor 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科, 楠田 哲也 / Tetsuya KUSUDA / エネルギー循環化学科  
伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ ), 石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科  
上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科, 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )  
安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 開講期が第2学期から第1学期になりますので注意してください。

## 授業の概要 /Course Description

科学は新しい発見や技術開発を通して人類を豊かに幸福にしたが、一方で環境汚染など様々な問題も引き起こしている。特に、科学技術を基盤とした人類の活動は、21世紀に入り地球の環境容量を越えるまで拡大してきた。また、従来の技術に基づく資源浪費型社会も行き詰まりを見せてきた。これらの問題に対応するため持続可能な社会が提唱されており、その創造にはこれまでとは異なる視点で科学を活用する必要がある。本科目では、21世紀の科学が目指す方向を学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

特に指定せず、講義の都度資料を必要に応じて配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境における科学の役割
- 2 地球環境の変遷と将来
- 3 文明崩壊と科学
- 4 大気と科学
- 5 水環境と科学
- 6 土と科学
- 7 資源・エネルギーと科学
- 8 農業・食料と科学
- 9 生物多様性と科学
- 10 環境汚染と科学
- 11 放射能と科学
- 12 ライフサイクルアセスメントと科学
- 13 持続可能社会の最新技術
- 14 国際環境協力と科学
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ミニテスト 42% ( 15分以上の遅刻は欠席とし、ミニテストも0点とする。 )  
期末試験 58%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布する資料を綴り、復習や期末試験の勉強に活用すること。

## 履修上の注意 /Remarks

本教科では、環境分野の教員が毎回テーマを変えて環境・資源・エネルギー問題の基礎を講義する。15回全てに出席して完全に習得すること。細かな内容を記憶するのではなく、全体を考える。授業で先生が何を伝えたいかを考える。授業で先生が伝えたいこと(全体)と、それを裏付ける個々のデータ(情報・知識)との相互の関係を把握する。個々のバラバラの暗記は身につかない。講義中は私語をせず、講義に集中すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

エネルギー循環化学科、環境生命工学科に在籍する学生が、本学部で学んでいく上で必要な環境に関する基礎を習得するための科目です。

# 環境と科学

(Environment and Sciences)

キーワード /Keywords

# 物理実験基礎

(Introduction to Physics Experiments)

担当者名 /Instructor 古閑 宏幸 / Hiroyuki KOGA / 情報システム工学科 (19~), 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~)  
水野 貞男 / Sadao MIZUNO / 機械システム工学科, 村上 洋 / Hiroshi MURAKAMI / 機械システム工学科 (19~)  
董 青 / Qing DONG / 情報メディア工学科, 津田 恵吾 / Keigo TSUDA / 建築デザイン学科  
高 偉俊 / Weijun GAO / 建築デザイン学科 (19~), 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実験・実習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 補習物理の受講対象者は、補習科目の最終判定に合格しない限り単位の修得ができません。

## 授業の概要 /Course Description

高度に細分化した工学の分野において理解を深めるには、基礎的な物理現象を把握することが何より不可欠である。本授業では、各種物理実験を体験し、測定を主体とする実験法の実習の解析手法を学習する。工学分野の基礎となる物理量の測定を通して様々な計測装置に触れるとともに、測定の進め方、測定データの解析方法、物理現象に対する考察の進め方、レポートの作成方法を習得する。

## 教科書 /Textbooks

初回のガイダンスの時に配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

高校の物理の教科書や参考書

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目： ガイダンス (履修上の諸注意)  
2回目以降： 以下の実験項目より、指定された数種を行う。なお、レポート作成後は指定された日に査読を受けること。修正の指摘に応じレポートを再提出すること。
- ・ 密度測定
  - ・ ボルダの振り子
  - ・ 熱起電力
  - ・ 金属の電気抵抗の温度係数測定
  - ・ Planck定数の測定
  - ・ 強磁性体の磁化特性
  - ・ ダイオードとトランジスタのIV特性

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・ 52% レポート・・ 48%  
(レポート未提出者は、単位を認めない。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実験を行う前に実験テキストに目を通しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

指定された日に必ず実験を行い、自分の力でレポートを仕上げる。他人のレポートや著作物を丸写し(引き写しともいう)して作成したレポートを提出した場合は単位を認めない。詳しくは初回のガイダンス時に指示があるので、聞き漏らすことのないように注意する事。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在行われている最先端の実験の多くは、これら基本的な測定法の積み重ねといえます。そこで人任せにしたりせず、自分の経験とするよう心がけましょう。この授業での発見と感動が、やがて偉大な大発明へとつながるかも知れないのですから。

## キーワード /Keywords

物理, 力学, 重力加速度, 電磁気, 電流, 電圧, 温度, 科学, 密度, 振り子, 熱起電力, 電気抵抗, Planck定数, 磁気, ダイオード, トランジスタ

# 電気工学基礎

(Introduction to Electrical Engineering)

担当者名 /Instructor 水井 雅彦 / Masahiko MIZUI / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 機械システム工学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

「知っておくと卒業研究で便利な電気の知識」を講義のテーマに、様々な分野で応用できる電気技術の周知と習得を目標にしている。  
具体的には、センサで計測した情報の記録・モータ制御を、パソコンから行う知識を想定する。  
受講する皆さんが、様々な研究で活用できる技術を取り扱う。

## 教科書 /Textbooks

「基礎から実践まで理解できるロボット・メカトロニクス」, 共立出版

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

「Arduinoをはじめよう」, オライリー・ジャパン, ISBN978-4-87311-398-2  
Prototyping Lab 「作りながら考える」ためのArduino実践レシピ, オライリー・ジャパン, ISBN978-4-87311-453-8

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 電気基礎
2. 電子部品 1 (抵抗)
3. 電子部品 2 (コンデンサ・積分回路(実験))
4. 電子部品 3 (積分・微分回路, 交流回路)
5. RLC回路, 発振
6. センサの種類と特性(実演)
7. まとめ1(前半の復習)
8. モータの特性
9. モータの種類と特性
10. デジタルとアナログ
  11. 論理回路
  12. デジタル回路
  13. カウンタ
  14. 演習
  15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 30% 講義内容の確認テストを行う  
期末試験 70% 小テストを中心に出题

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

これまで学んできた電気の知識を復習しながら, 工学での応用を学びます。  
苦手意識をもちず, 毎回受講してください。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回行う小テストの結果が, 成績評価に対して重要です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の知識を融合し, 生活を便利にするアイデアを大切にしてください。

## キーワード /Keywords

電気, 電子回路, マイコン, Arduino, アナログ, デジタル

# 力学基礎

(Dynamics)

担当者名 /Instructor 山本 郁夫 / Ikuo YAMAMOTO / 機械システム工学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 機械システム工学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

力学はあらゆる工学の基礎であり、力学への正しい理解は、その後の技術者としての正しい志に大きく影響する。本講義では、単に知識の集積物のように見られやすい力学が、しっかりとした原理によって体系付けられていることを学ぶ。本講義は、環境工学の視点から力学問題を捉え、2年時以降で学ぶ機械力学、機械振動学、制御工学、環境メカトロニクスへ進んでゆくための導入科目と位置づける。授業は各学科の学生全てが理解できるように、ポイントを押さえて、わかりやすく教える。

## 教科書 /Textbooks

環境・ロボット工学のための力学入門、山本郁夫、ヤマガ

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 力学の歴史
- 2 力学のための数学 (微分積分・内積外積・微分方程式)
- 3 運動の記述 (位置・速度・加速度)
- 4 運動の法則(力と運動方程式)
- 5 単振動・強制振動・減衰振動
- 6 演習 (運動方程式)
- 7 力学的エネルギー (仕事と力学エネルギーの保存)
- 8 演習 (力学的エネルギー)
- 9 運動量と力積、衝突
- 10 角運動量・円運動
- 11 演習 (運動量・角運動量・円運動)
- 12 剛性と慣性モーメント
- 13 演習 (剛性と慣性モーメント)
- 14 力学の展開 (相対性理論他)
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80%  
レポート 20%  
欠席 減点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

微積分学を履修のこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

力学がもともと宇宙の調和を求めて生まれたものであり、大変まとまった美しい学問と考えて、その根底にある原理・原則を理解してもらいたい。また、力学原理はあらゆる機械に応用されているので、エンジニアとして社会での活躍を目指して力学原理を習得して欲しい。

## キーワード /Keywords

# 確率論

(Probability Theory)

担当者名 /Instructor 高島 康裕 / Yasuhiro TAKASHIMA / 情報システム工学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 情報メディア工学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 「情報数学同演習」の受講生は、「確率論」と共に、「離散数学(第1学期)」を受講する必要があります。

## 授業の概要 /Course Description

一見, 何の関係も無く発生している様々な事象が, ある一つの枠組みとして議論できることがある. この議論の中心が確率である. 本講義では, 確率について離散, 連続のそれぞれの場合について, 講義する. また, 適宜演習を行なうことにより, 確率の様々な性質を実感として触れる.

## 教科書 /Textbooks

授業中に指示する.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に無し

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス, 確率とは, 順列・組合せ
- 2 確率の公理, 公式
- 3 条件付き確率
- 4 演習1
- 5 確率密度関数, 累積密度関数
- 6 連続確率: 確率密度関数, 平均, 分散
- 7 モーメント
- 8 多次元確率: 条件付き確率, ベイズの定理
- 9 2項分布
- 10 演習2
- 10 正規分布
- 11 その他の分布
- 12 相関
- 13 モンテカルロ法
- 14 応用トピック
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 70%  
講義中の課題: 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

離散数学の内容を理解しておくこと

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代では, 物事の傾向を「確率」という道具で捉えることが非常に多くなっています. 本講義を通じて, この道具を身につけるよう取り組んで下さい.

## キーワード /Keywords

# 認知心理学

(Cognitive Psychology)

担当者名 /Instructor 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

【テーマ】人間の認知システムの働き。

【授業目標】認知心理学とはどんな科学で、これまでにどんな知識が得られているかを理解すること。認知心理学とは、簡単に言うと、人間の「脳と心の働き」の科学だ。脳と心には、科学的にはまだ未知の部分がたくさん残されている。だから認知心理学は、自分の脳と心の未知なる世界の知的探検と言えるかもしれない。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

1回目の授業のときにリストを配布します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：講義のオリエンテーション
- 2回目：近代科学革命と心理学誕生のドラマ
- 3回目：認知心理学は何を研究しているか
- 4回目：視覚システム(1)：視覚は心理である
- 5回目：視覚システム(2)：イリュージョンの科学
- 6回目：パターン認知
- 7回目：聴覚システムの構造と機能
- 8回目：記憶システム(1)：人生を紡ぐ臓器
- 9回目：記憶システム(2)：記憶の仕組み
- 10回目：言語システムと言語の脳科学
- 11回目：知識表現
- 12回目：感情システム
- 13回目：認知科学の近未来
- 14回目：講義のポイント
- 15回目：まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

コメントカードの数と内容 30%  
ビデオ・レポート(課題) 20%  
中間試験成績 20%  
学期末試験成績 30%  
総合的に評価して、単位を認定します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

原則として、1年次に「心理学」を受講すること。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回の授業で、コメントカードを提出してもらいます。カードには、講義の評価、要約、質問、感想などを記入します。全ての授業に出席することを単位認定の前提にします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代に自分がどんな人間であるか(知的能力・性格・興味・関心・身体能力)をしっかり認識しよう！

## キーワード /Keywords

# 基礎生物化学

(Introduction to Biological Chemistry)

担当者名 /Instructor 中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

生物内では膨大な化学反応が効率的に営まれ、生命活動を維持しています。本講義では、生命活動の基本となる生体分子（アミノ酸、タンパク質、糖質、脂質、核酸）の化学、および生体膜の特徴と酵素反応を学ぶことによって、生物化学の基礎知識を習得します。

## 教科書 /Textbooks

後日、指示。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定なし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 導入（生物化学の重要性）
2. 生体分子と水
3. アミノ酸 1（構造と分類）
4. アミノ酸 2（性質）
5. タンパク質 1（構造）
6. タンパク質 2（性質）
7. タンパク質 3（解析）
8. 糖質
9. 前半の復習、確認テスト
10. 核酸 1（構造）
11. 核酸 2（性質）
12. 脂質
13. 生体膜
14. 酵素
15. 総復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度・演習 10%  
確認テスト 45%  
期末テスト 45%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜、指示。

## 履修上の注意 /Remarks

毎回プリントを配布するので、必ず復習すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、我々の体の中で起こっている現象を理解するための学問です。また、環境と生体は密接な関係にあり、環境技術を学ぶ中で生命現象を理解しておくことは非常に重要です。

## キーワード /Keywords



# 基礎化学工学

(Introduction to Chemical Engineering)

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

化学工学の目的とその学問体系について概説する。また、化学工学を習得するために不可欠な物質収支・エネルギー収支などの工学計算を、単位系 (SI単位) を意識して行えるようにする。さらに、化学装置内の流れを理解するために、流体の分類、流動状態、および流体の圧力損失などについて学習する。

## 教科書 /Textbooks

基礎化学工学 (化学工学会編) 培風館 (ISBN 978-4-5630-4555-5)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

化学工学 改訂第3版 一解説と演習一 朝倉書店 (ISBN 978-4-2542-5033-6)  
 化学工学の計算法 (化学計算法シリーズ) 東京電機大学出版局 (ISBN 978-4-5016-1690-8)  
 ベーシック化学工学 化学同人 (ISBN 978-4-7598-1067-7)  
 はじめて学ぶ化学工学 工業調査会 (ISBN 978-4-7693-4202-1)  
 化学工学便覧 改訂六版 丸善 (ISBN 978-4-6210-4535-0)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 進め方の説明、化学工学の目的とその学問体系
- 2 単位換算
- 3 物質収支 (1) 基礎式
- 4 物質収支 (2) 反応操作の物質収支
- 5 エネルギー収支 (1) エンタルピー収支式
- 6 エネルギー収支 (2) 物理的過程のエンタルピー変化
- 7 前半の復習、確認テスト 1
- 8 流体の圧縮性と粘性
- 9 円管内の流れ (1) Reynolds数、層流と乱流
- 10 円管内の流れ (2) 摩擦係数とFanningの式
- 11 充填層の流れ
- 12 流れ系のエネルギー収支 (1) 機械的エネルギー保存の法則
- 13 流れ系のエネルギー収支 (2) 配管内流れのエネルギー損失
- 14 流体輸送と流体混合
- 15 後半の復習、確認テスト 2

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (授業態度、小テスト等) 30%  
 確認テスト 20%  
 期末テスト 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

用語・公式・定義などが多いので、確実な理解のために復習して講義に臨むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

計算問題は、基本的に手計算。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学工業においてプラントを設計・制御するためには、化学工学の素養が不可欠です。将来、化学分野の技術者を目指している学生は、化学工学の目的とその体系を理解した上で、工学計算が苦もなくできるように努力してください。

## キーワード /Keywords

物質収支、エネルギー収支、化学装置内の流れ、工学計算

# 環境統計学

(Statistics for Environmental Research)

担当者名 /Instructor 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~), 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

環境に関する研究では、ある事象と別の事象との間に差があるか、判定が必要な場面が多い。たとえば、自動車のアイドリングストップをする  
と本当に二酸化炭素排出量が減るか、データをもとに判定する必要がある。実験や調査で得られるデータには、さまざまな誤差が含まれており  
、科学的な結論を得るには、統計的な解析技法でうまく誤差を処理する必要がある。そのための基本的な技法を学ぶ。また、演習問題として、  
環境問題の解析事例を取り上げて実践的な理解を促す。

## 教科書 /Textbooks

石村園子「やさしく学べる統計学」共立出版

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 母集団と標本、確率の表現1 (例: ポワソン分布)
- 母集団と標本、確率の表現2 (例: 二項分布)
- データの特徴を捉える1 (ヒストグラム)
- データの特徴を捉える2 (正規確率紙による可視化)
- 母集団と標本、確率の表現3 (例: 正規分布、確率密度関数)
- 母集団と標本、確率の表現4 (例: 指数分布、確率密度関数)
- 母集団と標本、確率の表現4 (例: 極値分布、確率紙による可視化)
- 中間演習(1)
- 最小二乗法と回帰直線
- 統計的推定 (よい推定量とは、点推定と区間推定)
- 統計的検定1 (母平均は狙った値か: 正規分布による検定)
- 統計的検定2 (母平均は狙った値か: t分布による検定)
- 統計的検定3 (母平均は狙った値か: t分布による検定つづき)
- 統計的検定4 (2つの母平均は等しいか: t分布による検定)
- 統計的検定5 (発展的問題)、中間演習(2)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・レポート 20%  
中間演習 40%  
期末テスト 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ポワソン分布、二項分布、指数分布、正規分布等について予習しておくこと。  
関数電卓、定規、方眼紙を持参すること。

## 履修上の注意 /Remarks

知識を身につけるために原則として毎回課題 (小テスト、レポート、中間演習等) をだす。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境研究や実験データ分析に不可欠な統計学の基本を学ぶ。統計的思考法に慣れてほしい。

## キーワード /Keywords

# 化学平衡と反応速度

(Chemical Equilibrium and Rate of Reaction)

担当者名 /Instructor 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

物理化学は化学の原理を探究する学問であり、化学を学ぶ人にとっては必要不可欠なものである。本講義では化学熱力学に引き続き、化学平衡および反応速度論について学習する。

## 教科書 /Textbooks

ポール物理化学 ( 上、下 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

「これならわかる熱力学」 鈴木孝臣著 ( 三共出版 )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、ギブズエネルギー・化学ポテンシャルの復習
- 2 化学平衡 ①あらし、平衡
- 3 化学平衡 ②化学平衡
- 4 化学平衡 ③溶液と凝縮相、平衡定数の変化
- 5 1成分系における平衡 ①あらし、一成分系
- 6 1成分系における平衡 ②相変化、クラペイロンの式
- 7 1成分系における平衡 ③クラウジウス・クラペイロンの式
- 8 1成分系における平衡 ④状態図と相律
- 9 演習
- 10 反応速度論 ①あらし、反応速度と速度式
- 11 反応速度論 ②典型的な初速度式
- 12 反応速度論 ③温度依存性、反応機構と素反応
- 13 反応速度論 ④定常状態近似
- 14 演習
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 20%  
期末試験 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習および演習を十分に行うこと。授業には関数電卓を持参すること。

## 履修上の注意 /Remarks

化学熱力学の履修を前提として講義を進める。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

物理化学は原理を理解することだけでなく、それを使って正確な値を導けることが重要である。

## キーワード /Keywords

# 有機化学 I

(Organic Chemistry I)

担当者名 /Instructor 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

基礎有機化学で学んだ分子構造や結合をベースに有機化学反応の反応機構および合成を理解する。特に、求核反応や脱離反応に対する反応機構や速度論や、それに関連した官能基化合物(例えば、アルコール、アルケン、アルキン、 $\pi$ 電子系)の反応と性質、合成について解説する。

## 教科書 /Textbooks

現代有機化学(上)第4版(K.ピーター・C.ヴォルハルト/ニール・E.シヨアー) 化学同人

## 参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

基礎有機化学(R. J. Fessenden/J. S. Fessenden) 化学同人

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 二分子求核置換反応(SN2)
- 2 一分子求核置換反応(SN1)
- 3 ハロアルカンの脱離反応(E1とE2)
- 4 アルコール性質、合成および合成戦略
- 5 アルコールの反応
- 6 エーテルの化学
- 7 中間まとめと例題演習
- 8 アルケンの求電子付加反応
- 9 アルケンの反応: ヒドロホウ素化 - 酸化の他
- 10 アルキンの性質と結合
- 11 アルキンの求電子付加反応
- 12 非局在化した $\pi$ 電子系
- 13 共役ジエンの特性と反応
- 14 例題演習
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 35%  
レポート 20%  
期末試験 45%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

主に練習問題や章末問題を中心に授業を行います。最初のガイダンスでは基礎有機化学のレベルチェックを行います。

## 履修上の注意 /Remarks

基礎有機化学で学んだ炭素結合や軌道論をよく復習しておくよう努めて欲しい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今後、高級有機化学反応を学ぶ際の準備として、テキストに登場する新しい用語・人名反応をしっかりと覚えるとともに関連した例題を自分の力で解いてみるのが重要です。

## キーワード /Keywords

求核置換反応、脱離反応、アルコール、エーテル、アルケン、アルキン、非局在化

# 無機化学

(Inorganic Chemistry)

担当者名 /Instructor 今井 裕之 / Hiroyuki IMAI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

周期表に基づき元素の性質について解説する。元素の性質と周期表における位置、近隣の元素との関連性や類似性、化学結合、固体化学について体系的に学び、物質の多様性を合理的に理解する能力を養う。

## 教科書 /Textbooks

基礎無機化学 佐々木義典著、朝倉書店出版

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

化学結合の量子論入門 小笠原正明、田地川浩人著 三共出版社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 原子の状態
3. 多電子原子の軌道
4. 化学結合の分類
5. イオン結合
6. 共有結合
7. 金属結合
8. 水素結合
9. 配位結合
10. ここまでのまとめ
11. 格子と指数
12. イオン結合結晶
13. 共有結合結晶
14. X線回折
15. 総合演習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習 40%  
期末試験 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、電卓を持参すること。

## 履修上の注意 /Remarks

特になし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

原子構造と特性、分子構造と特性、結晶構造と特性、構造解析

# 物理化学実験

(Experiments in Physical Chemistry)

担当者名 /Instructor 黎 暁紅 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ ), 石川 精一 / Seichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科  
大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ ), 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

物理化学の各種測定技術や、実験結果の理論的な解析手法を習得し、それを通じて物理化学的な思考ができるよう訓練する。

## 教科書 /Textbooks

実験テキスト

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

物理化学実験のてびき ( 化学同人 ) など

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 粘度測定
3. 密度測定
4. pH測定
5. 反応速度
6. 酸解離定数
7. 凝固点降下
8. 分配係数
9. 相互溶解度
10. 粒子径分布
11. 流動状態観察
12. 表面電位
13. 表面積
14. 吸着
15. 演習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席 50%  
レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に実験テキストをよく読んでおくこと。実験に関連する内容について、物理化学の教科書や参考書などを通読しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

スタッフの指示に従い、安全に十分注意すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実験を通して物理化学の講義で学んだことの理解を深めてください。

## キーワード /Keywords

# 化学工学

(Chemical Engineering)

担当者名 /Instructor 山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、化学工学のうち「流体と粒子の分離」、「エネルギーと伝熱」について学習する。これらの操作が実際の工業プロセスでどのように使われているかを意識しながら、講義と演習により授業を進める。これらの概念を扱う化学工学的問題に対して正しい数値解を求めることができるレベルを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

基礎化学工学 ( 化学工学会編、培風館 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しない

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション -工業プロセスと化学工学-
- 2 流れとレイノルズ数
- 3 流体内の単一粒子の運動(1) - 運動方程式と終末速度 -
- 4 流体内の単一粒子の運動(2) - Stokes域、Allen域、Newton域 -
- 5 流体からの粒子の分離(1) - 重力分離装置 -
- 6 流体からの粒子の分離(2) - ろ過 -
- 7 粒子系の評価 -分布と平均-
- 8 前半の演習
- 9 伝熱(1) -伝導-
- 10 伝熱(2) -対流-
- 11 伝熱(3) -熱抵抗と総括伝熱係数-
- 12 伝熱(4) -放射-
- 13 伝熱(5) -演習-
- 14 熱交換器
- 15 総合演習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%  
ただし出席率が70%を下回る場合、期末試験を受けることはできない ( 詳細は 1 回目の講義で説明する ) 。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2年次・第1学期に開講される「基礎化学工学」の内容をよく理解しておくこと。  
毎回、関数電卓必携。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学工学を理解するには授業を聞くだけでは不十分です。授業の前に予習を行い、授業で演習問題を自分の手で解いていく課程で理解が深まりますので、授業には積極的に取り組んでください。

## キーワード /Keywords

# 分析化学

(Analytical Chemistry)

担当者名 /Instructor 吉塚 和治 / Kazuharu YOSHIKAZU / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

分析化学は、物質をプローブとして物質系からその情報を取り出す方法論に関わる学問であり、自然科学とその応用技術分野を結びつける重要な役割を果たしている。また、環境指標の評価においても不可欠な基礎的学問である。この講義では、物質の分析法の基礎となっている溶液内化学反応について解説し、これを応用した定性的及び定量的な分析法について具体的事例を示しながら講義する。

## 教科書 /Textbooks

環境分析化学 (合原、今任、岩永、氏本、吉塚、脇田共著、三共出版)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 溶液化学基礎 - 物質、濃度 -
- 2 溶液化学基礎 - 平衡、活量、イオン強度、活量係数 -
- 3 酸塩基平衡 - 質量作用則、物質収支、電荷均衡 -
- 4 酸塩基平衡 - 弱酸・弱塩基の平衡 -
- 5 酸塩基平衡 - 強酸・強塩基、多塩基・多酸塩基の平衡 -
- 6 酸塩基平衡 - 滴定曲線、酸塩基滴定 -
- 7 演習問題解答会
- 8 前半総括
- 9 錯生成平衡 - 錯体と錯イオン、ルイス酸塩基とHSAB則 -
- 10 錯生成平衡 - 錯生成定数、キレート滴定 -
- 11 沈殿生成平衡 - 沈殿生成反応、溶解度積、共通イオン効果、異種イオン効果 -
- 12 酸化還元平衡 - 酸化還元反応、酸化還元電位 -
- 13 酸化還元平衡 - 酸化還元滴定 -
- 14 演習問題解答会
- 15 後半総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験：40%  
 期末試験：40%  
 演習問題解答など日頃の講義への取組：20%  
 ※再試験の受験資格は、中間試験と期末試験を受験しており、かつ、出席が2/3以上、かつ、総合評価で合格する可能性のある者

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中間試験について： 溶液化学基礎、酸塩基平衡および酸塩基滴定についてしっかり勉強しておくこと。  
 期末試験について： 錯生成平衡、沈殿生成平衡および酸化還元平衡についてしっかり勉強しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

講義は教科書の他、演習問題やデータ集などのプリントを配布して行う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境指標を定性的あるいは定量的に評価するための分析化学について、その基礎となる理論から具体的な応用例までをしっかり理解して欲しい。なお、この講義は3年次の環境分析実習、エネルギー循環化学実習と直結しているので、操作法や技術は実践で身につけて欲しい。

## キーワード /Keywords

溶液化学基礎、酸塩基平衡、錯形成平衡、沈殿生成平衡、酸化還元平衡、



# 大気浄化工学

(Air Pollution Control Technology)

担当者名 高倉 弘二 / Koji TAKAKURA / 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科  
/Department

※お知らせ/Notice 開講期が第2学期から第1学期になりますので注意してください。

## 授業の概要 /Course Description

大気汚染防止について基礎的な事項を中心に情報・技術を交えながら講義するので幅広い知識を取得することができます。そして、将来環境関連の業務に携わる事を想定して、環境関係の資格(大気関係公害防止管理者等)受験のための基礎学力や知識の取得にも配慮した内容にしており、受験に備えることができます。  
また、企業が求める技術者の心得についても少し触れます。

## 教科書 /Textbooks

授業用の資料は毎回配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

大気汚染対策の基礎知識二訂 発行 社団法人 産業環境管理協会  
新・公害防止の技術と法規 大気編 発行 社団法人 産業環境管理協会

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 公害と大気汚染
2. 大気汚染概論I ( 公害総論 )
3. 大気汚染概論II ( 大気概論 )
4. 燃焼と燃焼管理 ( 大気特論 )
5. 排ガス処理技術SOx処理
6. 排ガス処理技術NOx処理
7. 大気測定技術
8. 前半のまとめ
9. 排ガス処理技術 ( 総論 )
10. 排ガス処理技術 ( 実例 )
11. 集じん技術 ( 総論 )
12. 集じん技術 ( 実例 )
13. 排ガス処理技術 ( 大気有害物質特論 )
14. 拡散等 ( 大規模大気特論 )
15. 総括(演習問題により理解を深める)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

質疑応答 : 20% (希望者によるプレゼンテーションも加点対象になります)  
期末試験(選択式) : 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中講義のため集中力を高める工夫をして下さい。  
例えば「十分な睡眠を取る」「前もって参考書を一読する」等

## 履修上の注意 /Remarks

参加型の授業づくりを目指しており、履修者からの積極的な発言をお願いします。そして、授業の理解度を深めるため、希望者には提示するテーマに沿ってプレゼンテーション(3~5分間程度)する機会があります。これは成績評価の対象になります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会は環境をキーワードに動いています。様々な環境情報を身に付けてください。

## キーワード /Keywords

大気汚染、排ガス、ばいじん、窒素酸化物、硫黄酸化物

# 有機化学実験

(Experiments in Organic Chemistry)

担当者名 /Instructor 秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ ), 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 ( 19 ~ ), 山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
							○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

有機化学実験の基礎技術を修得し、それらを組み合わせた応用実験へと展開できる能力を身につけることを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

独自に作成したものを配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しない

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1週目 安全講習、レポートの書き方、前半の実験内容に関する講義
- 2週目 合成・反応実験 ( 1 ) Diels-Alder反応
- 3週目 合成・反応実験 ( 2 ) Grignard試薬の合成
- 4週目 合成・反応実験 ( 3 ) アルコールの酸化
- 5週目 合成・反応実験 ( 4 ) ケトンの還元
- 6週目 合成・反応実験 ( 5 ) ルミノールの合成と化学発光
- 7週目 合成・反応実験 ( 6 ) スペクトル解析
- 8週目 後半の実験内容に関する講義
- 9週目 合成・反応実験 ( 7 ) 求核置換反応
- 10週目 合成・反応実験 ( 8 ) 求核置換反応
- 11週目 合成・反応実験 ( 9 ) 芳香族求電子置換反応
- 12週目 合成・反応実験 ( 10 ) 芳香族求電子置換反応
- 13週目 合成・反応実験 ( 11 ) 速度論支配と熱力学支配
- 14週目 合成・反応実験 ( 12 ) 反応速度論
- 15週目 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

すべて出席し、実験を行ったものに対して、レポート ( 試験・口述諮問に代替する場合あり) で評価する。  
レポートの評価基準は下記の通りである。

- 1 . 実験内容の理解度・論理性 60%
- 2 . 実験操作に対する理解度 30%
- 3 . 書式・体裁 10%

ただし、締切期限を過ぎて提出されたレポートは評価されない。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず、実験の予習を行ってこよう。予習内容は、実験で取り扱う反応、操作の原理、操作のフローチャートの作成です。  
また、基礎有機化学、有機化学I、有機化学IIの内容と関連しているので、講義内容に十分に学習し、実験操作や結果の意味がすぐに理解できるようにしておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

実験ですので、出席して実験を行うことが何よりも必要です。したがって、出席が重視されますので、必ず出席し、実験を行ってください。遅刻も厳禁です。欠席1回で単位はつきません。遅刻は3回で欠席1回とみなします。

# 有機化学実験

(Experiments in Organic Chemistry)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

有機化学実験は、正しく行えば安全で楽しいものです。しかし、僅かな誤操作が大きな事故につながる危険性を持っています。きちんと予習をし、安全に実験を行うことを心がけてください。

## キーワード /Keywords

# 反応工学

(Reaction Engineering)

担当者名 /Instructor 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

工業的な化学反応装置から出発し、人体や自然界も、さまざまな化学反応が関与するダイナミックで複雑な反応装置と考えられる。反応工学の基本となる反応速度と温度・濃度との関係や多様な反応装置のしくみについて、身近な例を学ぶながら、反応と拡散の律速過程や同時進行現象について理解する。

## 教科書 /Textbooks

「反応工学」 草壁克己・増田隆夫著 ( 三共出版 )

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

「反応工学 反応装置から地球まで」 化学工学会監修、小宮山宏著 ( 培風館 )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス
- 2 . 反応機設計の目的
- 3 . 化学反応の分類、反応速度式
- 4 . 反応場と反応速度
- 5 . 演習 ①
- 6 . 反応率について
- 7 . 反応に伴う濃度変化
- 8 . 反応に伴う物質収支
- 9 . 流体の流れと反応器
- 10 . 演習 ②
- 11 . 回分式反応器の設計
- 12 . 管型反応器の設計
- 13 . 連続槽型反応器の設計
- 14 . 反応器の比較
- 15 . 演習 ③

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 20%  
期末試験 80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に教科書を熟読し、不明点を明らかにして授業に臨むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

関数電卓を持参すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 分離工学

(Separation Engineering)

担当者名 /Instructor 西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択】 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

目的物質を混合物から分離する操作は、化学工業プロセスの中核をなす重要な操作である。また、分離操作は、化学工業のみならず、製造業や環境保全においても不可欠である。この講義では分離法の中でも特に重要な、ガス吸収・蒸留・抽出・吸着について、化学工学的な観点から学習する。

## 教科書 /Textbooks

培風館 「基礎化学工学」

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

朝倉書店 「化学工学通論Ⅰ」

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 物質の分離の原理と方法
2. ガス吸収 ( Henryの法則、二重境膜説 )
3. ガス吸収 ( 吸収装置、充填塔 )
4. ガス吸収 ( 吸収塔の高さ )
5. 吸着 ( 吸着平衡 )
6. 吸着 ( 速度、回分吸着 )
7. 吸着 ( 固定層吸着 )
8. 前半総括
9. 蒸留 ( 気液平衡、ラウールの法則 )
10. 蒸留 ( 単蒸留、フラッシュ蒸留 )
11. 蒸留 ( 精留 )
12. 抽出 ( 液液平衡 )
13. 抽出 ( 単抽出、多回抽出 )
14. 抽出 ( 向流多段抽出 )
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 50%  
期末テスト 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義をよく復習し、演習問題をきちんとこなすこと。

## 履修上の注意 /Remarks

本講義の理解のためには、基礎化学工学・化学工学を受講していることが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では、化学工学系の科目の中で、分離工学と呼ばれる分野を学習します。講義を聞くのみでは理解が難しいかもしれませんが、自分で演習問題を繰り返し解くことで、必ず理解できます。

## キーワード /Keywords

# 構造化学

(Structural Chemistry)

担当者名 /Instructor 黎 晓紅 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

物質の構成単位である微視的粒子（原子・分子）について、量子化学の観点から解説する。微視的な粒子の世界を支配する法則について学び、物質の構造や反応といった、化学基礎となる問題を理解する能力を養う。

## 教科書 /Textbooks

物理化学、David W. Ball、東京化学同人

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

物理化学、D. A. McQuarrie、J. D. Simon、東京化学同人

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 原子スペクトル
- 2 原子構造
- 3 光電効果
- 4 量子論
- 5 水素原子についてのボールの理論
- 6 ドブロイの式
- 7 波動関数
- 8 不確定原理
- 9 シュレーディンガー方程式
- 10 箱の中の粒子
- 11 三次元の箱の中の粒子
- 12 水素原子のシュレーディンガー方程式
- 13 水素原子の波動関数
- 14 スピン、多電子原子
- 15 演習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席：20%  
最終試験：80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

電卓

## 履修上の注意 /Remarks

微視的粒子の運動は、一般の物理学で用いられるニュートン力学の法則に従わず、量子力学の法則に従う。本科目を勉強するとき、ニュートン力学の概念を捨て、量子力学の概念を受け入れることが重要である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

微視的粒子の世界は我々が日常暮らしている世界（巨視的世界）とはまったく異なっている。このように物質の微視的世界では、量子の概念を用いて物質中の電子のエネルギー準位、元素の周期表を統一的に説明できる

## キーワード /Keywords

# 機器分析

(Instrumental Analysis)

担当者名 鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

環境情報把握には、微量のサンプルを多数、高速分析する必要があり、分析機器を駆使する必要はますます高まっている。本講義では計測分析センターに設置してある分析機器群を中心に、各種分析機器の原理を解説し、前処理を含め分析技法の概略を理解することを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

機器分析のてびき 化学同人 泉美治他 監修

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

粉末X線解析の実際 中井 泉(編集), 泉 富士夫(編集) 朝倉書店  
ベーシック機器分析化学 日本分析化学会 近畿支部編 化学同人  
走査プローブ顕微鏡と局所分光 重川秀実, 坂田亮, 河津璋 裳華房  
他

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクダクシヨN
- 2 蛍光X線
- 3 単結晶X線回折
- 4 粉末X線回折
- 5 電子顕微鏡
- 6 EPMA
- 7 TG-DTA / DSC
- 8 AFM/STM
- 9 FT-IR
- 10 ESCA/軟X線分光分析
- 11 ICP / 原子吸光
- 12 NMR
- 13 最先端機器分析の現状
- 14 構造解析のための理論 DV-Xaなどの紹介
- 15 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は特に要しない。授業で使用するpptファイルはひびきのe-learningシステム上で配付するので、必要であれば各自ダウンロードすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文研究などで必要となる各種分析機器の原理、前処理、測定限界、精度などについて講義します。

## キーワード /Keywords

# 水質工学

(Water Quality and Engineering)

担当者名 楠田 哲也 / Tetsuya KUSUDA / エネルギー循環化学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

人や生物が生きていく上に欠かせない水の基本として水質と水質変化について学ぶ。水質変化の素過程として物理的、化学的、生物的过程の基礎を学ぶ。これらをもとに水を利用するため、および水環境を理解するための反応・解析手法を学習する。

## 教科書 /Textbooks

教科書「水環境基礎科学、コロナ社」を指定する。参考資料を必要に応じて配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 水：総論
- 2 反応素過程(1)：物理的过程(凝集沈降)
- 3 反応素過程(2)：物理的过程(拡散)
- 4 反応素過程(3)：物理的过程(輸送)
- 5 反応素過程(4)：化学的过程(化学反応)
- 6 反応素過程(5)：化学的过程(吸脱着)
- 7 反応素過程(6)：化学的过程(自由エネルギー計算)
- 8 反応素過程(7)：生物的过程(代謝過程)
- 9 反応素過程(8)：生物的过程(増殖過程)
- 10 反応素過程(9)：生物的过程(污水处理過程)
- 11 モデル化(1)：反応素過程
- 12 モデル化(2)：輸送過程
- 13 モデル化(3)：統合化
- 14 水環境への適用(1)：適用方法
- 15 水環境への適用(2)：課題解決

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 60%  
レポート・小試験 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

化学、生物学は物理学や数学を基礎とするところが多い。そのため本講義においても参照することが多いので、高等学校や大学における物理や数学を習得しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

用語・公式・定義、および原理に関わる基礎事項が多いので確実な理解のためには復習が重要である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門性を身に着けるには、しっかりとした基礎が必要です。基礎をしっかり身につけると応用が効くようになります。一緒に少し頑張ってみましょう。必ず、満足できます。

## キーワード /Keywords



# 先端材料工学

(Advanced Materials)

担当者名 /Instructor 山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ ) , 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

大きな産業発展は材料に基づくことが多く、これまで様々な材料の開発により社会および生活環境が大きく変化している。その中でナノテクノロジーは、バイオ技術、情報通信技術に並んで、地球の未来を左右する環境・エネルギー問題と深く関わる核心技術である。本講義では、ナノテクノロジーの基盤となるナノ素材の合成、物性などについて解説する。

## 教科書 /Textbooks

特に指定しない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特に指定しない

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンスとイントロダクション
- 2 多孔質材料
- 3 ゼオライトの構造と物性
- 4 ゼオライトの合成
- 5 新しい多孔質材料
- 6 論文発表I
- 7 論文発表II
- 8 前半総括
- 9 機能をもたらす分子：分子認識
- 10 機能をもたらす分子：超分子化学
- 11 機能をもたらす分子：ナノ粒子
- 12 分子機能の設計：自己組織化
- 13 自己組織化に基づいた界面設計
- 14 新しいセンサ素子
- 15 後半総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 50%  
期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 環境分析化学

(Environmental Analytical Chemistry)

担当者名 /Instructor 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

本教科では、分析化学を履修した学生を対象にして、法律に定められた分析法（公定法）を中心に環境汚染物質の分析法を教育する。環境試料中の様々な汚染物質の分析に使用される分析機器の原理、同じ物質でも大気、水質、土壌など試料毎に異なる前処理法を具体的に学ぶ。また、信頼できる分析値を得るために必要な分析精度管理を理解し、正しい測定値を得るために必要な知識だけでなく、分析依頼者として分析値を評価する知識とノウハウを習得する。

## 教科書 /Textbooks

授業時にテキストや参考資料を配付。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 1) 環境の化学分析, 日本分析化学会北海道支部, 三共出版, 1998
- 2) 環境と安全の科学 演習と実習, 及川紀久雄他, 三共出版, 2007
- 3) 環境分析技術手法, 日本環境測定分析協会, しらかば出版, 2001
- 4) Environmental Chemical Analysis, B.B.Kebbekus, S. Mitra, Chapman & Hall/CRC, 1998

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス, 基準項目と分析法 (調査の目的・意義, 調査計画, 調査項目, 調査地点, 調査時期)
- 2 調査目的, 計画とサンプリング (準備, 器具, 洗浄法, 容器, 採取・運搬・保存)
- 3 紫外・可視吸光度法, 原子吸光度法
- 4 クロマトグラフィー (GC)
- 5 クロマトグラフィー (HPLC, IC)
- 6 質量分析法 (GC/MS)
- 7 質量分析法 (LC/MS, ICP-MS)
- 8 前半のまとめ
- 9 水質一般項目 (COD, BOD, SS, T-N, T-P, ECなど)
- 10 水質の有害項目前処理 (重金属, VOC, CNなど)
- 11 水質の有害項目前処理 (半揮発性化学物質)
- 12 大気有害項目前処理
- 13 土壌, 底質, 生物の有害項目前処理
- 14 分析精度管理
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび授業への参加: 30点, 中間試験: 30点, 期末試験: 40点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中間試験: 前半の授業内容から出題する。期末試験: 全ての授業から出題する。  
配布したテキストや資料を用いて、予習・復習(特に復習)を欠かさずに行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

私語をせず、授業に集中すること。  
参加型授業, 考える授業を目指し, 授業中に質問するので, 自分の考えを必ず発表すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境質を評価するための種々の分析について, 実際に使用されている方法を中心に講義する。環境分野に就職を希望する学生だけでなく, 環境測定値を評価するために必要不可欠な知識である。履修者は, しっかりと勉強してほしい。

## キーワード /Keywords

# 化学演習

(Exercises in Chemistry)

担当者名 /Instructor 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ ) , 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )  
上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科, 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )  
西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

これまでに学んできた物理化学、有機化学、無機化学など、化学の基本的な学問領域について、演習を行うことにより一層理解を深める。

## 教科書 /Textbooks

特に指定せず、必要に応じて講義の都度資料を配付する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に適宜指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 化学演習 1 基礎化学 ( SI単位、圧力の計算 )
- 2 化学演習 2 化学工学 ( 液液平衡と三角線図 )
- 3 化学演習 3 化学工学 ( 液液平衡におけるこの原理 )
- 4 化学演習 4 化学工学 ( 液液平衡に関する演習 )
- 5 化学演習 5 基礎科学 ( 濃度の計算 )
- 6 化学演習 6 基礎科学 ( 気体および溶液の計算 )
- 7 化学演習 7 基礎科学 ( 酸塩基反応 )
- 8 化学演習 8 物理化学 ( 単位の換算と次元 )
- 9 化学演習 9 物理化学 ( 物質収支とエネルギー収支 )
- 10 化学演習 10 物理化学 ( 物質移動と反応 )
- 11 化学演習 11 有機化学 ( NMR分光法による構造決定 )
- 12 化学演習 12 有機化学 ( IR分光法とその解析 )
- 13 化学演習 13 有機化学 ( スペクトル解析演習 )
- 14 化学演習 14 物理化学 ( 管内流動 )
- 15 化学演習 15 物理化学 ( 粒子の沈降 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の演習 60%  
レポート 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義中に配付した資料により演習を行う。2年生までに履修した内容を復習しておくことが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

演習による理解度評価を行う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 環境分析実習

(Experiments in Environmental Analysis)

担当者名 /Instructor 吉塚 和治 / Kazuharu YOSHIZUKA / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ ) , 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 ( 19 ~ )  
原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 ( 19 ~ ) , 西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1学期 授業形態 実験・実習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

環境分析の必須項目である一般項目 ( SS、TOC、ガス分析など ) 分析から、金属成分および有機物成分の分析 ( 原子吸光分析、ガスクロ分析、HPLC分析、イオンクロマト分析など ) に至るまで、水質、土壌および大気環境指標項目の定性及び定量分析の実習を行う。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介する。また、実験室に参考書を配備している。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 実験説明会、安全指導、実験準備、データの統計的取扱説明
2. 金属イオンのイオン交換分離と原子吸光法による定量分析
3. キレート滴定法による金属イオンの定量分析
4. ゼオライトの合成と水の硬度測定
5. 金属含有廃水の処理
6. ガスクロマトグラフィー
7. 室内汚染物質 ( ベンゼン・アルデヒド類 ) の定量分析
8. 粒子状物質の定量分析
9. 浮遊物質 ( SS )、n-ヘキサン抽出物質測定  
全有機炭素量 ( TOC )、全窒素量 ( TN ) 測定
10. 窒素酸化物 ( NOx )、硫黄酸化物 ( SOx ) の定量分析
11. 三成分液液平衡
12. 土壌分析 1日目
13. 土壌分析 2日目
14. 実験室清掃、後かたづけ
15. 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

実験操作の実施 : 60%  
レポート : 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず、事前に実験書の予習を行うこと。実験を始める前までに、実験操作の手順等を実験ノートに書いておくこと

## 履修上の注意 /Remarks

全ての実験について出席した者で、かつ、全てのレポートを提出した者のみ、成績評価対象となる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境分析は、水質、土壌 ( 底質 )、大気、騒音の分析から成り立っている。このうち、環境分析実習では、主として水質、土壌、大気分析について様々な分析手法を用いて行う。これらを習得すれば、環境分析のエキスパートとなることのできる。全ての項目についてしっかり学習して欲しい。

## キーワード /Keywords

環境分析、定性分析、定量分析、機器分析

# 電気化学

(Electrochemistry)

担当者名 /Instructor 吉塚 和治 / Kazuharu YOSHIZUKA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

酸化還元やイオンの移動現象に関連する電気化学反応は、電池やメッキなどの日常生活にも関連が深い。この講義では、溶液中の酸化還元反応について学習し、化学分析や電池反応を行う上で重要な電気化学反応の基礎について習得する。また、ポテンシオメトリ法、アンペロメトリ法、pH電極、イオンセンサーなどの電気化学分析法や、リチウムイオン電池、燃料電池などの様々な電池について講義する。

## 教科書 /Textbooks

環境分析化学 (合原、今任、岩永、氏本、吉塚、脇田共著、三共出版)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 電気化学概論
- 2 酸化還元反応① - 酸化還元電位 -
- 3 酸化還元反応② - ネルンスト式 -
- 4 酸化還元電位① - 自由エネルギーと酸化還元平衡 -
- 5 酸化還元電位② - 溶解度積と酸化還元平衡 -
- 6 酸化還元の演習
- 7 電気化学分析法の概説
- 8 電気化学分析法の各論 - 原理、種類 -
- 9 電気化学分析法の各論 - 構成、応答特性 -
- 10 電気化学分析法の演習
- 11 リチウムイオン電池 - 歴史、原理、構成 -
- 12 リチウムイオン電池 - 性能向上戦略、ポストリチウムイオン電池 -
- 13 燃料電池 - 歴史、原理、構成、応用分野 -
- 14 電池の演習
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 : 80%

演習問題解答 : 20%

※再試験の受験資格は、期末試験を受験しており、かつ、出席が2/3以上、かつ、総合評価で合格する可能性がある者

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

期末試験について： 酸化還元反応、酸化還元電位、電位差分析法に関する演習問題を含めて電気化学分析法の基礎と応用およびリチウムイオン電池や燃料電池についてしっかり勉強しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

講義は教科書その他、演習問題やデータ集などのプリントを配布して行う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

河川や廃水などの環境モニタリングにおいて、特定の無機イオンや有機物を直接分析する場合に適しているがポテンシオメトリやアンペロメトリなどの電気化学分析法である。このような種々の電気化学分析法の基礎となる酸化還元反応や酸化還元電位の理論から具体的な応用例までを理解して欲しい。加えて、将来の電気エネルギー貯蔵および供給システムとして重要なリチウムイオン電池や燃料電池についてその基礎から応用までを理解して欲しい。

## キーワード /Keywords

酸化還元平衡、酸化還元電位、ポテンシオメトリ、アンペロメトリ、リチウムイオン電池、燃料電池

# エネルギー化学プロセス

(Environments & Energy)

担当者名 黎 晓红 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科 (19~)  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

産業構造としての「環境」をエネルギー消費量との関係で理解する。また、化学変換とエネルギー変換は環境問題の一つの解答であるという観点から、工業化学の上での具体的問題を取り上げることで、化学プロセス工学を実用学として演習的に理解させる。

## 教科書 /Textbooks

配布資料

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

配布資料

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 化学プロセスの3因子
3. 化学プロセスの基本コンセプト
4. 物質収支
5. エネルギー収支
6. 石油化学プロセス
7. 水素化分解、接触分解
8. 石炭からの液体燃料を合成するシステム
9. フィッシャー・トロプシュ合成
10. 天然ガス化学プロセス
11. リフォーミング
12. メタノール合成
13. 低級オレフィン、低級パラフィン
14. バイオマスエネルギー
15. 期末演習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習、小テスト 50%  
期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容を予測して関係する物質名・反応を調べておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 触媒工学

(Catalytic Engineering)

担当者名 /Instructor 史野 史章 / Fumiaki AMANO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

### 【概要】

触媒は、反応効率を高めたり、副生成物を抑制したりするために化学工業において不可欠なものです。最近では環境改善やグリーンケミストリーに触媒技術が使用され、その重要性はますます増大しています。この授業では、化学原料や化学品の生産プロセスと触媒の関係、それぞれの反応プロセスにおける触媒の機能について説明をうけながら、化学工業における触媒の位置づけを学ぶことができます。

### 【学習目標】

- ・ 不均一系触媒反応のメカニズムを理解し、吸着等温式や反応速度式を導出できるようになる。
- ・ 触媒工学における専門基礎用語を知り、それらの意味を説明できるようになる。
- ・ 実用触媒の考え方を知り、工業プロセスにおいて触媒に求められる条件を説明できるようになる。
- ・ 代表的な触媒反応プロセスを覚え、各プロセスにおける触媒の機能を説明できるようになる。

## 教科書 /Textbooks

新しい触媒化学 第2版 (菊地英一・多田旭男・服部英・瀬川幸一・射水雄三 著) 三共出版 2,940円

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 触媒化学 第2版 (御園生誠・斉藤泰和 著) 丸善出版 3,150円
- 触媒化学(化学マスター講座) (江口浩一 編著) 丸善出版 3,570円

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 触媒化学の概要
- 3 触媒反応プロセス
- 4 吸着
- 5 不均一系触媒反応速度式
- 6 エネルギーと化学原料製造 1 【炭化水素のクラッキング、接触改質】
- 7 エネルギーと化学原料製造 2 【水蒸気改質、無機化学品の製造】
- 8 エネルギーと化学原料製造 3 【未利用炭素資源の転換】
- 9 不均一系触媒反応 1 【水素化反応】
- 10 不均一系触媒反応 2 【酸化反応】
- 11 不均一系触媒反応 3 【酸触媒反応】
- 12 均一系触媒反応 1 【オレフィン重合】
- 13 均一系触媒反応 2 【酸化反応】
- 14 環境触媒および触媒の新しい応用分野
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・60%、定期試験・・・40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書「新しい触媒化学(三共出版)」を購入して持参すること。元素の周期表を持参すること。予習で、教科書に登場する化学物質を調べておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

化学熱力学、化学平衡と反応速度論、および、有機化学の基礎知識が必要です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

触媒へ興味をもってもらうことを第一に考えて講義を行います。化学工業における資源の流れや触媒の役割を理解することは、触媒化学分野で研究開発をおこなうために必要です。

# 触媒工学

(Catalytic Engineering)

## キーワード /Keywords

触媒機能、石油化学工業、石油精製、有機工業化学、化学品製造、固体触媒、錯体触媒、環境触媒



# エネルギー資源化学

(Process Chemistry for Resource Utilization)

担当者名 /Instructor 天野 史章 / Fumiaki AMANO / エネルギー循環化学科 (19~), 今井 裕之 / Hiroyuki IMAI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

### 【概要】

人類が豊かな生活を維持しつつ秩序ある産業を発展させるためには、エネルギーの現実と将来の問題を正しく理解しておく必要があります。本授業では、石油・石炭・天然ガスなどの化石燃料や、再生可能エネルギー・核エネルギーなどの非化石エネルギー、および電力についての基礎知識を身につけます。資源化学やエネルギー工学の立場から低炭素社会・循環型社会を実現するための解決策を自発的に考えられるようになることを目指します。

### 【学習目標】

- ・ エネルギー需給の現況とエネルギーの流れを理解し、なにが問題かを説明できるようになる。
- ・ 化石燃料の種類と用途を知り、それぞれの特徴を説明できるようになる。
- ・ 発電システムの種類と原理を説明できるようになる。
- ・ 再生可能エネルギーの種類と限界を説明できるようになる。
- ・ 未利用資源の効率的利用と省エネルギーについて考えられるようになる。

## 教科書 /Textbooks

資源・エネルギー工学要論 (第2版) (世良力 著) 東京化学同人 2,400円+税

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

有機資源化学-石炭・石油・天然ガス (鈴木庸一、真下清、山口達明 著) 三共出版 2,800円+税  
環境科学要論 (第3版)-現状そして未来を考える (世良力 著) 東京化学同人 2,300円+税

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 エネルギーの基礎
- 2 エネルギー資源と需給
- 3 化石燃料1 【石炭】
- 4 化石燃料2 【石油】
- 5 化石燃料3 【天然ガス】
- 6 有機化学工業・化学品製造
- 7 演習 (地球温暖化問題・低炭素社会)
- 8 電力1 【電気エネルギー、火力発電】
- 9 電力2 【燃料電池・水素、二次電池】
- 10 自然エネルギー1 【水力・地熱・風力など】
- 11 自然エネルギー2 【太陽エネルギー】
- 12 自然エネルギー3 【バイオマスエネルギー】
- 13 核エネルギー
- 14 演習 (省エネルギー・循環型社会)
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・60%、定期試験・・・40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習として、教科書「資源・エネルギー工学要論」の該当範囲に目を通すこと。

## 履修上の注意 /Remarks

特になし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化石燃料は有限であり、かつ地球温暖化などの環境問題をもたらす可能性を否定できません。持続可能な社会を実現するためには、エネルギー資源の種類と特徴を知り、バランスを考えながら、それらをできるだけ効率的に用いていくことが大切だと思います。

# エネルギー資源化学

(Process Chemistry for Resource Utilization)

## キーワード /Keywords

石炭、石油、天然ガス、自然エネルギー、太陽光発電、燃料電池、生物資源、グリーンサステナブルケミストリー

# 地圏環境論

(The Geosphere Environment)

担当者名 /Instructor 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

地圏は、土と水（地下水）で構成され、動植物生存や人間活動（農産物生産、都市形成など）の基盤となっている。土壌（地圏の特に表層）は水・物質・熱の保持・輸送・浄化機能がある。地圏環境を構成する土壌のこういった物理・化学性に係る基礎を学ぶことを目的として、土壌の性質、水分・化学物質移動などの基礎原理を理解できるように学習する。

## 教科書 /Textbooks

土壌物理学（宮崎毅ほか著、朝倉書店）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 土と水の性質
- 3 土の保水性
- 4 土中の水分移動 I (ダルシー則、飽和流)
- 5 土中の水分移動 II (不飽和流など)
- 6 土中の溶質移動 I (基本的メカニズム)
- 7 土中の溶質移動 II (拡散、移流、吸着など)
- 8 中間まとめ・演習
- 9 土中の熱移動
- 10 土中のガス移動
- 11 移動現象の基礎方程式 I (飽和・不飽和流)
- 12 移動現象の基礎方程式 II (移流分散、熱移動、ガス拡散)
- 13 まとめ・演習
- 14 土壌物理の測定、地圏環境問題
- 15 全体の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 40%  
学習態度・レポート等  
期末試験 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前回の授業内容の復習を行うこと。関数電卓を持参すること。

## 履修上の注意 /Remarks

適宜、演習を実施し、レポートの提出を求める。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球環境を構成する大気・土・水の中で土壌物理学は、土と水の一部を取り扱う学問です。土壌に係る現象の基礎を学ぶことで、より地圏環境問題を深く理解できるようになるでしょう。

## キーワード /Keywords

# 水処理工学

(Water Treatment Engineering)

担当者名 /Instructor 石川 精一 / Seichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

水環境の保全と水資源を有効に活用するため、既存の上水道・下水道処理技術や食品廃水、金属廃水を始めとする各種産業廃水処理技術、それに付随する污泥処理技術、最新の高度水処理技術及び水質測定技術等について、それを構成している基礎的な技術について学習する。

## 教科書 /Textbooks

特に指定せず、講義の都度資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 概論
- 2 沈降分離
- 3 凝集分離
- 4 浮上分離
- 5 污泥脱水
- 6 活性污泥法
- 7 散水ろ床法
- 8 嫌気性消化法
- 9 活性炭吸着
- 10 イオン交換
- 11 電気透析法
- 12 逆浸透法
- 13 膜処理
- 14 光化学反応
- 15 塩素処理

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 40%  
小テスト 30%  
日常の授業への取り組み 30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数式がかなり出るが、主に、水処理関係操作の基礎的知識及び技術を学ぶものである。

## キーワード /Keywords

固液分離 生物処理 物理化学的処理 化学処理

# 高分子化学

(Polymer Chemistry)

担当者名 /Instructor 秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

高分子物質は、今日の生活はもとより、バイオテクノロジーやナノテクノロジーなど、科学の最先端においても必要不可欠な物質である。したがって、高分子化学の基礎を習得することは、将来、化学に関わる研究者、技術者にとって必要不可欠である。本講義では、高分子化合物の生成や反応及び構造など、高分子化学の基礎について講義を行う。

## 教科書 /Textbooks

指定なし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

基礎高分子科学 高分子学会編 東京化学同人

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 高分子化学の概要・高分子の化学構造・生成反応の分類
2. ラジカル重合
3. イオン重合
4. 重縮合
5. 高分子の反応
6. 分子量と分子量分布
7. 孤立鎖の広がり
8. ガウス鎖
9. 高分子溶液の熱力学(格子理論)
10. 浸透圧・蒸気圧・相平衡
11. 高分子固体の構造
12. 高分子の結晶構造、結晶化の動力学
13. 静的粘弾性
14. 動的粘弾性
15. ゴム弾性

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%  
全範囲にわたり出題

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

有機化学、物理化学の基礎を復習しておくこと

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# エネルギー循環化学演習

(Chemical Engineering , Energy and the Environment)

担当者名 /Instructor 吉塚 和治 / Kazuharu YOSHIZUKA / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ ) , 黎 暁紅 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )  
伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ ) , 今井 裕之 / Hiroyuki IMAI / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

化学が関連してかつ地球規模で進行している環境問題に対して、問題認識とともに具体的対策技術を、反応化学、プロセス化学の面から、最新のトピックスをまじえて演習する。環境化学プロセス工学としての環境論、専門的知見ともの見方・考え方を習得させる。

## 教科書 /Textbooks

特になし

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 演習ガイダンス
2. エネルギー循環化学導入
3. エネルギー循環化学基礎演習
4. エネルギー循環化学演習
5. 循環化学基礎演習
6. 循環化学演習
7. 分離化学演習
8. 精製工学演習
9. 触媒反応化学演習
10. 触媒工学演習
11. エネルギー化学基礎演習
12. エネルギー化学演習
13. 環境化学プロセス工学基礎演習
14. 環境化学プロセス工学演習
15. 総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習・課題 100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究室配属先および卒論審査会での内容を理解する。

## 履修上の注意 /Remarks

全員参加。授業の順序が変わる可能性あり。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

エネルギー循環化学についての卒論準備に取り掛かりましょう。

## キーワード /Keywords

卒研準備

# エネルギー循環化学実習

(Experiments in Chemical Engineering , Energy and Environments)

担当者名 /Instructor 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科, 鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )  
天野 史章 / Fumiaki AMANO / エネルギー循環化学科 ( 19 ~ )

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 2学期 授業形態 実験・実習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

エネルギー、資源循環等に関連する化学プロセスや物質合成の実験技術、環境保全に関する技術を習得する。

## 教科書 /Textbooks

下記(1)群のゼオライト触媒による芳香族炭化水素のアルキル化反応  
下記(2)群のゼオライト合成とキャラクタリゼーション  
下記(3)群の有機リン農薬分析  
に関して、それぞれ別途テキストを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○粉末X線解析の実際 中井泉、泉富士雄 朝倉書店  
○機器分析のてびき(1)~(4) 化学同人

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実験は大きく以下の3テーマからなり、学生は3グループに分かれて順次3テーマを行う。

(1)群：ゼオライト触媒による芳香族炭化水素のアルキル化反応を、固定床流通式反応装置を用いて行う。キャピラリガスクロマトグラフを用いて反応物、生成物の分析を行い、原料転化率、生成物収率を求め、触媒の作用について学ぶ。

(2)群：複数の合成条件でゼオライト合成を行い、市販のZSM-5ゼオライトとの比較を行う。Na型を合成後、水素置換を行い、それぞれの粉末X線回折測定にて構造同定を、比表面積&細孔分布測定にて比表面積ならびに細孔分布、フィールドエミッション型高分解能電子顕微鏡観察にて外形観察、誘導結合プラズマ発光分光分析計にて組成定量を行う。得られたデータを総合して市販品との性能比較を推察する。

(3)群：有機リン系農薬のJIS法に準拠した分析法を学習する。水試料から対象物質の有機リン系農薬農薬6種を固相抽出し、キャピラリーGC-FPDで測定する。実験内容は、検量線作成、添加回収試験および未知試料の分析などである。これらの実験を通して、微量化学物質分析およびGC測定の基礎、および精度管理を身につける。

以上のほか、化学関連の企業や設備の見学を1日実施する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

実験への取り組み態度およびレポートにより行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記(3)群の有機リン農薬の分析に関しては、前記の「環境分析化学」と本実験テキストを熟読した上で実験に臨むこと。単に実験テキストに従って操作するだけでは、真の技術が身につかず、応用も利かない。

## 履修上の注意 /Remarks

実験である以上、出席し実験操作を行うことは履修の大前提である。基本的に就職活動等による欠席は認めていないので就職活動を行う学生はスケジュールに留意すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 化学産業技術論

(Chemical Industry Technology)

担当者名 飯田 汎 / Hiroshi IIDA / 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

- (1) 21世紀の地球社会を持続発展的に営むために、化学産業はどうあるべきか。  
21世紀社会の展望と、産業の役割について、また、技術者の使命感について語ります。
- (2) 未来の展望を欠いたままで、若い技術者に、技術進歩だけを語ることはできません。  
現代社会がかかえる様々な問題を理解し、多くの課題を超えたくうえで、技術者のリーダーシップ  
を発揮し、新しい社会を作り出すために取り組むべき課題を具体的に提示します。
- (3) 15回の講義を通して、最後に以下の質問に答えられるような課題の提示を示します。  
\* 技術者としての動機づけはできたか  
\* 社会と技術は密接不可分の関係にあることを理解できたか  
\* 上昇志向で物事に取り組むことのキッカケが育まれたか

## 教科書 /Textbooks

飯田汎『ニッポン技術者の使命』丸善(2005)  
東千秋・飯田汎・雀部博之『技術革新を支える物質の科学』放送大学教育振興会(2008)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

飯田汎『岐路に立つ日本の行方 -再び開拓・創造の躍動感を-』丸善プラネット(2010)  
田島慶三『現代化学産業論への道』化学工業日報社(2008)



# 化学産業技術論

(Chemical Industry Technology)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【第1回】1.岐路に立つ日本と技術者の使命 (1)6回目の危機にある日本の行方 <日本のビジョン>  
"文化・知識・環境融合社会"の創造
- 【第2回】1.岐路に立つ日本と技術者の使命 (2)社会と産業をめぐる5つの潮流 <技術者のミッション>
- 【第3回】2.人間社会と化学の役割  
化学産業の役割と科学技術の使命 ①資源・エネルギーと化学 ②食料問題と化学
- 【第4回】2.人間社会と化学の役割  
化学産業の役割と科学技術の使命 ③健康と化学 ④生活と化学
- 【第5回】3.産業構造の変革にむけた化学産業の役割  
化学産業の歴史と特徴 ①近代化学工業発展の足跡 ②わが国の化学産業の現状
- 【第6回】3.産業構造の変革にむけた化学産業の役割  
化学産業の歴史と特徴 ③化学産業の特徴 ④戦後の経済を支えた化学工業
- 【第7回】4.イノベーションとパラダイムの転換 の意義  
(1)科学技術とイノベーション (2)成功度仮説とその検証 (3)グローバル化の課題
- 【第8回】5.現代社会とイノベーション  
文化・知識・環境融合社会の形成にむけた課題(事例)  
(1)知識社会とイノベーション  
①記録・記憶技術 ②バイオ・ゲノム科学 ③ ナノテクノロジー
- 【第9回】(2)環境調和社会とイノベーション  
①物質の循環とプロセス・イノベーション  
②未来のエネルギー資源とその利用
- 【第10回】(3)生活文化社会とイノベーション  
①高分子材料の高性能・高機能化 ②金属・無機材料の高性能化・高機能化
- 【第11回】6.創造革命で世界のイニシアティブを (1) グローバル世界の国々と日本
- 【第12回】6.創造革命で世界のイニシアティブを (2)日本人の心 Jマインド
- 【第13回】6.創造革命で世界のイニシアティブを (3)日本の伝統文化と化学技術
- 【第14回】6.創造革命で世界のイニシアティブを (4)21世紀産業の開拓と化学技術
- 【第15回】まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト、自由記述	40%
最終テスト	60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講前に、一瞬、以下のことを考えて、受講に臨んでください。

- \* 技術者としての動機づけ \* 現代社会の姿に対する認識 \* 上昇志向をもった取り組み姿勢

## 履修上の注意 /Remarks

4～7月の毎月、2日間にわたって4コマの講義を行います。  
開講日時については時間割を参照して下さい。

- 4月 4コマ 岐路に立つ日本と技術者の使命(1、2回)  
人間社会と化学の役割(3、4回)
- 5月 4コマ 産業構造の変革にむけた化学産業の役割(5、6回)  
イノベーションとパラダイムの転換 の意義(7回)  
現代社会とイノベーション(8回)
- 6月 4コマ 現代社会とイノベーション(9、10回)  
創造改革で世界のイニシアティブを(11、12回)
- 7月 3コマ 創造革命で世界のイニシアティブを(13、14回)  
まとめ(15回)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会と技術は密接不可分な関係にあります。そのために、現代社会の姿についての理解が不可欠です。  
こうした認識を深めるためにも、できるだけ多くの、仲間とともに参加してみてください。  
本講義を受講することで、さまざまな知識とともに、社会人としての人格の大切さを身につけられるよう、  
一緒に考えたいと思います。

## キーワード /Keywords

化学産業、化学技術、文化・知識・環境融合社会、イノベーション、パラダイム転換、グローバル教育、

# 化学産業技術論

(Chemical Industry Technology)

## キーワード /Keywords

日本人の心、Jマインド、成功度仮説

# 資源循環工学

(Sustainable Resource Engineering)

担当者名 /Instructor 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~), 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

豊かで住みよい生活を営み、様々な生産活動や社会活動を持続可能なものとするためには、環境への負荷を最小にして、有限の資源を最大限に活用する資源循環型社会の形成が必要となる。このことを技術面から理解することを目標に、排水と有機性廃棄物の処理システムならびに金属とプラスチック廃棄物のリサイクルシステムについて、原理と基本的考え方を学ぶ。なお、排水と有機性廃棄物の分野では、私たちの社会で最も広く使われている生物学的処理システムに特に焦点を当てて講義を行う。

## 教科書 /Textbooks

特に指定せず、必要に応じて講義の都度資料を配付する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義中に適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 生物学的処理システムの化学1 (窒素除去)
- 2 生物学的処理システムの化学2 (有機物除去)
- 3 汚濁物質 (有機物・栄養塩類) を分解する微生物の種類と処理プロセス
- 4 微生物の増殖と汚濁物質分解の関係1 (CODの考え方)
- 5 微生物の増殖と汚濁物質分解の関係2 (汚泥の生成)
- 6 生物学的排水処理システムの計算方法1 (ケモスタット)
- 7 生物学的排水処理システムの計算方法2 (活性汚泥法)
- 8 排水・有機性廃棄物の資源化技術1 (完全混合とプラグフロー)
- 9 排水・有機性廃棄物の資源化技術2 (メタン発酵システム)
- 10 金属・プラスチック類のリサイクル技術概要
- 11 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術1 (粉砕)
- 12 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術2 (物理的分離1)
- 13 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術3 (物理的分離2)
- 14 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術4 (物理化学的分離)
- 15 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術5 (化学的分離)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・演習 50%  
試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の要点をノートに必ずまとめること。また、これによって授業で学習した数式・反応等を理解すること

## 履修上の注意 /Remarks

適宜、演習による理解度評価を行う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目のリサイクルシステム論を予め受講しておくことが望ましい。

## キーワード /Keywords

# 数値計算法

(Numerical Computation Methods)

担当者名 /Instructor 清田 高德 / Takanori KIYOTA / 機械システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科

## 授業の概要 /Course Description

コンピュータを利用した数値計算、数値解析、数値シミュレーションは、工学のあらゆる分野において、重要な役割を果たしている。本科目では、コンピュータを使った数値計算に必要な数値計算法および数値解析の基礎と、微分方程式や連立一次方程式の解法、数値積分法などの基本的なアルゴリズムを学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

「数値計算法」(三井田惇郎・須田宇宙著、森北出版)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○「Excelによる数値計算法」(趙華安著、共立出版)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 数値計算とは
- 2 誤差、2次方程式の根の公式
- 3 非線形方程式の反復解法(1): 2分法
- 4 非線形方程式の反復解法(2): ニュートン法
- 5 連立1次方程式の解法(1): ガウス・ジョルダン法
- 6 連立1次方程式の解法(2): ガウス・ザイデル法、LU分解
- 7 関数補間と近似式(1): ラグランジュの補間法
- 8 関数補間と近似式(2): 最小2乗法
- 9 数値積分
- 10 常微分方程式(1): オイラーの公式
- 11 常微分方程式(2): ルンゲ・クッタの公式
- 12 常微分方程式(3): 高階微分方程式と連立微分方程式
- 13 常微分方程式(4): 境界値問題
- 14 浮動小数点数
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2回 60% 2回とも提出することが条件  
 期末試験 40% 得点が低い場合は不合格  
 演習 未提出は減点

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

線形代数、微分・積分学、微分方程式の知識を前提とする。

## 履修上の注意 /Remarks

講義中の演習で使用するので、電卓を持参すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

機械システム工学科の学生は、「数値計算法演習」とセットでの受講を強く勧めます。「数値計算法演習」は、本講義で習うアルゴリズムのプログラミング演習なので、理解が深まります。

## キーワード /Keywords

# 環境保全学

(Environmental Conservation)

担当者名 /Instructor 周 国云 / Guoyun ZHOU / 非常勤講師, 竹内 真一 / Shinichi TAKEUCHI / 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

都市や国土の緑地保全、景観保全、屋上緑化空間の形成・維持など、豊かな緑と生物の多様性を確保した生態系からなる緑地を創造する技術および維持管理の手法を学ぶ。また、土壌、水、生態系、人間活動等、多様な空間情報をデータベースとして管理し、専門家のみならず多くの関係者と情報共有を可能とし、また様々な解析を可能とするツールである地理情報システム (GIS) の修得は、環境保全に必須といえる。これについては、多くの演習をこなす。2名の講師が分担して教える。

## 教科書 /Textbooks

各教員が配付資料を準備する。また、必要に応じて教科書を初回講義で指定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各教員の初回講義で指定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ビオトープの保全・創出 (I) ビオトープの定義とビオトープの創出事例
2. ビオトープの保全・創出 (II) ビオトープの事例と生き物調査の事例
3. 緑地の創造・造園学 (I) 造園学概説
4. 緑地の創造・造園学 (II) 様々な造園技術の紹介
5. 緑地の創造・造園学 (III) 造園分野の研究紹介と造園施工事例
6. 都市の緑化技術 (I) 環境緑化技術の紹介
7. 都市の緑化技術 (II) 屋上・壁面緑化に関する研究紹介
8. 環境保全と空間情報 (地理情報システム) について
9. GISの基礎知識 (データモデル、ベクトルデータの構造、地理参照)
10. GISデータの表示 (ラベル、分類シンボル、投影法、レイアウト)
11. 検索と解析 (空間検索、属性検索、インターセクト、ディゾルブ、バッファ等)
12. データの作成と構築 (XYデータの追加、自動と半自動データ変換)
13. プロジェクト演習 1 北九州市の土地利用変遷の解析
14. プロジェクト演習 2 地下水汚染の管理システムの作成と運用演習
15. 空間技術 (GIS) を活用した環境保全の未来

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業内の課題 50%  
レポート 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

様々な環境保全事例 (ビオトープ・庭園・緑化事例など) を事前に見ておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

集中講義で開講する。後半は、パソコンを操作しながら講義と演習を行う。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 生物化学

(Biochemistry)

担当者名 /Instructor 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、「基礎生物化学」で学んだ内容を基礎に、生体内で起きるエネルギー代謝など化学反応についての詳細を学び、生物化学からみた生命像の理解を目指す。具体的には、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、光合成など代謝とエネルギー生産の基礎、生体分子の合成と分解など物質代謝の基礎、遺伝子の発現と複製など、機能面から生物化学に関する知見を深める。また、物質輸送、細胞内情報伝達、遺伝子発現制御による代謝制御の仕組みについても学び、動的な生命現象の理解を目指す。

## 教科書 /Textbooks

田宮信雄他訳「ヴォート基礎生物化学」第3版、東京化学同人

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

Albertsら著、中村・松原監訳「細胞の分子生物学」第5版、ニュートンプレス  
福岡伸一監訳「マッキー生化学」第4版、化学同人  
生化学辞典第4版、東京化学同人

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション 「生物化学とは」、「生命の誕生と生化学」、  
「生化学反応の場としての細胞とオルガネラ」
- 2 代謝とエネルギー I 解糖系と糖新生
- 3 代謝とエネルギー II TCA回路
- 4 代謝とエネルギー III 電子伝達系とATP収支
- 5 代謝とエネルギー IV 光合成(1)【明反応、電子伝達系】
- 6 代謝とエネルギー V 光合成(2)【暗反応、炭素固定】
- 7 生体分子の合成と分解
- 8 前半の復習、確認試験
- 9 生体膜と物質輸送
- 10 細胞内情報伝達を担う分子たち
- 11 遺伝情報と遺伝子
- 12 遺伝子の発現と複製(1)【核酸の構造、DNAの複製、修復、組換え】
- 13 遺伝子の発現と複製(2)【転写、RNAプロセッシング、翻訳】
- 14 遺伝子発現制御と代謝制御
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

課題、レポート 20% 適宜指示する(2回程度)  
確認試験 40% 第1回~7回の範囲から出題  
期末試験 40% 主に第9回以降の範囲から出題

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書の「IV代謝」と「V遺伝子の発現と複製」の範囲を読んで十分な予習をすること。また、配布物およびワークシートに従って予習と復習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年次の「基礎生物化学」の内容をよく復習して講義に臨んでください。

## キーワード /Keywords

# 統計熱力学

(Thermodynamics and Statistical Mechanics)

担当者名 櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

統計熱力学について学ぶ。熱力学の知識の上にたち、統計熱力学は、多数の原子・分子から構成されている物質の特性を微視的状态の集合として捕らえる考え方の基礎について学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

化学系の統計力学入門 Benjamin Widomt著 甲賀研一郎訳

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 熱力学の復習 ( 1 ) 【第 1 法則】
- 2 熱力学の復習 ( 2 ) 【第 2 法則】
- 3 熱力学の復習 ( 3 ) 【熱力学関数】
- 4 熱力学の演習
- 5 ボルツマン分布則と分配関数 ( 1 ) 【ボルツマン分布】
- 6 ボルツマン分布則と分配関数 ( 2 ) 【分配関数、期待値】
- 7 分配関数の応用
- 8 理想気体の統計熱力学 ( 1 ) 【内部エネルギー】
- 9 理想気体の統計熱力学 ( 2 ) 【2 原子分子】
- 10 演習 ( 講義第 1 回 ~ 第 9 回 )
- 11 分配関数と平衡定数
- 12 高分子鎖の統計力学
- 13 演習 ( 講義第 11 回 ~ 第 12 回 )
- 14 演習 ( 全体 )
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40% ( 追試あり )、期末試験 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をしっかりと行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

講義は板書と配布資料でおこなう。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

熱力学の分子論的根拠を与える重要な分野であり、ボルツマン統計をしっかりと学んで欲しい。

## キーワード /Keywords

# 分子生物学

(Molecular Biology)

担当者名 /Instructor 平野 雄 / Takeshi HIRANO / 環境生命工学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

分子生物学は現代の生命科学の基礎となる学問である。分子生物学に関する知識としてこれだけは理解して欲しいという点を中心に講義をする。

## 教科書 /Textbooks

資料を配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜紹介

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 分子生物学概論
- 2 . 分子生物学の歴史
- 3 . DNAの構造と機能
- 4 . RNAの構造と機能
- 5 . 転写：RNAの合成
- 6 . 翻訳：タンパク質の合成
- 7 . DNA複製
- 8 . 演習 ( 1 ~ 7 の内容 )
- 9 . 遺伝子の変異と修復
- 10 . 遺伝子の組換え
- 11 . 細菌の分子生物学
- 12 . 真核生物の分子生物学
- 13 . 遺伝子と病気
- 14 . 遺伝子関連法規
- 15 . 演習 ( 9 ~ 14 の内容 )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 40%  
試験 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を予習、復習に活用し、授業の理解を深めること

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

テレビや新聞、インターネットなどで紹介されるバイオ関連のニュースにも関心を持ってください。この講義で習得した知識が生きたものとなります。

## キーワード /Keywords



# 有機化学 II

(Organic Chemistry II)

担当者名 /Instructor 櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

化学の最も重要な基礎学問の一つである有機化学を発展的に理解し、官能基の化学反応に関して、反復演習によって理解力を積み上げる。随時、有機化学の応用分野である、生物学や医学、工学での実例を紹介する。

## 教科書 /Textbooks

ボルハルト・シヨアー現代有機化学(下)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

とくになし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ベンゼン環と芳香族求電子置換反応
- 2 ベンゼン環の置換基の位置選択性
- 3 芳香族の化学の演習
- 4 アルデヒドとケトン(1) 【カルボニル基の反応性】
- 5 アルデヒドとケトン(2) 【求核反応】
- 6 エノラートとアルドール縮合(1) 【アルドール縮合】
- 7 エノラートとアルドール縮合(2) 【保護基】
- 8 カルボン酸の化学(1) 【マイケル付加】
- 9 カルボン酸の化学(2) 【ロビンソンの環化反応】
- 10 アミンの化学(1) 【アミノ基】
- 11 アミノの化学(2) 【ホフマン分解】
- 12 Claisen縮合とエノラート(1) 【Claisen縮合】
- 13 Claisen縮合とエノラート(2) 【マロン酸エステル】
- 14 演習
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験40%(追試あり)、期末試験60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

復習をしっかりとすること

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

有機化学は化学の最も重要な基礎学問の一つである。化学系の専門分野での仕事には不可欠な学問分野であることを十分に自覚して講義にのぞむこと。

## キーワード /Keywords

# 環境政策概論

(Introduction to Environmental Policy and Administration)

担当者名 乙間 末廣 / Suehiro OTOMA / 環境生命工学科  
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

環境政策および法制度では、新しい政策課題に対応する形で、さまざまな原則が提案され、新しい制度が導入されつつある。本科目では日本の基本的な環境政策の動向、問題の状況、法的な枠組み、さらには国際的な動向について概説する。具体的な分野としては、温暖化、廃棄物、化学物質などを中心とする。関連する新聞記事の解説も行い、報道内容が的確に理解できるようになることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

特に指定はしない。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

倉坂秀史「環境政策論」(信山社,2004年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 日本の法制度の枠組み
- 第3回 わが国の公害、環境政策の変遷(その1:黎明期)
- 第4回 わが国の公害、環境政策の変遷(その2:公害対策基本法)
- 第5回 わが国の公害、環境政策の変遷(その3:環境庁の政策)
- 第6回 わが国の公害、環境政策の変遷(その4:環境問題の変容)
- 第7回 わが国の公害、環境政策の変遷(その5:環境基本法)
- 第8回 地球温暖化(その1:現象とメカニズム)
- 第9回 地球温暖化(その2:国際協調)
- 第10回 地球温暖化(その3:COPと議定書)
- 第11回 地球温暖化(その4:IPCC報告書)
- 第12回 循環型社会とリサイクル
- 第13回 リサイクル法
- 第14回 化学物質管理政策
- 第15回 まとめと質問

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加及び宿題 60%  
試験40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

## 履修上の注意 /Remarks

特になし

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境関連の時事問題に関心を持ち、問題の核心を理解し、今必要な政策は何かを考える学生を歓迎する。

## キーワード /Keywords

# 微生物学

(Microbiology)

担当者名 /Instructor 森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

土壌、河川、海、空気中など地球上の至るところに微生物は存在しており、その微生物の種類は約20万種ともいわれている。微生物は多種多様な物質を栄養源として生育していることから、通常では高等動植物が存在できない極限環境にも幅広く生息している。本講義では、微生物の種類と基本的な性質について解説する。更に微生物は様々な工業分野で広く利用されており、私たちの暮らしに欠かせないものであることを理解する。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

ブラック微生物学 (丸善)、バイオのための基礎微生物学 (講談社サイエンティフィク)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 微生物の拮抗作用と共存作用
2. 微生物の分類と命名
3. 細菌の構造と生活環
4. アーキア (古細菌)
5. 食中毒の分類と微生物
6. 様々な食中毒細菌I【感染型食中毒】
7. 様々な食中毒細菌II【毒素型食中毒】
8. 前半の復習、確認試験
9. 微生物の制御 (殺菌と静菌)
10. ウイルス・寄生虫
11. カビの分類と生活環
12. 酵母の分類と生活環
13. 放線菌の分類と機能
14. 微生物の利用I【酒類製造】
15. 微生物の利用II【様々な発酵食品】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (50%)  
確認試験 (30%)  
授業態度・課題 (20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜、指示をする。

## 履修上の注意 /Remarks

授業では幅広い内容を取り上げるため、専門書等を用いて復習することにより理解をさらに深めてほしい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義において微生物に関する理解を深め、私たちの暮らしに微生物は欠かせないものであることを認識してほしい。そしてこのような微生物をどのような形で活用していけば、私たちの生活に役立つか考えてほしい。

## キーワード /Keywords

微生物、発酵、食品衛生

# 環境シミュレーション

(Environmental Computer Simulation)

担当者名 /Instructor 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 ( 19 ~ ) , 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

コンピュータ実験により、複雑と思われた自然現象や社会的事象が実は簡単な法則や規則の積み上げで起こることを理解する。まず、人工的な幾何学形状や自然界にある不定形なもの、情報や知識がコンピュータの中でどう表現するか学び、それらを動かす基本的な法則やアルゴリズムを学習する。その際、フラクタルやモンテカルロ法などの確率論的な手法も重視する。自らプログラムを実行して考察するプログラム教材を毎回用意しており、宿題演習することでシミュレーションの面白さを実感できる。

## 教科書 /Textbooks

講義資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○ハーベイ・ゴールド「計算物理学入門」、講義資料配付

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 概要：計算機シミュレーションの歴史、オイラー法
- 2 差分法の簡単な例：コーヒーの冷却
- 3 粒子の運動 ( 2 体問題、3 体問題 ) : 惑星の運動、価電子の運動
- 4 高精度差分法とカオス：高精度時間積分、非線形系、ロジスティック曲線
- 5 幾何学的物体の表現法：メッシュ分割、立体の可視化
- 6 不定形物の表現法：画像、フーリエ変換、電子波動関数
- 7 多粒子系の動力学：気体・個体の分子運動、相変態 ( 融解 )
- 8 確率的現象：ランダムウォーク、拡散
- 9 統計的検定：正確確率法とミルクティー問題
- 10 地理的分布：カーネル密度推定と犯罪率地図作成
- 11 学習モデル：バイズの定理、神経回路網
- 12 モンテカルロ法：サイコロ積分、最適化問題、光線の屈折
- 13 フラクタル：自己相似性、フラクタル次元、DLAクラスター
- 14 複雑性：臨界現象、人工生命
- 15 全く異なる計算モデル：生態系、銀河系 ~ まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

毎週の宿題及び授業内演習 60%  
期末試験 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本授業の宿題はExcelおよびExcelマクロ ( Visual Basic ) を用いる。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの中に身の回りの自然現象や人間の社会システムを再現する基本的なモデルをゲーム感覚で学んでください。これにより、コンピュータによる思考実験の結果を価値判断できるセンス ( 何が使える情報で、何が使えないのか ) を養ってほしい。

## キーワード /Keywords

# 環境リスク学

(Environmental Risk Management)

担当者名 /Instructor 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 ( 19 ~ ) , 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

有害化学物質や重金属などの環境汚染物質のリスクを正しく評価・理解して適切に選択・行動できるだけでなく、情報を正確に伝える技術が必要である。日常行動に伴うリスク、化学物質のリスクなどを例にとり、リスクの大きさに基づいて行動する重要性を認識する。さらに、人の健康リスクを評価するための有害性評価、暴露評価、リスク評価の手法について学び、化学物質管理やリスクコミュニケーションの事例を通して学習する。

## 教科書 /Textbooks

吉田喜久雄・中西準子「環境リスク解析入門[化学物質編]」東京図書、2800円

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

矢野昌彦「リスクマネジメント・システム」大阪大学出版会、東海明宏・岸本充生・蒲生昌志「環境リスク評価論」大阪大学出版会、中西準子他「演習環境リスクを計算する」岩波書店、ほか講義中に紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境リスクと化学物質のリスク
- 2 リスクアセスメント
- 3 リスクアセスメントの事例
- 4 リスクアセスメントとデータ
- 5 有害性確認と用量反応関係
- 6 ダイオキシンのTDI
- 7 暴露評価
- 8 閾値のある物質の確率的リスク評価
- 9 リスク判定と水道水のリスク
- 10 生態リスク評価
- 11 リスクマネジメント
- 12 リスクコミュニケーション
- 13 リスクアセスメントのためのシステム
- 14 社会経済分析・費用効果分析
- 15 環境リスクと企業活動、まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%  
レポート 20%  
期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

説明が分からなかったところはそのままにせず、教員への質問や復習をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

日常生活の中で環境リスクに関する事項に関心を持つこと。例えば、ニュースや新聞記事に日頃から注意する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学物質を扱う企業だけでなく、一般環境や日常生活の中にも環境リスクは存在する。国際社会・地域社会における環境リスクの評価や管理の方法を学びたいという学生を歓迎する。

## キーワード /Keywords

# 錯体化学

(Coordination Chemistry)

担当者名 /Instructor 磯田 隆聡 / Takaaki ISODA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

錯体分子は、無機イオンと有機化合物からなる複合体です。

錯体反応は、生化学、生体材料化学（化粧品）をはじめ、触媒化学、分析化学など様々な分野を理解するための基礎学問です。そのため生物系、化学系の大学生には必須の基礎知識です。

本講義では、指定教科書を用いて以下の内容を行います。

前半：錯体化学の基本事項について学びます。そのため、これまで修得してきた無機化学の基礎事項（電子配置、化学構造、化合物の物性）を演習形式で総復習します。

後半：錯体分子の特徴的な性質（酸化・還元、色、発光）について学び、特に生体材料へ利用される事例について理解を深めます。

## 教科書 /Textbooks

化学教科書シリーズ 第2版 無機化学概論（小倉興太郎 著、丸善出版）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

-

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 錯体化学の基礎① 遷移金属の原子軌道
- 2 錯体化学の基礎② 電子配置の法則①② (Pauliの排他原理、Hundの法則)
- 3 錯体化学の基礎③ 電子配置の法則③ (d軌道の電子配置)
- 4 錯体化学の基礎④ 電子配置の法則④ (d軌道の混成軌道)
- 5 演習1 (錯体化学の基礎①~④の理解度確認)
- 6 錯体化学の応用① エネルギー準位の考え方
- 7 錯体化学の応用② 配位結合
- 8 錯体化学の応用③ 結晶場理論
- 9 演習2 (錯体化学の応用①~③の理解度確認)
- 10 錯体分子の利用① 化粧品や食品の安定化 -キレート剤-
- 11 錯体分子の利用② 色素 -色と発光-
- 12 錯体分子の利用③ 酸化・還元特性 -活性酸素-
- 13 錯体分子の利用④ タンパク分子をつかむ -HisTag反応-
- 14 演習3 (錯体分子の利用①~④の理解度確認)
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

評価項目：配点：比率  
 平常点(10点満点)：1点×10回：10%  
 演習点(40点満点)：第1回10点+2回10点+3回20点：40%  
 期末試験(50点満点)：50点：50%  
 ※比率の合計は100%

※注 レポート，追試等の措置は行わないので、講義に毎回出席し、演習を必ず受けること

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

# 錯体化学

(Coordination Chemistry)

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

-

## 履修上の注意 /Remarks

前年度より以前に本講義の評価がF判定の学生については、期末試験のみで成績を評価する。  
(この場合、期末試験を100点満点として採点を行う)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では2年生前期までに学習した無機化学の基礎について、繰り返し、丁寧に解説し、演習で理解の確認をします。皆さんが今後、卒論や修論を通じて生物や化学の専門分野に入る前に、基礎事項をしっかり身につけてくれることを期待しています。本学大学院試の選択問題では錯体化学が出題されます。環境生命工学科では選択科目ですが、大学院進学を予定している学生は特に受講を薦めます。

## キーワード /Keywords

# 遺伝子工学

(Genetic Engineering)

担当者名 /Instructor 平野 雄 / Takeshi HIRANO / 環境生命工学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

過去半世紀にわたって築き上げられた分子生物学は、それを基本とした遺伝子工学の発展により社会に貢献している。本講義を通じて遺伝子工学の基本を学び、それを利用、さらには応用する力を養う。

## 教科書 /Textbooks

教員が準備し、配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

講義の中で適宜紹介する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 遺伝子工学概論
- 第 2 回 細胞の構造と機能
- 第 3 回 遺伝子の構造
- 第 4 回 遺伝子発現の仕組みと制御
- 第 5 回 遺伝子操作の基本I
- 第 6 回 遺伝子操作の基本II
- 第 7 回 遺伝子の塩基配列決定法
- 第 8 回 遺伝子増幅法
- 第 9 回 遺伝子導入ベクター
- 第 10 回 遺伝子組換えによるタンパク質生産
- 第 11 回 細胞への遺伝子導入
- 第 12 回 遺伝子改変生物
- 第 13 回 遺伝子工学の応用
- 第 14 回 遺伝子工学に関わる倫理、規制など
- 第 15 回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

試験 60%  
積極的な授業参加 40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門性の高い分野です。予習、復習が不可欠です。

## 履修上の注意 /Remarks

分子生物学の知識が基礎となります。それらを理解していることが前提です。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バイオテクノロジーを極めたいと思う学生は、熱意を持ってこの講義に臨んでください。

## キーワード /Keywords



# 生態工学

(Ecological Engineering)

担当者名 上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科  
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科  
/Department

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、生物学・生態学的な見方を通して、自然生態系の仕組みや機能を紹介する。具体的には、自然生態系の保全や修復のための生態系機能の強化手法、破壊された生態系の修復手法および生態系の機能を利用する手法などについて概説し、自然生態系の基本と応用を理解できるようにする。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

環境修復のための生態工学 (講談社)  
河口・沿岸域の生態学とエコテクノロジー (東海大学出版会)  
エコテクノロジーによる河川・湖沼の水質浄化 (ソフトサイエンス社)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 はじめに
- 2 ビオトープによる環境修復(基礎)
- 3 ビオトープによる環境修復(応用)
- 4 湖沼生態系の保全と管理(基礎)
- 5 湖沼生態系の保全と管理(応用)
- 6 河川生態系の保全と管理(基礎)
- 7 河川生態系の保全と管理(応用)
- 8 前半のまとめ、確認テスト
- 9 干潟生態系の保全と管理(基礎)
- 10 干潟生態系の保全と管理(応用)
- 11 森林生態系の保全と管理
- 12 エコテクノロジーの応用(バイオマニピュレーション)
- 13 エコテクノロジーの応用(植生浄化)
- 14 エコテクノロジーの応用(内湾の環境修復事例)
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト 30%  
期末テスト 50%  
日常の授業への取り組み 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜、指示する。

## 履修上の注意 /Remarks

生態学(1年次2学期開講)が基礎となっている講義科目であるので、事前に生態学を履修しておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生態工学は人類と自然との共生を可能にする技術であり、21世紀に発展が期待されている工学です。

## キーワード /Keywords

自然生態系 環境修復 指標生物 バイオマニピュレーション

# 環境計画学

(Environmental Planning)

担当者名 /Instructor 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

環境計画を考える上で、必要となる意志決定ツールを中心に修得する。まず、都市や国土を規定している都市計画、国土計画の諸制度の成り立ちとその実際について学ぶ。次いで、投資判定分析、費用便益分析、多目的意志決定手法などについて学ぶ。さらに、従来経済価値を認めてこなかった環境資源の扱いも重要な課題であり、そのための環境の経済評価手法について、その基本的な概念と手法を修得する。また、合意形成プロセスのための手法と実際についても講究する。

## 教科書 /Textbooks

指定しない

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

田中勝 編著「循環型社会評価手法の基礎知識」技報堂出版  
その他、講義中に指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境計画をめぐる諸状況
- 2 持続可能性評価指標
- 3 物質フロー分析【基礎的概念】
- 4 物質フロー分析【応用】
- 5 ライフサイクルアセスメント【基礎的概念】
- 6 ライフサイクルアセスメント【応用】
- 7 同上 演習
- 8 費用便益分析【基礎的概念】
- 9 費用便益分析【応用】
- 10 リスクアセスメント・リスク便益分析
- 11 環境経済評価手法【基礎的概念】
- 12 環境経済評価手法【応用】
- 13 多目的意志決定手法
- 14 合意形成
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業への積極的参加) 10% ※2/3以上出席すること  
レポート 30%  
期末試験 60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業毎に指示する。

## 履修上の注意 /Remarks

必要に応じて、関数電卓、PC ( Excel ) を使用することがあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済縮小・人口縮小時代が到来し、社会資本ストックの更新期を迎える中で、持続可能型社会の形成という21世紀の課題に答えるべく、「社会をどのように再構築するか」「開発か環境資源を保護すべきか」といった問題に取り組むためのツールを学びます。

## キーワード /Keywords

# 環境経営学

(Sustainable Management)

担当者名 /Instructor 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

環境経営とは、環境保全活動を推進するだけでなく生産、調達、販売、財務などを通じて経営のあらゆる場面で環境に配慮し、環境活動を通じて経営改善を図ることである。環境マネジメントシステムや環境監査、環境会計、環境報告書、ライフサイクルアセスメント、環境適合設計、環境ラベル、グリーン購入・グリーン調達など様々な環境経営支援手法がある。本講義では、それらの概要を理解する。

## 教科書 /Textbooks

岡本眞一編著「環境経営入門」日科技連、1995円

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

國部克彦他「環境経営・会計」有斐閣アルマ  
エコビジネスネットワーク編「よくわかる環境ビジネス」産学社

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境とその管理
- 2 環境と経済
- 3 環境問題と経営
- 4 環境問題と企業
- 5 企業の環境経営・社会的責任経営
- 6 環境ビジネス
- 7 環境マネジメントシステム① ( システムの概要、要求事項 )
- 8 環境マネジメントシステム② ( 認証制度と普及状況 )
- 9 環境会計
- 10 環境リスク管理と環境コミュニケーション・環境報告書
- 11 製品の環境配慮・環境適合設計・環境ラベル
- 12 環境マーケティング・グリーン購入
- 13 環境調和型社会の構築
- 14 環境マネジメントシステムのめざす方向
- 15 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%  
レポート 20%  
期末試験 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「環境マネジメント概論」を受講しておくことが望ましい。

## 履修上の注意 /Remarks

専門用語が頻出するので、毎回出席すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単に知識を習得するだけでなく、自分で考える習慣を身につけてほしい。

## キーワード /Keywords

# 生物工学

(Biological Engineering)

担当者名 /Instructor 中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 ( 19 ~ )

履修年次 /Year 3年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 2学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

酵素、微生物、動植物細胞などを産業利用する場合、原料調製、反応、分離といった一連のプロセスを考えることが重要である。本講義では、生体触媒の特性や調製に関わるアップストリームプロセス、バイオリアクター操作などのプロダクションプロセス、バイオセパレーションなどのダウンストリームプロセスを学び、バイオプロダクトの生産について理解する。

## 教科書 /Textbooks

適宜、指示。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入 ( 生物工学とは )
- 2 バイオプロセスの構成
- 3 生体触媒の特徴
- 4 酵素反応速度論 1 【反応条件】
- 5 酵素反応速度論 2 【速度論】
- 6 細胞反応速度論 1 【反応条件】
- 7 細胞反応速度論 2 【速度論】
- 8 前半の復習、確認テスト
- 9 バイオリアクター 1 【種類】
- 10 バイオリアクター 2 【特徴】
- 11 培養操作
- 12 スケールアップ
- 13 バイオセパレーション 1 【破碎・遠心・抽出】
- 14 バイオセパレーション 2 【膜分離・クロマトグラフィー】
- 15 総復習

## 成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度・演習 10%  
確認テスト 45%  
期末テスト 45%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜、指示。

## 履修上の注意 /Remarks

予習、復習を行うこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物を利用する産業において、バイオプロセスを理解できる ( 理解している ) ことこそが工学系出身の強みといえます。

## キーワード /Keywords

# 食品工学

(Food Technology)

担当者名 /Instructor 森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

食品は生命維持の原点であり、我々の健康維持に大きな役割を担っている。また食品は様々な加工技術や保蔵技術を経て我々の口に入り、これらの過程により食品成分は様々な変化を受ける。本講義では、食品の主要な構成要素と、色・味・香りなどの嗜好成分について化学的特性と反応性、生理的機能性について紹介し、食品と生命との深いかわりについて学ぶ。更には、身近な食品を例に挙げながら食品加工や食品保蔵に関する基礎知識と技術についてやさしく解説する。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

わかりやすい食品化学 (三共出版)、最新栄養化学 (朝倉書店)、食品加工学～加工から保蔵まで (共立出版)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 食品の表示①食品衛生法、JAS法、景品表示法
2. 食品の表示②栄養増進法、薬事法、計量法
3. 食品化学①食品の色・味・香り
4. 食品化学②食品成分の反応 (褐変)
5. 食品化学③食品成分の反応 (酸化)
6. 食品栄養①三大熱量素と保全素
7. 食品栄養②栄養機能
8. 食品衛生①食品添加物の定義と安全性評価
9. 食品衛生②食品添加物各論 (食品の腐敗を防ぐ)
10. 食品衛生③食品添加物各論 (食品の色・味をつける)
11. 食品衛生④食品添加物各論 (食品どうしをつなぎあわせる)
12. 食品表示のまとめ
13. 食品製造①農産食品の加工
14. 食品製造②畜産食品の加工
15. 食品製造③海産食品の加工

## 成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (50%)  
課題 (30%)  
授業態度 (20%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜、指示をする。

## 履修上の注意 /Remarks

授業では幅広い内容を取り上げるため、専門書等を用いて復習することにより理解をさらに深めてほしい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが心身の健康を確保し、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性を育むためには、何よりも「食」が重要である。ところが近年、食生活をめぐる環境が大きく変化し、その影響が様々なところで顕在化している。本講義では食品に関する必要な知識と健全な食生活を送るために必要な判断力を修得してほしい。

## キーワード /Keywords

食品化学、栄養学、食品保蔵学、食品加工学、食品表示

# バイオインフォマティクス

(Bioinformatics)

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 ( 19 ~ ) , 倉田 博之 / Hiroyuki KURATA / 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

バイオインフォマティクス (Bioinformatics、生物情報科学) は、応用数学、統計学、応用物理学、コンピューターサイエンス、計算機科学などの技術応用によって生命科学の問題を解こうとする学問である。物理学や化学では原理的な方法に基づく数値計算が有効であるのに対し、生物学における計算とは蓄積されたデータの中から経験的な知識や法則を発見していくことが中心である。本講義では、遺伝子解析やバイオ研究におけるコンピュータを使ったアプローチについて概説し、インターネット上に公開されているデータベースやツールの活用法を解説する。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じて教材をプリント配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

はじめてのバイオインフォマティクス 講談社 ( ISBN 978-4-0615-3862-7 )

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 バイオインフォマティクスとは
- 2 バイオインフォマティクスを学ぶための分子生物学入門
- 3 文献データベース
- 4 配列データベース ( 1 ) DNAの塩基配列
- 5 配列データベース ( 2 ) タンパク質のアミノ酸配列
- 6 タンパク質の立体構造解析 ( 1 ) 立体構造予測
- 7 タンパク質の立体構造解析 ( 2 ) 立体構造からの機能の予測
- 8 前半の復習、確認テスト
- 9 ゲノム塩基配列解析 ( 1 ) 塩基配列とゲノム配列の決定方法
- 10 ゲノム塩基配列解析 ( 2 ) 遺伝子の機能予測
- 11 トランスクリプトーム
- 12 プロテオーム
- 13 システム生物学 ( 1 ) システム同定・推定
- 14 システム生物学 ( 2 ) システム制御
- 15 後半の復習、確認テスト

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 ( 積極的な授業参加、小テスト等 ) 30%  
確認テスト 20%  
期末テスト 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ラップトップ型コンピュータ

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 卒業研究 I

(Graduation Research I)

担当者名 /Instructor エネルギー循環化学科全教員 (○学科長)

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

「卒業研究」は学部4年間の集大成である。卒業論文I、IIを通じてこれまで学習してきた知識や考え方を基にして、与えられた研究テーマについて、研究目標及び計画の立案、調査および実験の実施等を行い、その結果を論文としてまとめ発表を行う。この卒業研究を通して、課題解決の手法を身につけ、その結果を第三者に伝える総合的な表現力を養う。

## 教科書 /Textbooks

各指導教員に従う

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

各指導教員に従う

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

4月 ガイダンスおよび研究テーマ決定  
5月～実施：各指導教員の指示に従う（研究目標および計画の立案、調査、実験、討論など）  
指導教員の判断でゼミ合宿を行うことがある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

卒業研究実施状況の結果を総合して評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各指導教員の指示に従い、安全に注意すること。

## 履修上の注意 /Remarks

履修ガイドに記載のエネルギー循環化学科の卒業研究着手要件を満たしていること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの座学や学生実験などの授業で学んだ知識・考え方を駆使し、常に能動的な態度で成し遂げてください。

## キーワード /Keywords

# 卒業研究 II

(Graduation Research II)

担当者名 /Instructor エネルギー循環化学科全教員 (○学科長)

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

## 授業の概要 /Course Description

「卒業研究」は学部4年間の集大成である。卒業論文I、IIを通してこれまで学習してきた知識や考え方を基にして、与えられた研究テーマについて、研究目標及び計画の立案、調査および実験の実施等を行い、その結果を論文としてまとめ発表を行う。この卒業研究を通して、課題解決の手法を身につけ、その結果を第3者に伝える総合的な表現力を養う。

## 教科書 /Textbooks

各指導教員に従う

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

各指導教員に従う

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

卒業論文Iに引き続き、実施： 各指導教員の指示に従う ( 研究目標および計画の立案、調査、実験、討論など )  
2月 卒業論文作成  
卒業論文提出  
卒業論文試問  
卒業研究発表会  
指導教員の判断でゼミ合宿を行うことがある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

卒業研究実施状況、卒業論文、試問、および発表会の結果を総合して評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各指導教員の指示に従い、安全に注意すること。

## 履修上の注意 /Remarks

履修ガイドに記載のエネルギー循環化学科の卒業研究着手要件を満たしていること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの座学や学生実験などの授業で学んだ知識・考え方を駆使し、常に能動的な態度で成し遂げてください。

## キーワード /Keywords



# 卒業研究 ( 基盤 )

(Research for Graduation)

担当者名 基盤教育センターひびきの分室全教員  
/Instructor

履修年次 4年次 単位 8単位 学期 通年 授業形態 実験・実習 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科  
/Department

※お知らせ/Notice 単位数は各学科の卒業研究にならう

## 授業の概要 /Course Description

学部4年間の学習の集大成として、人文社会と工学の接点に関わる研究テーマに取り組む。研究テーマに合わせた実験、調査、レポート、論文作成を通じて、科学的に事象を検証し、整理・発表する能力を養う。また指導教員の判断でゼミ合宿を行うことがある。

## 教科書 /Textbooks

各研究室の指導による。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

各研究室の指導による。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

### (1)研究室配属

3年次3月末を目処に、教員との面接によって履習可否を決定する。  
( 但し、所属学科の都合により4月に面接を行うこともある )

### (2)研究活動

卒業研究は、おおむね次のように進められる。詳しくは、指導教員の指示を受けること。

4月 研究テーマの絞り込み、文献調査など

5月-6月 研究準備および計画の策定

7月-12月 研究の実施・遂行

1月 口頭発表、試問 ( 学生の所属学科での発表が課される場合がある )

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究への取り組み姿勢 : 30%

研究成果 : 50%

口頭発表及び試問 : 20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

様々なメディアを活用して、自分の研究に関わる情報収集に取り組むこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

森本：これまでの各学科の学習内容と環境倫理学とを関連づけて、各自でテーマを検討してください。卒業研究を通して、情報をただ収集するだけでなく、関連づけて分析する仕方、それを理解しやすい形に表現する仕方を学習しましょう。

長：身の回りの「ことば」を題材に、人間の認知活動がどのように現れているのか、また日本語と英語で認知のパターンがどのように異なっているのかについて考えていきます。さらにその結果を基にして、英語学習のマルチメディア教材を開発する予定です。

辻井：卒研に取り組むことにより、これまでに得た知識を体系化して、実社会で生きていく知恵を身につけることが期待されます。自分で見つけたテーマに取り組む知的な作業には、辛い試練ばかりでなく、新しい発見の喜びも必ずついてきます。

中岡：興味のあるテーマを追求する中で、考えることのおもしろさ、達成感を共に味わいましょう。単に「調べる」「書く」だけでなく、「まとめる」「表現する」技も磨いて行きます。アジア地域に関すること、また経済全般に関心のある方、歓迎いたします。

# 卒業研究 ( 基盤 )

(Research for Graduation)

## キーワード /Keywords

森本：環境倫理、功利主義、問題対応 ( 問題発見、問題表現 )  
長：認知言語学、英語学習、日英対照言語学  
辻井：環境、経営、戦略、組織  
中岡：アジア、中国、経済、日本経済

# 日本事情

(Aspects of Japanese Society Today)

担当者名 /Instructor 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、外国人学生が日本に関する知識を学ぶだけではなく、深層文化である日本人の考え方、観念などに関しても考え、主体的に日本の文化・社会に参加し、かつ日本風に主張もできる能力を身に付けることを目指す。現代日本の文化・社会に関するテーマについて討論し理解を深め、異文化間コミュニケーションが円滑に行なえるようにする。授業の中で、日本人学生や地域の人々を招き興味あるテーマに関して討論会なども行い、日本人との交流を通して学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

『文化の壁なんてこわくない』, 水本光美・池田隆介, 北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室, 2009.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ホームページの教材 <http://lang.is.env.kitakyu-u.ac.jp/~nihongo/>

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- オリエンテーション&クラスのマナーについて
- 時間の感覚 1 : パーティに呼ばれたら
- 時間の感覚 2 : 生き残るためのキャンパス術
- 病気・ケガ対処法 : 健康保険は払えば得する
- 事故の対処法 : 交通規則を知っている?
- お礼・お詫び : 日本人は 1 回だけじゃない
- お願い : 保証人と推薦状
- 不正行為 1 : たった1回が命取り
- 不正行為 2 : コピーは犯罪
- 社交術 1 : 日本人と上手に付き合うには
- 社交術 2 : 本音と建前
- ゲスト大会 : 日本人と話し合って日本を知ろう!
- 金銭感覚
- プロジェクトワーク (日本事情スキット大会) の準備
- プロジェクトワーク (日本事情スキット大会)

※ 予定は状況によって変更されることもあるので、授業中の連絡に注意すること。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的授業参加 (討論含む) 30%  
宿題 & 課題 20% (作文・発表準備を含む)  
小テスト 30%  
プロジェクトワーク発表 20%

※ 出席率80%未满是不合格とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テーマにそった読み教材やビデオがある場合は、必ず、予習してくること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在の日本に関する様々な知識を学びながら日本人、日本文化をより深く理解しましょう。異文化の中にありながら自分らしさを失わずに上手に異文化コミュニケーションをする方法を身につけ、今後の留学生活を楽しく有意義なものにしましょう。

# 日本事情

(Aspects of Japanese Society Today)

## キーワード /Keywords

表層文化, 深層文化, 考え方, 異文化間コミュニケーション, キャンパス生活適応, 地域社会への主体的参加

# 総合日本語A

(Integrated Advanced Japanese A)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学  
/Department 科

## 授業の概要 /Course Description

一般的な日本語でのコミュニケーション能力を向上させ、話す聴く読む書くの4技能を上級の中レベル以上に発達させることが、大学生活を円滑に送るために必須の日本語能力である。この授業では、日本語能力試験1級レベルの留学生を対象に、長文をできるだけ短時間で、かつ、正確に理解する訓練を繰り返し行い、また、単語・文の羅列ではなく、段落レベルのまとまった文章をある程度コントロールできるレベルの作文能力を身に着けることを目指す。

## 教科書 /Textbooks

池田隆介『総合日本語A』（北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室日本語教育プログラム）

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 論理的な文章の書き方 1 書き言葉
2. 論理的な文章の書き方 2 「は」と「が」の区別
3. 論理的な文種の書き方 3 名詞化
4. メールの使い方
5. 会話 1 : 依頼
6. 会話 2 : 断り
7. 発表 1 : プロジェクトの説明
8. 発表 2 : 資料の引用
9. 発表 3 : 事実と意見
10. 発表 4 : 音読試験
11. 発表 5 : レジユメを書く(1)名詞化
12. 発表 6 : レジユメを書く(2)インデント
13. 発表 7 : PowerPointの注意点
14. 発表 8 : 司会・進行
15. 発表 9 : ミニ発表会
16. 中間課題
17. 読解ユニット 1 「環境と経済」(1)読む前に
18. 読解ユニット 1 「環境と経済」(2)重要表現
19. 読解ユニット 1 「環境と経済」(3)精読
20. 読解ユニット 1 「環境と経済」(4)精読・理解チェック
21. 読解ユニット 2 「バイオマスエネルギー」(1)読む前に
22. 読解ユニット 2 「バイオマスエネルギー」(2)重要表現
23. 読解ユニット 2 「バイオマスエネルギー」(3)精読
24. 読解ユニット 2 「バイオマスエネルギー」(4)精読・理解チェック
25. 読解ユニット 3 「敬語に関する調査」(1)読む前に
26. 読解ユニット 3 「敬語に関する調査」(2)重要表現
27. 読解ユニット 3 「敬語に関する調査」(3)精読
28. 読解ユニット 3 「敬語に関する調査」(4)精読・理解チェック
29. プレゼンテーションのための質疑応答
30. 資料確認のための質疑応答

※各回の素材・内容・順番は変更する可能性がある。授業中の連絡に注意すること。

# 総合日本語A

(Integrated Advanced Japanese A)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 10%  
小テスト 10%  
宿題 10%  
作文・発表 10%  
口頭試験 10%  
中間試験 10%  
期末試験 40%

※出席率80%未満は不合格とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テストや授業のために必要な準備は、hibikino e-learning portalで連絡する。重要な連絡にはE-Mailも使う。それ故、moodleを閲覧する習慣、及び、メールチェックをする習慣を身につけておくこと。予定の確認作業は受講者の責任である。

## 履修上の注意 /Remarks

プレイスメントテストにおいて日本語能力試験1級レベルと認められた学生、または、「総合日本語基礎」に合格した学生のみを対象とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な表現も、論理的な表現も、繰り返し使用するほどに運用の力は向上していく。この授業は論理的な日本語表現の基礎になる部分を学ぶ貴重な機会となるので、積極的に授業に参加してほしい。

## キーワード /Keywords

上級日本語、書き言葉、アカデミックジャパニーズ、環境工学系読解教材、プレゼンテーション

# 総合日本語B

(Integrated Advanced Japanese B)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学  
/Department 科

## 授業の概要 /Course Description

「総合日本語B」では、日本語能力試験1級レベルの留学生を対象に、複雑な状況、緊張感を伴う場面においても、最低限のタスクを遂行できる会話能力を養成し、また、段落レベルのまとまった文章をある程度コントロールしながら運用する訓練を繰り返し行っていく。この授業を通じて、日本語を使って積極的に情報発信を行い得る能力と、積極的に問題提起を行える態度を養成することで、日本語を「運用」できる範囲を広げていくことが、受講生の主な目的となる。

## 教科書 /Textbooks

池田隆介『総合日本語B』（北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション / 授業のルール
  2. 作文1: 懸賞論文とは
  3. 作文2: 作文の構成1 段落
  4. 作文3: 作文の構成2 起承転結
  5. 作文4: 文の首尾一貫性
  6. 作文5: 接続表現
  7. 作文6: 引用
  8. 作文7: 作文発表会(1)
  9. 作文8: 作文発表会(2)
  10. ディクテーション
  11. 会話1: 提案する
  12. 会話2: 「お金」の交渉
  13. 討論1: 討論会とは
  14. 討論2: 情報伝達・方法説明の表現
  15. 討論3: 事実・意見の主張
  16. 討論4: テーマを決める
  17. 討論5: 積極的な聞き取り&質問
  18. 討論6: 資料の整理
  19. 討論7: 様々な意見をまとめる
  20. 討論8: 討論会
  21. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(1)読む前に
  22. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(2)VTRを見ながら内容を理解する
  23. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(3)重要表現
  24. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(4)精読
  25. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(5)精読・理解チェック
  26. 読解ユニット2 『知的資産を保存せよ』(1)読む前に
  27. 読解ユニット2 『知的資産を保存せよ』(2)重要表現
  28. 読解ユニット2 『知的資産を保存せよ』(3)精読
  29. 読解ユニット2 『知的資産を保存せよ』(4)精読・理解チェック
  30. 読解ユニット2 『知的資産を保存せよ』(5)調査報告
- ※読解ユニットの素材・内容は変更する可能性もある。授業中の連絡に注意すること。

# 総合日本語B

(Integrated Advanced Japanese B)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 10%  
小テスト 10%  
宿題 10%  
作文 10%  
討論会 10%  
中間試験 10%  
期末試験 40%

※出席率80%未満は不合格とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テストや授業のために必要な準備は、hibikino e-learning portalで連絡する。重要な連絡にはE-Mailも使う。それ故、moodleを閲覧する習慣、及び、メールチェックをする習慣を身につけておくこと。予定の確認作業は受講者の責任である。

## 履修上の注意 /Remarks

プレイスメントテストにおいて日本語能力試験1級レベルと認められた学生、または、「総合日本語A」に合格した学生のみを対象とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

やや専門的な内容の日本語資料を正確に理解し、さらに、それを周囲に伝達できる能力を育成するための授業である。教員の指示を待つだけでなく、自分から積極的に問題提起をし、議論を進めていく積極的な姿勢の学生を歓迎する。

## キーワード /Keywords

上級日本語、文レベルから段落レベルへ、情報発信、討論、ディクテーション、作文



# 技術日本語基礎

(Introduction to Technical Japanese)

担当者名 /Instructor 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

## 授業の概要 /Course Description

主に、環境工学と情報技術に関するテーマを扱った放送番組や新聞記事など、本工学部の全4学科に対応する内容の教材を扱いながら、理系の語彙増強と書き言葉の表現能力および聴解力の向上を目指す。

<主な目的>

- (1)理系語彙増強
- (2)説明文の文構造、段落構造、文体、表現の特徴の把握
- (3)複段落単位の説明文の記述
- (4)説明文を要約し複段落で口頭説明

## 教科書 /Textbooks

『技術日本語への架け橋 (2011年度改訂版)』水本光美・池田隆介 (北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室・日本語教育プログラム, 2011) - 授業で配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○DVD『HAYABUSA Back to the Earth』はやぶさ大型映像制作委員会(有限会社ライブ 2011年)。詳細は授業中に説明する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Orientation & 北九州エコタウン 1
- 2 北九州エコタウン2・改まったスタイル 1-1
- 3 WTCビル崩壊の謎・改まったスタイル1-2
- 4 改まったスタイル2・段落構成
- 5 絶滅した動物を蘇らせる
- 6 二酸化炭素隔離技術 1 : 様々な二酸化炭素隔離研究
- 7 二酸化炭素隔離技術 2 : 海洋隔離のプロセス・改まったスタイル 3
- 8 引用・脚注・参考文献
- 9 植物で土壌を蘇らせる
- 10 植物で土壌を蘇らせる (復習課題)
- 11 ロボット世界1: ロボットの用途
- 12 ロボット世界2: 人間型ロボット
- 13 はやぶさの挑戦 1 : はやぶさの偉業と旅の道筋
- 14 はやぶさの挑戦 2 : イオンエンジンの開発とイトカワ着地
- 15 はやぶさの挑戦 3 : 様々な困難を克服して地球帰還

- ※ 予定は変更されることもあるので、授業中の連絡に注意すること。
- ※ 試験期間中に、期末試験を行う。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%  
宿題 30%  
小テスト 20%  
期末試験 30%

※ 出席率80%未満は不合格とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱うビデオは、「留学生のホームページ」にアクセスして、必ず予習してくることが必要である。  
URL: <http://lang.is.env.kitakyu-u.ac.jp/~nihongo/>  
詳細は別途配布の「授業概要」を参照。

# 技術日本語基礎

(Introduction to Technical Japanese)

## 履修上の注意 /Remarks

- 1 留学生のうち、「総合日本語A」または「総合日本語B」に合格した学生対象の専門技術日本語入門コースである。それ以外の受講希望者に関しては日本語担当教員からの許可を得ること。
- 2 Hibikino e-Learning Portal (moodle)への登録必須。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが工学部で専門分野や環境問題に関する知識を得るために最低知っていただかなければならない理系の基礎的で、一般的な語彙やレポートや論文に必要な表現法を学びます。また、一般の成人向け科学番組を視聴し内容を理解ことにより、アカデミック聴解力を養います。予習や宿題が重要な授業ですので、十分な準備をして、授業に臨んでください。

## キーワード /Keywords

環境工学, 情報技術, 科学番組, 理系語彙増強, 表現力, 書き言葉, 聴解能力向上

# ビジネス日本語

(Business Japanese)

担当者名 /Instructor 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期/2学期 /1st/2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 第1学期、第2学期とも3年次生から受講可能です。

## 授業の概要 /Course Description

大学卒業後に日本国内の企業、あるいは母国の日系企業で活躍したいと希望している留学生のための上級日本語レベルの授業である。日本企業への就職を希望する留学生には、専門知識や技術のみならず高度な日本語コミュニケーション能力が求められている。この授業では主に就職活動に必要な日本語表現を、言語の4技能「聴く」「話す」「読む」「書く」などのトレーニングを通し、現場で即座に生かせる運用能力を育成する。

## 教科書 /Textbooks

1. 教科書は最初の授業で知らせる
2. その他、適宜授業中に配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Web : 『留学生のためのページ』 <http://lang.is.env.kitakyu-u.ac.jp/~nihongo/>

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ①オリエンテーション ②就活に求められる日本語能力
- 2 己を知る：自己分析, 自己評価, 就活プラン1 ( 企業が求める日本語能力・就職活動の流れ )
- 3 己を知る：自己分析, 自己評価, 就活プラン2 ( 効果的な自己分析・キャリアプラン )
- 4 業界・企業を知る：企業選びへの業界調査
- 5 情報収集, 問い合わせの日本語 ( 敬語 ) & マナー1：問い合わせ方法
- 6 情報収集, 問い合わせの日本語 ( 敬語 ) & マナー2：資料請求葉書とメール
- 7 就職筆記試験: Web, SPI, CAB/GAB & 一般常識
- 8 己を知る：自己PR, 志望動機, 将来設計など
- 9 就活アクション：履歴書&エントリーシート 1 ( エントリーシートの基本常識と書き方 )
- 10 就活アクション：履歴書&エントリーシート 2 ( 履歴書, 送付状, 封筒の書き方 )
- 11 就活アクション：会社説明会・セミナー参加
- 12 就活アクション：面接 1 ( 面接のマナーとよく聞かれる質問 )
- 13 就活アクション：面接 2 ( 回答のポイント・面接シミュレーション )
- 14 プレゼンテーションの準備
- 15 プレゼンテーション

※ この授業計画は状況に応じて随時変更する可能性もある。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

1. 積極的授業参加 20%
2. 宿題 & 小テスト 35%
3. 期末会話試験 20%
4. 期末プレゼンテーション 25%

※出席率80%未満は不合格とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に指示する。

## 履修上の注意 /Remarks

1. 履修希望者は、「総合日本語A」「総合日本語B」「技術日本語基礎」のうち3単位以上を取得しておかなければならない。
2. 受講生は、Hibikino e-Learning Portal (moodle) に登録する必要がある。

# ビジネス日本語

(Business Japanese)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業後、日本企業への就職を考えている留学生の皆さん、就職活動をし社会人となるために、自分の日本語能力に自信がありますか。適切な敬語を使って話したり、書いたりすることに対する準備はできていますか。昨今の就職難の状況下では、就活時期（3年生の後期から）が始まってから就活準備を開始するのでは遅すぎます。就活時期以前の出来るだけ早期（遅くとも3年生の夏休み前まで）に、しっかりと自己分析・企業研究をし、かつ、適切な日本語での表現力を身につけておくことが肝要です。この授業では、日本の就職活動やビジネス場面における社会人としての活動について、様々な知識とともに必要とされる上級の日本語実践能力を育成します。一緒にがんばってみませんか。

## キーワード /Keywords

高度なコミュニケーション能力, 就職活動, 敬語&マナー, 書類作成, 面接, ビジネス場面

# 数学 ( 補習 )

(Mathematics)

担当者名 荒木 勝利、大貝 三郎、藤原 富美代  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 0単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

※お知らせ/Notice 4月5日の基礎学力確認テストの結果により、受講対象者であるかを通知します。受講対象者はこの補習科目の最終判定に合格にしない限り、「微分・積分(エネルギー循環化学科・機械システム工学科・建築デザイン学科・環境生命工学科)」、または「解析学I(情報メディア工学科)」の単位を修得できません。

## 授業の概要 /Course Description

- ・微分と積分の基本的な考え方について理解し、簡単な微積分の計算や応用問題に活用できるようにする。
- ・数学に関する基礎的な問題について、自分で問題を理解し、解析し、思考発展させる能力を伸ばす。

## 教科書 /Textbooks

教科書は使用せずにプリントを配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 数と式
- 2 方程式
- 3 いろいろな関数とグラフ (1)
- 4 いろいろな関数とグラフ (2)
- 5 いろいろな関数とグラフ (3)
- 6 微分 (1)
- 7 微分 (2)
- 8 微分 (3)
- 9 指数関数と対数関数 (1)
- 10 指数関数と対数関数 (2)
- 11 指数関数と対数関数 (3)
- 12 三角関数 (1)
- 13 三角関数 (2)
- 14 微分 (4)
- 15 微分 (5)
- 16 微分 (6)
- 17 微分 (7)
- 18 微分 (8)
- 19 微分 (9)
- 20 積分 (1)
- 21 積分 (2)
- 22 積分 (3)
- 23 積分 (4)
- 24 積分 (5)
- 25 積分 (6)
- 26 積分 (7)
- 27 積分 (8)
- 28 積分 (9)・期末試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

演習 20%  
中間・期末試験 80% 中間試験は各分野の授業の終了後に実施する。  
ただし、合格には8割以上の出席を必要とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校「数学I」、「数学II」、「数学III」の教科書などを復習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

クラス別により授業内容を変更する予定である。詳細については開講時に連絡する。

# 数学 ( 補習 )

(Mathematics)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数学の勉強では積み重ねが重要です。高校で学んだ数学についてよく復習して、大学の数学科目および専門科目での学修で必要となる数学的な思考法と計算力を身につけてください。

## キーワード /Keywords

# 物理 ( 補習 )

(Physics)

担当者名 /Instructor 平山 武彦、衛藤 陸雄、池山 繁成

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 0単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

※お知らせ/Notice 4月5日の基礎学力確認テストの結果により、受講対象者であるかを通知します。受講対象者はこの補習科目の最終判定に合格にしない限り、「物理実験基礎」の単位を修得できません。

## 授業の概要 /Course Description

多くの工学基礎科目および専門工学科目を受講する上で必要不可欠な「力学・熱・電気」について学習する。また、物理的思考力や応用力を養うため、各回の講義の後に演習を行う。

## 教科書 /Textbooks

高校で使用した物理の教科書、又は 啓林館 高等学校教科書 「物理I」, 「物理II」

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

センサー物理I・II(啓林館)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入, 運動の表し方
- 2 速度と加速度
- 3 いろいろな力と運動の法則(1)
- 4 運動の法則(2)
- 5 運動の法則(3)
- 6 力のつりあいとモーメント
- 7 中間試験I, 問題の解説
- 8 仕事
- 9 力学的エネルギー
- 10 運動量と衝突
- 11 等速円運動, 慣性力と万有引力
- 12 単振動
- 13 熱(1)
- 14 熱(2)
- 15 熱(3)
- 16 中間試験II, 問題の解説
- 17 電場とクーロンの法則
- 18 電位
- 19 コンデンサー
- 20 直流回路(オームの法則)
- 21 キルヒホッフの法則
- 22 中間試験III, 問題の解説
- 23 磁場と電流
- 24 ローレンツ力
- 25 電磁誘導の法則
- 26 交流(1)
- 27 交流(2)
- 28 期末試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト 20%  
中間試験I, II, III, 期末試験 80%  
ただし, 合格には8割以上の出席を必要とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回, 講義内容に関する確認テストを実施するため, 必ず予習と復習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

授業には, 必ず高校で使用した物理の教科書(教科書が無い場合は購入すること)とセンサー物理I・II(1冊)を持参すること。

# 物理 ( 補習 )

(Physics)

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業進度がとても速いので、緊張感を持って授業に臨んで下さい。また、物理を始めて習う人にはハンディがありますが、あなたのガンバリで必ず克服できます。そして、この授業で習得した自然科学の法則を物作りの工学に生かして下さい。

## キーワード /Keywords



# 化学 ( 補習 )

(Chemistry)

担当者名 /Instructor 溝部 秀樹

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 0単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
								○	○	○	○	○

※お知らせ/Notice 4月5日の基礎学力確認テストの結果により、受講対象者であるかを通知します。受講対象者はこの補習科目の最終判定に合格にしない限り、「化学実験基礎」の単位を修得できません。

## 授業の概要 /Course Description

大学で「化学」を学ぶために必要な基礎学力の向上を図る

## 教科書 /Textbooks

プリント配布、各自の高校化学I・IIの教科書

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、指示

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 物質の量、単位換算
2. 化学反応と熱①
3. 化学反応と熱②
4. 酸と塩基①
5. 酸と塩基②
6. 物質の状態変化①
7. 物質の状態変化②
8. 中間試験
9. 気体の性質①
10. 気体の性質②
11. 溶液の性質①
12. 溶液の性質②
13. 反応速度①
14. 反応速度②
15. 期末試験

## 成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40%  
 期末試験 40%  
 小テスト 20%  
 ただし、8割以上の出席を必要とする

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

## 授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

苦手な領域は、十分に復習すること

## 履修上の注意 /Remarks

「電卓」と「高校化学I・IIの教科書」を持参のこと

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「習ったのに忘れてしまった」「聞いたことはあるが、よくわかっていない」「そこはあまり習っていない」など、個人によって基礎の理解度が違うと思います。高校で習う「化学」のポイントをもう一度復習し、基礎学力を向上させることによって、大学で習う「化学」の中身を深めて下さい。

## キーワード /Keywords